

中間支援組織のあり方検討
に関するアンケート調査

平成25年 3 月

八尾市

<<内容>>

1. アンケート調査

- (1) つどい登録団体アンケート
- (2) 校区まちづくり協議会アンケート
- (3) 庁内関係課アンケート

2. 他都市の中間支援組織における取り組み事例

八尾市市民活動ネットワークセンター
「つどい」の充実に向けてのアンケート調査
【つどい登録団体】

<<目 次>>

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収結果	1
(4) 調査期間	1
(5) 集計結果について	1
II. 集計結果	2
1. 団体概要	2
(1) 設立年度	2
(2) 団体の種別	2
(3) 主な活動分野	3
(4) 活動拠点	4
(5) 活動頻度	4
(6) 予算規模	5
(7) 主な収入	5
(8) 専従スタッフの有無	6
(9) 主に活動されている方の年代	6
2. 団体代表としての考えや活動状況について	7
(1) 団体設立にあたっての課題(問1)	7
(2) 活動の“やりがい”を感じる時(問2)	8
(3) 代表として抱えている課題(問3)	9
(4) 代表として抱えている課題を解決するために行っている取組(問3)	10
(5) 団体の設立目的の達成状況(問4)	12
(6) 団体の設立目的の達成状況・その理由(問4)	13
3. 団体の活動状況や活動に関する課題について	18
(1) 団体の人材に関する課題(問5)	18
(2) 団体の人材に関する課題を解決するために行っている取り組み(問5)	19
(3) 団体に参加してほしい人材(問6)	21
(4) 広報や参加者に関する課題(問7)	22
(5) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている取組(問7)	23
(6) 情報発信手段(問8)	25
(7) 団体の運営に関する課題(問9)	26
(8) 団体の運営に関する課題を解決するために行っている取組(問9)	27
(9) 資金確保のためにしている活動(問10)	29
(10) 八尾市市民活動支援基金事業の利用状況	30
(11) 今後、力を入れたい取組(問12)	32

4. 「つどい」への期待・要望.....	33
(1) 「つどい」が果たす役割の重要度(問13)	33
(2) セミナーや相談について.....	34
(3) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について.....	35
(4) 活動にあたって必要となる資金の確保について(問19)	36
(5) 市民活動に関わる人材の育成について.....	37
5. 多様な団体との連携協力について.....	38
(1) 多様な団体との連携協力状況.....	38
(2) 地域活動団体の活動状況の認知度(問23).....	42
(3) 地域分権の取組の認知度(問24).....	42
(4) 地域活動団体との連携協力の必要性.....	43
(5) 地域活動団体との連携協力のために必要な取組(問26)	44
(6) 地域活動団体等と連携協力する場合に提供できること(問26)	45
(7) 行政との協働状況(問27).....	48
(8) 行政と協働して「良かったこと」「苦労したこと」「工夫したこと」、「協働しない理由」「協働できない理由」など(問27)	50
(9) 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見(問28)	53

1. 調査の概要

1. 調査の目的

八尾市では、平成16年に八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」を設置し、情報提供や相談、会議スペースや機材の貸出を通じて、市民活動の支援に取り組んできた。また、平成23年度から開始した八尾市第5次総合計画において、「地域分権」の考え方のもと、「みんなでつくる八尾」をまちづくりの目標の一つに掲げ、市民活動のより一層の活発化をめざしている。

上記の背景から、今後市民活動ネットワークセンター「つどい」の取り組みのより一層の充実を図るための調査研究を行うこととし、その一環として、「つどい」に登録している市民活動団体へのアンケート調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の登録市民活動団体

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 回収結果

配布数：272票

回収数：111票

有効回答数：110票（有効回答率 40.4%）

(4) 調査期間

平成24年9月28日（発送）～平成24年10月12日

(5) 集計結果について

「N＝」は当該設問の回答者数を表しており、回答割合を算出する際の母数である。なお、集計に当たっては、小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答割合の合計は必ずしも100%にはならない。

また、複数回答の設問では、回答割合の合計は100%を上回ることがある。

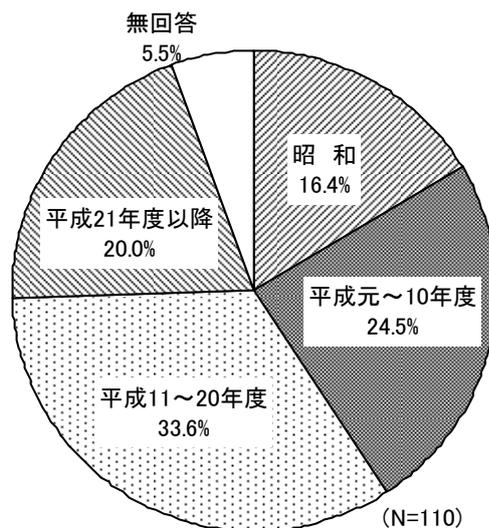
II. 集計結果

1. 団体概要

(1) 設立年度

・設立年度は、昭和が16.4%、平成元～10年度が24.5%、平成11～20年度が33.6%、平成21年度以降が20.0%と多様である。

図表 1 設立年度

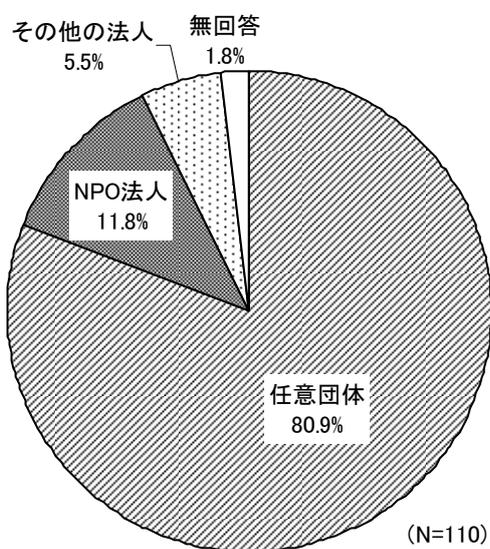


(2) 団体の種別

a) 団体の種別

・任意団体が80.9%を占めている。NPO法人は11.8% (13団体) である。

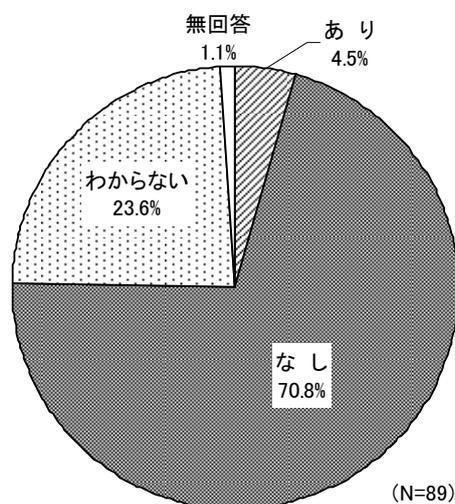
図表 2 団体の種別



b) NPO法人の法人格の取得意向

・任意団体のうち、NPO法人の法人格の取得を考えているのは4.5% (4団体) である。

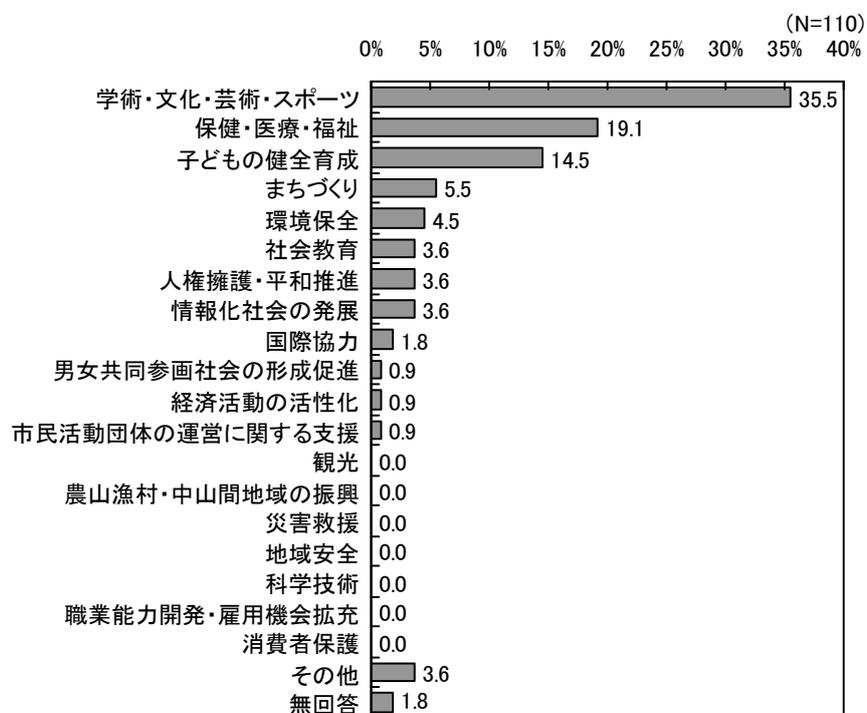
図表 3 NPO法人の法人格の取得意向(任意団体ベース)



(3) 主な活動分野

・「学術・文化・芸術・スポーツ」が35.5%と最も多く、次いで「保健・医療・福祉」19.1%、「子どもの健全育成」14.5%となっている。観光など7分野をあげる団体はみられない。

図表 4 主な活動分野



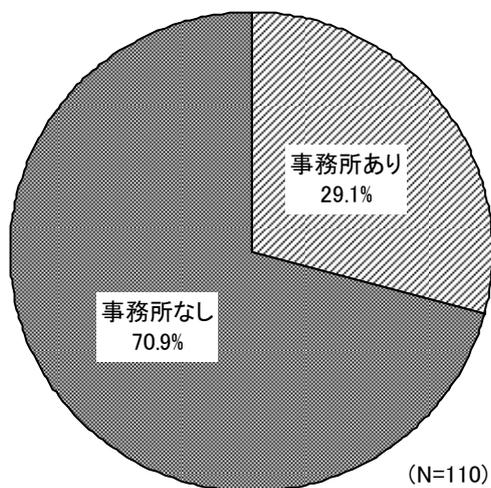
【「その他」の回答内容】

- ・ 良い人間関係の心づくり
- ・ 包括的支援組織

(4) 活動拠点

・事務所を持っている団体は29.1%となっている。

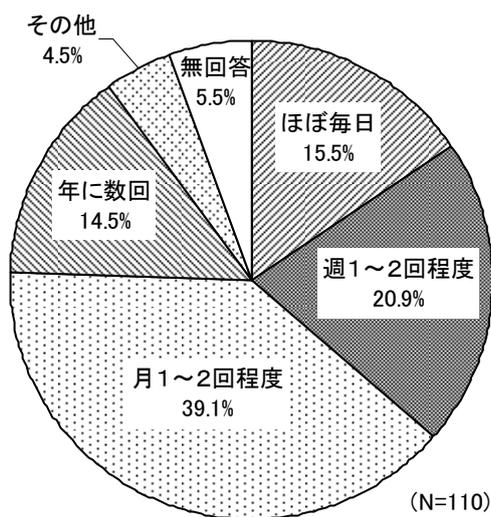
図表 5 活動拠点



(5) 活動頻度

・「月1～2回程度」活動している団体が39.1%と最も多く、次いで「週1～2回程度」が20.9%、「ほぼ毎日」が15.5%と多様である。

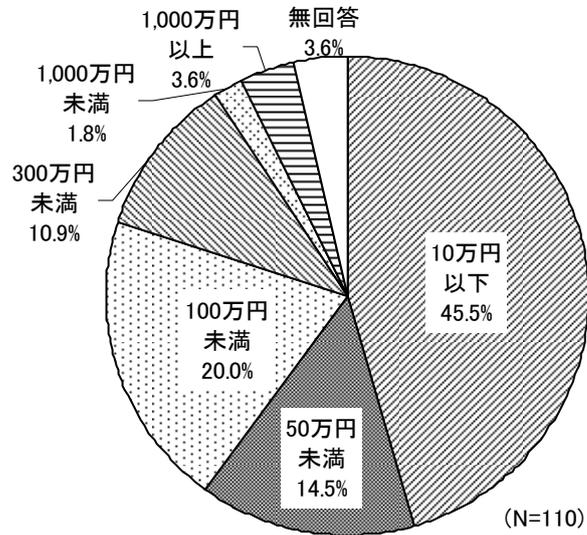
図表 6 活動頻度



(6) 予算規模

・「10万円以下」の予算で活動している団体が45.5%となっている。

図表 7 予算規模(2011年度)

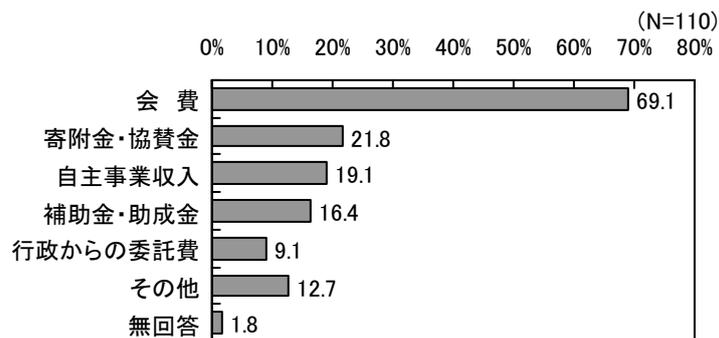


(7) 主な収入

・「会費」が69.1%と最も多く、次いで「寄附金・協賛金」が21.8%、「自主事業収入」が19.1%となっている。

・また、「その他」のうち、3団体が「収入はない」と回答している。

図表 8 主な収入(3つまで回答)



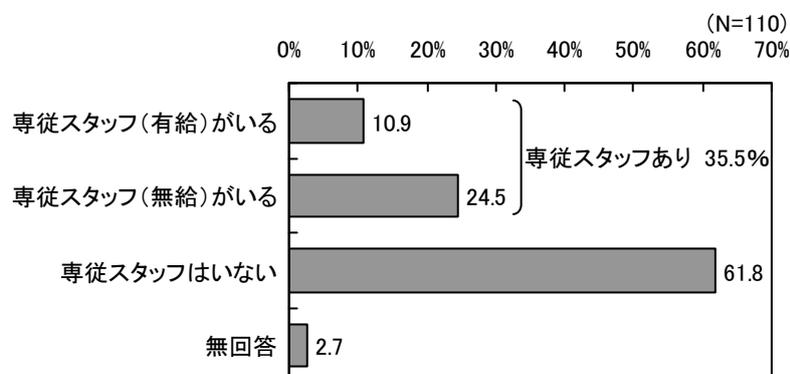
【「その他」の回答内容】

- ・アルミ缶回収など。
- ・お礼。
- ・謝金。
- ・参加者が適宜に払う（会費制ではない）。
- ・参加費。
- ・必要に応じ徴収。
- ・ボランティアの交通費程度。
- ・自己負担。

(8) 専従スタッフの有無

・専従スタッフがいる団体(有給もしくは無給)は35.5%であり、専従スタッフがない団体が61.8%となっている。

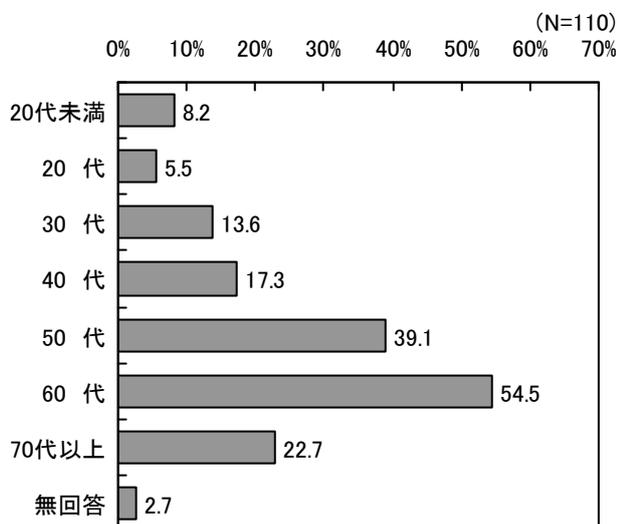
図表 9 専従スタッフの有無(複数回答)



(9) 主に活動されている方の年代

・「60代」が54.5%と最も多く、次いで「50代」が39.1%、「70代以上」が22.7%となっている。

図表 10 主に活動されている方の年代(2つまで回答)

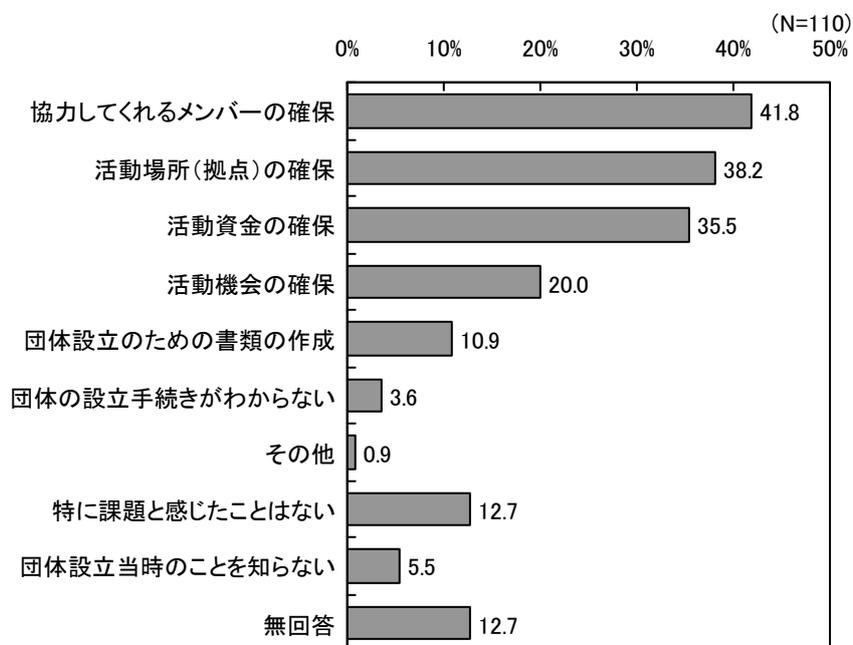


2. 団体代表としての考えや活動状況について

(1) 団体設立にあたっての課題（問1）

・「協力してくれるメンバーの確保」が41.8%と最も多く、次いで「活動場所(拠点)の確保」が38.2%、「活動資金の確保」が35.5%となっている。

図表 11 団体設立にあたっての課題(3つまで回答)



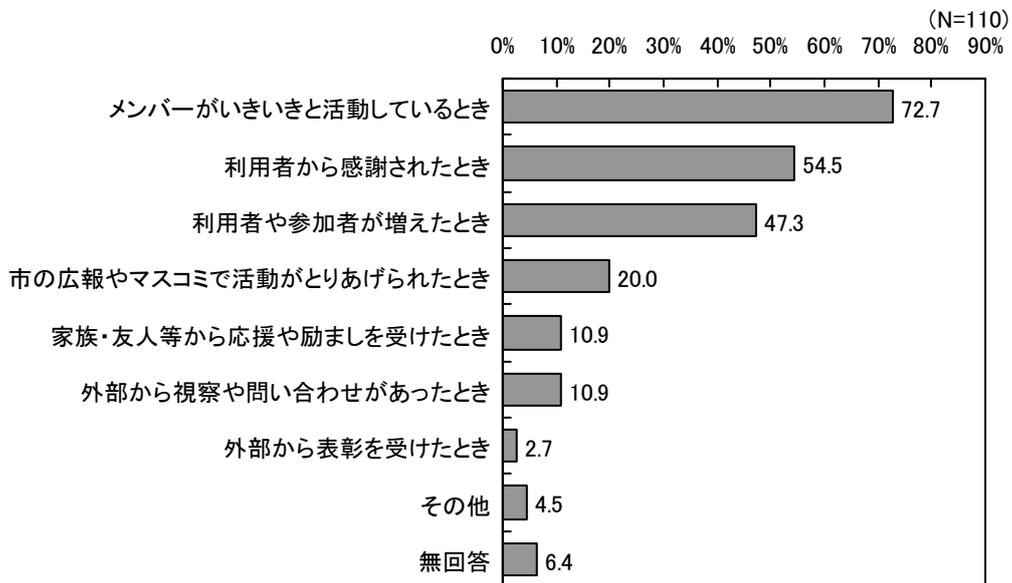
【「その他」の回答内容】

- ・ 利用会員の確保。

(2) 活動の“やりがい”を感じる時(問2)

・「メンバーがいきいきと活動しているとき」が72.7%と最も多く、次いで「利用者から感謝されたとき」が54.5%、「利用者や参加者が増えたとき」が47.3%となっている。

図表 12 代表として、活動の“やりがい”を感じる時(3つまで回答)



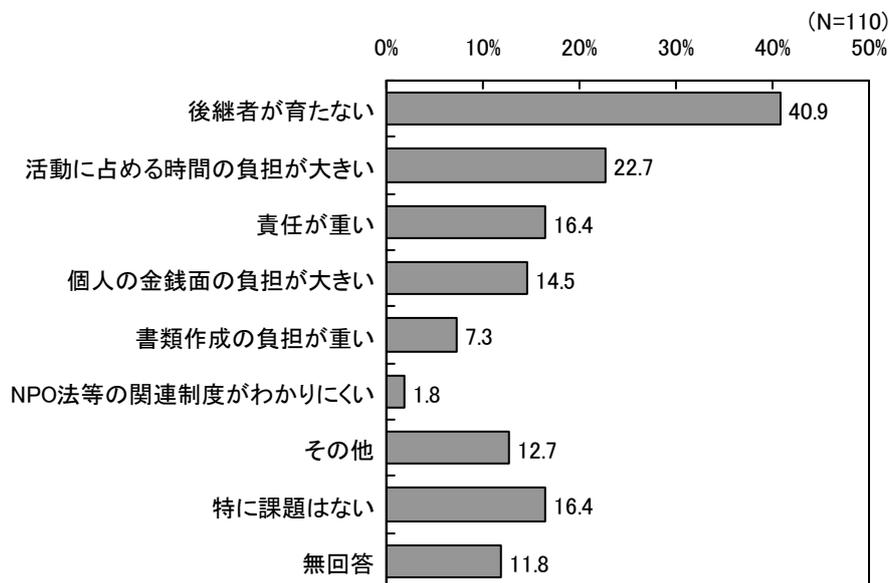
【「その他」の回答内容】

- ・ ネットワークが広がる時。
- ・ 里山所有者から喜ばれた時。
- ・ 園児たちの輝かしい未来への希望と大きな夢を掴み取る手助けになると思うと、やりがいを感じる。
- ・ 前例のない課題に取り組んでいる実感。

(3) 代表として抱えている課題（問3）

・「後継者が育たない」が40.9%と最も多く、次いで「活動に占める時間の負担が大きい」が22.7%、「責任が重い」が16.4%となっている。

図表 13 代表として抱えている課題(3つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・ 活動場所の確保。
- ・ 活動場所の確保と機会。
- ・ 参加者集め。
- ・ メンバーが増えない。
- ・ 会員の増強化。
- ・ 年齢層が高いので将来が不安。
- ・ ボランティア募集。
- ・ 広報のチラシ配布方法。
- ・ 情報の共有。
- ・ 時間がない。
- ・ 市などの公的支援がほしい。
- ・ NPO法人にするのが煩わしい。

(4) 代表として抱えている課題を解決するために行っている取組（問3）

- ・代表の抱える大きな負担に対し、スタッフと役割を分担する、ボランティアなどから協力を得ることなどにより、負担の軽減を図っている。
- ・スタッフ・会員の確保に力を入れる団体や地域住民や若者の参加を促進している団体が多い。

【役割分担による負担の分散】

- ・誰にでもできるようなことは、役員以外の人にも1つずつでも頼むようにしている。
- ・文章の書けそうな方に文章作成をお願いする（ただし、必ずしも必要水準を満たした原稿ができるかわからないことが課題）。
- ・できるだけ自分たちの力で責任を持って仕事をしてもらう。
- ・スタッフに協力を頼んで仕事にやりがいを見出して頂きたく、いろいろなことにチャレンジしてもらっている。
- ・運営委員会をつくり、活動分野ごとに役割を分担している。会計担当は2012年度よりボランティアで決定してもらい、実務負担の軽減。公的書類はNPO会員の士業の人に行ってもらっている。
- ・副会長5人を置いて、会長の負担が重くならないようにする。
- ・折をみて経験者に声をかけている。
- ・スタッフで仕事の分担を図る。
- ・会への帰属意識を高めることや、エゴアイデンティティを持ってもらうよう、常に役員に伝えている。
- ・ネットワーク先への協力依頼。
- ・時間の負担については担当を分担してもらっている。
- ・書面上の組織や役割分担は出来上がっている。各担当者は毎回活動時、できるだけ参加協力願いたい。野外活動であるから、けが人が出ないように心掛ける。ストレッチ体操、登山注意事項説明、スポーツ保険入会勧誘。後継者、新入会者に楽しく元気で参加続けられるよう、コミュニケーションを充実させる。

【スタッフ・会員の確保】

- ・大阪ボランティア協会のインターネットでの紹介、ボランティア募集の広報活動。
- ・市政だよりなどによる会員募集。
- ・活動を通じてより多くの方に当団体を知って頂き、その中から協力者や後継者が出てきてくれればと考えている。

【地域住民や若者の参加促進】

- ・地域の方の協力、援助。
- ・若年層を引き込むために当地の中学生などに働きかけるため、町会にお願いしている。
- ・夜に活動にする。
- ・若手への働きかけ。
- ・若い年齢層の入会を勧めている。

【金銭的な負担の軽減】

- ・寄付を募っているが、難しい。
- ・現在自己負担で賄っているが、会費の徴収も必要かと考えている。
- ・助成金の申請。賛助会員については考えているが、まだ取り組んでいない。
- ・インストラクターの資格を取得して、収入を得られる事業にすることをめざしている。
- ・収益事業の確立に向けての活動。
- ・NPO法人化により役員などの負担を有償化し、利用者と役員を線引きする。

【NPO法等関連制度の理解】

- ・講座参加で理解していく。

【情報発信】

- ・メディアやウェブサイトを利用した広報。参加者へのイベント告知願いと運営の協力願。マイナスを出さない企画、アピール性・魅力ある企画づくり。
- ・広報掲載、ホームページ作成。
- ・発表やチラシで広報活動をしている。
- ・市政だより、ホームページなどにより広報。
- ・PR活動。
- ・ホームページを通じたの活動の案内、プロジェクト事業への参加促進。
- ・「つどい」誌の市民団体紹介欄への活動予告掲載およびブログ、FMちゃお関連ニュースの報道。

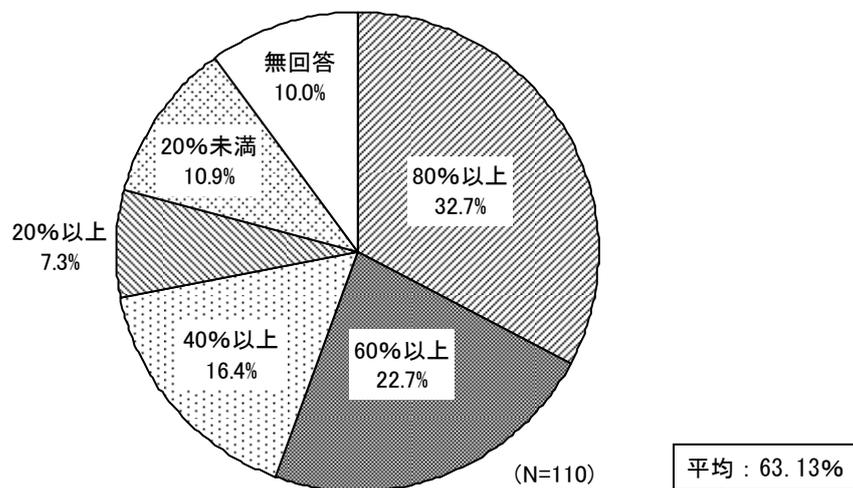
【その他の取り組み】

- ・議事録作成、会議、伝言、声かけ。
- ・史跡の見学会などを開催。
- ・市民活動団体との情報交換を目的とした交流イベント。
- ・衣装の手作り、練習場所の確保。
- ・PCでの対応とメール対応。
- ・本質的なテーマ（課題）に、日常を含め実直に包括的に取り組めるシステムの構築。
- ・活動・行動回数を減らす。

(5) 団体の設立目的の達成状況 (問4)

- ・「80%以上」が32.7%と最も多く、次いで「60%以上」が22.7%となっている。
- ・平均値は63.13%である。

図表 14 団体の設立目的の達成状況



(6) 団体の設立目的の達成状況・その理由（問4）

- ・達成状況が高い団体では、その理由として、活動の目的が達成されていることだけでなく参加メンバーの参加状況がよいこと、満足度が高いことなども挙げられている。
- ・一方、達成状況が低いところでは、人材が不足し思うような活動ができていない、活動が認知されていないといった理由が挙げられている。

【達成率80%以上】

●参加者の満足度が高い

- ・現在会員ともども満足しており、これを今後も進めてゆく。
- ・ボランティアの要請にだいたい応じている。
- ・視覚障がいというハンディを持っていても、入会してみんなと会活動に参加してコミュニケーションを交わし、充実した生活を送っておられる。
- ・充実感がある。
- ・不特定多数の集まりを建前としているので（ある程度の常連は自然にできているが）、複数のメンバーが集まり会話が成立している。
- ・常に100名以上の子どもたちがいきいきと楽しんでいる。
- ・子どもを含め、関係者が一所懸命頑張ってくれている。
- ・日常活動はスムーズに行っています。スタッフの協力、育成会の協力がよい。
- ・助け合って活動できている。
- ・会員が着実に増え、内容も充実している。
- ・コンスタントな活動状況。
- ・メンバーの参加率。

●活動目的が達成されている

- ・本会は福祉ボランティアグループが集まり、市民ボランティア活動の啓発と地域福祉を推進する目的で設立されており、個々のグループがそれぞれ福祉ボランティアとして活動しており、本会はそれを支援している。
- ・元々60歳以上の人を対象で、趣味を通じて健康保持を目的として活動してきたので、その目的は十分に果たされたと思う。
- ・参加メンバーは十分目的を達成している。課題図書も読み込まれ、今の社会状況を楽しく話し合っている。
- ・八尾市で活動するグループが集まって演技発表を2年に1回行っており、隔年で体験による普及活動もずっと続いているから。
- ・年1回の定期コンサートや、病院や福祉施設などでのコンサートをすることにより活動目標を達成していると思う。
- ・活動する目的が一応達成されたから。
- ・高齢者の生きがいとしては最高。他の人に与える影響が大きい。考え方が前向き、健康的になる。
- ・適度なマジックの依頼があり、活動仲間の発表の場として活用できている。
- ・図書館や学校、幼稚園など依頼が増えて、人形劇を見て喜んでもらっている。

- ・市役所の協力によって交換学生や美術コンテストを数十年間継続して行っている。
- ・母子の交流の手助け（子育て支援）拠点となってきたと感じた。母子で楽しいと思って利用してくれている。
- ・年々対象を広げ事業化できている。前からある事業は安定している。
- ・大阪府や八尾市との事業連携、新企業への支援のスタート。

【達成率60%以上】

●活動目的は達成されているが課題もある

- ・保護者の理解を得ながら選手たちの育成を目標にしているが、団員も増えたためなかなか共通認識を持つことが難しく、今後の課題である。
- ・支援チームの全国大会出場がまだ達成されていない。
- ・スピード（予定）は多少遅れ気味ではあるが、確実に推進している。

●活動が継続・拡大できている

- ・年月を経ての内容の充実。
- ・会員が80～90人となり、運営委員が役割分担して進めている。環境、経済、科学技術は専門家のボランティアの協力で活動している。子どもの健全育成はアロマキャンドルや菜の花プロジェクトで取り組んでいる。まちづくりは不十分、これからの分野。
- ・まだまだできることがあるように思う。
- ・初期の会員数に変動があっても維持している。
- ・設立が1983年で山を歩こうという団体が少なかったのと、八尾地区で珍しかったことや、役員や会員も若く活発に活動し入会者が多かった。今は各所で屋外活動登山グループがたくさんできたことと、趣味が多様化して参加者が減少した。会員数の移行も、最高200人ぐらいだったのが今は80～90人程度と減少した。会の存続を図り、低登山ハイキング程度の活動と、機関誌発行を継続するよう努めたい。
- ・会員が増えてきている。
- ・参加される方が定着してくれるようになった。
- ・活動できるメンバーは少ないが、年数回イベントなどやって、メンバーのいない地域へも活動の場が広がっている点。

●人材・場所の不足

- ・人数の不足感が大きい。
- ・個人の支援についてできる限り頑張っているが、スタッフの不足により思い通りのサービスが行えていないのではないかと考える。
- ・もう少し会員が増えることと、ボランティアコーチが増えることが足りない部分である。
- ・いつも同じメンバーで活動しているようで、若いメンバーを導入しないと今後の活動に不安がある。これまで以上に他方面への情報を発信しないといけないと感じている。
- ・会員がなかなか増えないが、現会員には満足感を得てもらっている。

●場所の確保

- ・場所の確保と機会をもっと確実に増やしたい。

●外部からの評価が高い

- ・保護者から感謝やお褒めの言葉を頂く。

【達成率40%以上】

●参加者の満足度が高い

- ・今メンバーが楽しく活動してくれているから。
- ・利用者同士の交流、悩み事を解決。

●活動が継続・拡大できている

- ・地区の清掃は80%以上達成、介護予防は40%以上達成。まだまだ将来的にみていかないと達成状況はわからないが、地区の介護予防への啓発はできていると思う。
- ・八尾市を広範囲に広げつつあり、隣の東大阪市、柏原市も会員仲間が増えている。
- ・毎回参加者が増えている。輪の広がり。目的の一つである「わ」づくり。それは輪であり和である。更に広がればよい。
- ・最多の時は月に2～3回(年12回)程度活動した。今年は2回(自粛した分を含む)。
- ・思ったよりイベントに積極的に参加してくれている。

●人材の不足

- ・月1回の学習会にそれぞれの事情で揃わないし、体調不良で脱退する者が出た。
- ・今より規模の大きい企画を実現するめ。活動回数活動人数を増やしたい。
- ・実務を中心に始めているが、今後の課題はいかにアクティブなメンバーを集めるかどうか。
- ・会員の数がまだ少ないので、参加者の増加を望んでいる。
- ・多くの加入者がありながら、参加者が少ない。
- ・里山保全活動はまだごくわずかの固定されたメンバーで動いている。会をもっと大きくして活動を広げるか、このままの状態ですべて通り進めていくか、迷うところである。もっと大きな会としていろんなことをやるには、これから理解者を多く得られるよう、自分たちで決する。
- ・困っている外国人やその家族への広報活動がまだまだできていない。
- ・それぞれに仕事があるため時間が取れない。外部からの呼びかけに参加できない時がある。メンバーが事情で辞めたりした時など。
- ・少人数ではあるが良い人間関係が築け、20年続いている。若い人の参加がなく、人員減少傾向にある。

●認知度が低い

- ・今の活動が今一つ広く知られていないことが課題としてある。

【達成率20%以上】

●活動の目的が達成できている

- ・設立当初の目標は会員同士の助け合いで、介護保険制度が発足するまでは80%以上の達成状況にあったが、現在は助け合い活動より介護保険を使える安心感で会員が減少し、現状の活動は20%になった。

●活動の目的が達成できていない

- ・アニマルセラピー活動の普及ができない。動物の力を借り、高齢者や障がいのある方を癒やしたいと思う気持ちがあるが、メンバーの協力不足もあり一般に受け入れてもらえない。アニマルセラピー活動をもっと知ってもらいたいと思います。毎月1回、犬の躰教室を行っている。自分自身も指導するが、専門の講師を招いている。経費が大。
- ・目的達成のためのアイテム（広報誌、地域通貨など）やネットワークは広がっているものの、「いきいきとしたまちづくり」からは仕組みづくりにおいても具体的な活動においても大きな隔たりがある。
- ・主に語学の勉強をしているが、あまり成果を出せていないように思う。
- ・紙芝居単独での実演より、他のものとの併用が多い。

●人材の不足

- ・季刊誌の80ページほどを維持していたが、今は40ページがやっと。特に小説の書ける人に入会してもらえたらと思っている。

【達成率20%未満】

●活動の目的が達成できていない

- ・最終目標は大きすぎるので、現時点で目の前の希望を100とするとこれぐらい。利用者がなかなか増えないので。
- ・まだまだ放置自転車が多く、私たちの活動だけで解決できる問題ではないため。

●事業が拡大できていない

- ・まだまだ金銭的に自立できていない。将来的にはスタッフも会員も安定した環境（働く環境、利用者の数など）をめざしている。

●人材の不足

- ・高齢化。
- ・活動する人数が少ないので、八尾市全部の老人ホームへ行きたいが、仕事もあり行けない。
- ・仕事で忙しく、時間がないから。
- ・若い会員が増えないことや、役員の高齢化による実行力が伴わない。ITに弱いなどが考えられる。
- ・結成当時は目標100%だったが、近年は入れ替えなどで会員数は減少している。若者との考えの差が少しあり、愛好者が少なく会員の若年が少ない。中高年化しつつある会員のため減少していくのが実態。後継者づくりが課題である。

●場所の確保

- ・活動の場の確保が難しい。

●認知度が低い

- ・当会活動へ一般の方の参加が少ない。活動内容周知のためのPRができてない。

【達成率無回答】

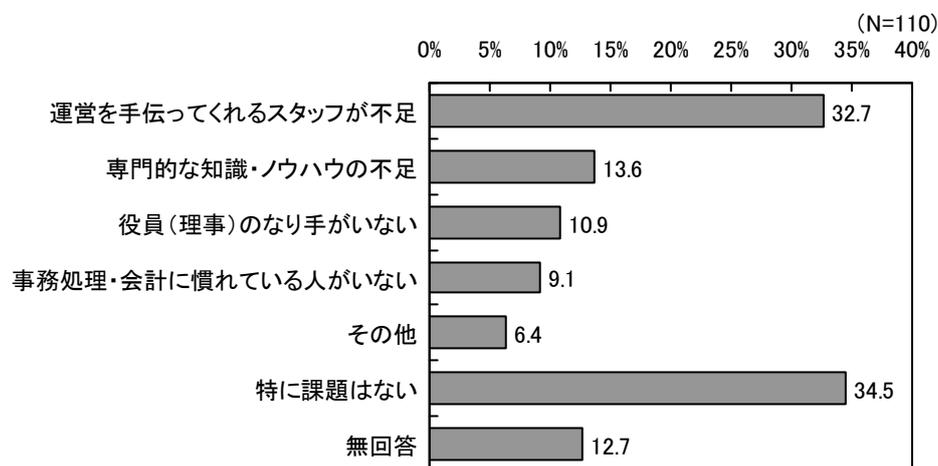
- ・会の掲げる目標について提案をする場や機会がある。目標の実現に向けて参考となるデータの作成ができた。
- ・当協議会は「茶の間のすみずみにいきわたる人権啓発」をスローガンに掲げ活動している。各地区福祉委員会での人権研修を実施し、地域に根ざした人権啓発を行っているが、数値で評価したことはない。

3. 団体の活動状況や活動に関する課題について

(1) 団体の人材に関する課題（問5）

・「特に課題はない」が34.5%と最も多く、次いで「運営を手伝ってくれるスタッフが不足」が32.7%、「専門的な知識・ノウハウの不足」が13.6%となっている。

図表 15 団体の人材に関する課題（2つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・メンバーの高齢化。
- ・若い人材に入ってほしい。
- ・年々会員が減少している。
- ・ボランティアの不足。
- ・広く活動できる人材。

(2) 団体の人材に関する課題を解決するために行っている取り組み（問5）

- ・人材の確保については、知り合いや関係者に声をかけるだけでなく、インターネットを使った募集、マスコミへの資料提供などのPR活動を行っている団体もある。
- ・人材の育成については、自身に役員や責任者を担当してもらうことで成長を促すという団体が多い。また、外部のセミナーなどにも参加している。
- ・不足する人材を確保するのではなく、外部の人材を活用して対応している団体もある。

【人材の確保】

- ・多方面に声をかけている。
- ・知り合いに声をかけている。
- ・ボランティア募集の広報活動。
- ・ボランティアを募集しているが集まらない。
- ・まず保護者などから担い手を探している。
- ・今利用している人たちへの呼びかけと、マスコミへの資料の提供。
- ・現役員に新たに役員になってくれそうな人材を探してもらっている。
- ・PR広報活動に基づく参加者募集。
- ・常にネットを張って募集している。
- ・若い人の入会促進を図る。登山経験者（リーダー担当）の新規入会者を知人を通して募る。

【人材の育成】

- ・順番に必ず1回は役員を経験する。任期は2年。できるだけ4年は継続する。
- ・パソコンやメールを駆使できるように努力している。
- ・順番に責任者になってもらって、その仕事に自覚を持ってもらう。
- ・数多くの経験を積むことに尽きると思う。
- ・何か一つ役職を持ってもらう。自分の計画（計画書）を出してもらう。
- ・他団体の活動への参加、セミナーなどの参加。
- ・月に1回、利用者スタッフ共に勉強会を開いている。
- ・研修があれば積極的に参加するようにしている。ボランティアの確保に動いている。
- ・コツコツと指導している。
- ・毎年講習会を開催しているが、自分の学習する根気が続くのが難しい点が大きいので、個々の自覚を待つのみ（私たちが強制できない）。

【外部人材の活用】

- ・外部にサポートを依頼。
- ・大きなイベントの時は地域の方へも手伝いをお願いしている。
- ・外部との連携も日常化。
- ・卒団生が戻ってきやすい雰囲気をつくる。OBの集まる機会をつくる。
- ・今は内部（会員）に頼っているので、外部の専門ボランティアを招聘したいが、当会に力がない。

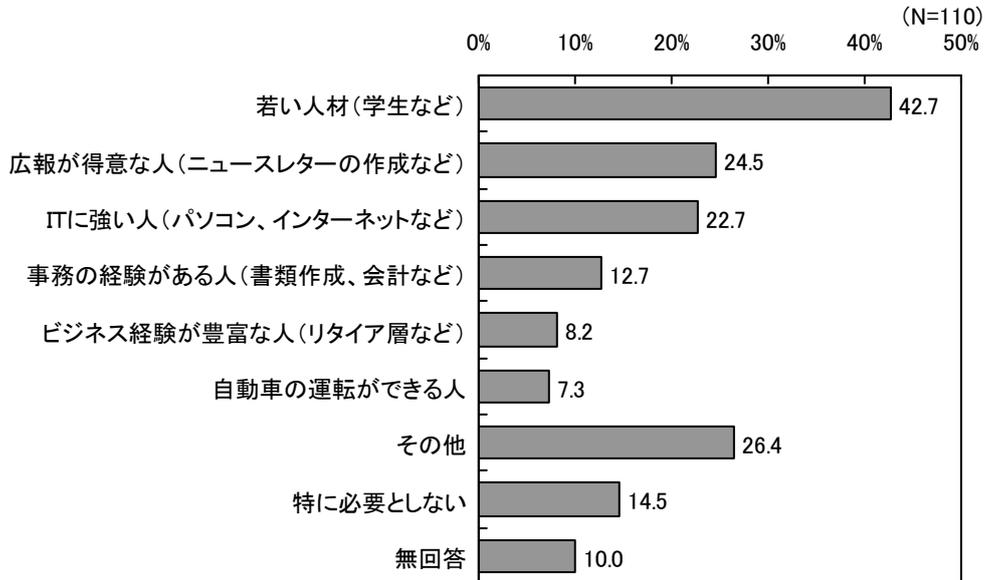
【その他】

- ・練習会の開催。
- ・理事が頑張っている。
- ・地道な活動。
- ・人と人がふれあうイベント、場所づくり。
- ・分担。

(3) 団体に参加してほしい人材(問6)

・「若い人材」が42.7%と最も多く、次いで「広報が得意な人」が24.5%、「ITに強い人」が22.7%となっている。
・「その他」として、専門的な知識・技能を持つ人材を求める声も多い。

図表 16 団体に参加してほしい人材(複数回答)



【「その他」の回答内容】

●専門知識・技能を持つ人材

- ・生演奏ができる人で、良識ある方。
- ・楽器の演奏、歌唱指導のできる人。
- ・音大卒のコーラスなどの指導できる人。
- ・ラグビー競技の知識。
- ・元介護家族、OB。
- ・体操経験のあるコーチ。
- ・登山経験者。
- ・寄付を取ってくる人がほしい。
- ・専門知識を持った若い人。
- ・人権意識の高い人。

●意欲・関心の高い人材

- ・絵本が好きで、読み聞かせができる人。
- ・好奇心、向上心のある人。
- ・ボランティア精神の旺盛な人。
- ・行動力のある人。
- ・息長く活動できる人。
- ・身軽に気持ちよく動いてくれる方。
- ・継続して活動に参加できる人。

- ・手話に興味のある人。
- ・犬を愛し、人・弱者を愛する人材。

●不問

- ・どなたでもOK。
- ・ボランティアして下さるなら、年齢や経験は問わない。
- ・誰でもよい。
- ・人材はいらない。参加するだけでよい。

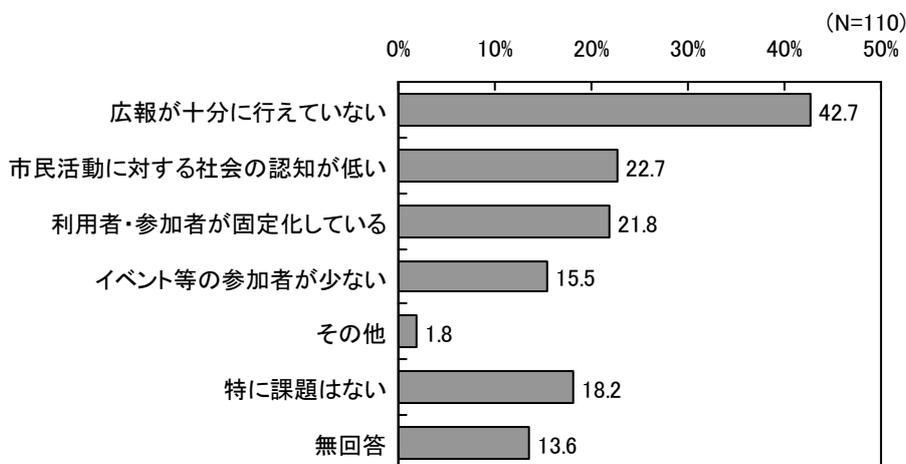
●その他

- ・時間に余裕のある人。
- ・30～50代の人材。
- ・40～50代の人。
- ・会員として入団してほしい。

(4) 広報や参加者に関する課題 (問7)

・「広報が十分に行えていない」が42.7%と最も多く、次いで「市民活動に対する社会の認知が低い」が22.7%、「利用者・参加者が固定化している」が21.8%となっている。

図表 17 広報や参加者に関する課題(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・参加者の交流をどう広げるか。
- ・広報が伝わらない理由として、私たちの活動を十分に理解してもらえていない点が多い。

(5) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている取組（問7）

- ・知人・友人などに対して、直接呼びかけるといった団体が多い。
- ・広報媒体としては、市政だよりへの掲載やチラシの配布、コミュニティ放送FMちゃおの放送などが活用されている。
- ・さまざまな人に興味を持ってもらい、参加が増えるよう事業内容を工夫している。

【知人・友人への呼びかけ】

- ・口コミの方が効果的である。
- ・声かけやチラシを配っている。
- ・会員に家族や友人とイベントに参加してもらえるように呼びかけている。
- ・会員が個々に知人に声をかけている（水呑地蔵尊、生駒、信貴山登山時）。
- ・会員による勧誘が功をなしている。
- ・知り合いにだけでも宣伝する。
- ・他の聴覚障がい者にイベントなどを紹介し、参加を呼びかけている。
- ・メンバーからの声かけ。

【市政だよりへの掲載】

- ・市政だよりなどの利用。
- ・市政だよりに記載してもらおうこと、各団体に呼びかけることのみ。
- ・市政だよりで広報してほしいが、書類審査が厳しい。もっと自由に情報の場がほしい。ホームページで会の情報は流すようにしている。
- ・「つどい」会報などでの広報。

【チラシやコミュニティ放送など多様なメディアの活用】

- ・チラシの配布手段の拡大、「つどい」への市民活動紹介やプログFMちゃおなどの利用。
- ・FMちゃおは毎月PRしている。
- ・パンフレット作成中。
- ・チラシ配布、紹介。
- ・公共施設などへのチラシ作成をしている（配布はまだ）。
- ・チラシを利用しているが、なかなか効果が出ない。
- ・あらゆる機会を利用してチラシを配るなど広報に努めている。それしかない。
- ・会で案内を作り配布している。
- ・図書館などに会報を置いてもらったり、会員からの紹介で会員を増やす。
- ・広報誌の発行を最近始めた。できるだけ多くの人に見てもらう。
- ・PR活動を強化すること。現在参加不参加を別にして、どのようなイベントをしているかをハガキによって案内している。
- ・広報に力を入れている。
- ・あらゆる手段を持って視覚障がい者団体の存在をPRしている。
- ・マスコミの活用。

- ・ネットワークセンター・行政・マスコミへの呼びかけ、資料の提供。
- ・IT化とネットワークによるバックアップ体制づくり。

【活動内容の工夫】

- ・いろいろな層（若年層、リタイア層、ファミリー層）向けのイベントを行って、認知を広げていくように活動している。
- ・小さなイベントなどに参加している。依頼があった施設には必ず訪問している。
- ・ボランティア活動展やボランティアお試し講座など、ボランティア活動やボランティアグループの啓発活動を実施している。
- ・長年の活動となってくる中でのマンネリ化の打破と新規プロジェクトへの取組。
- ・多くの人に興味を持ってもらえる研修内容の検討。

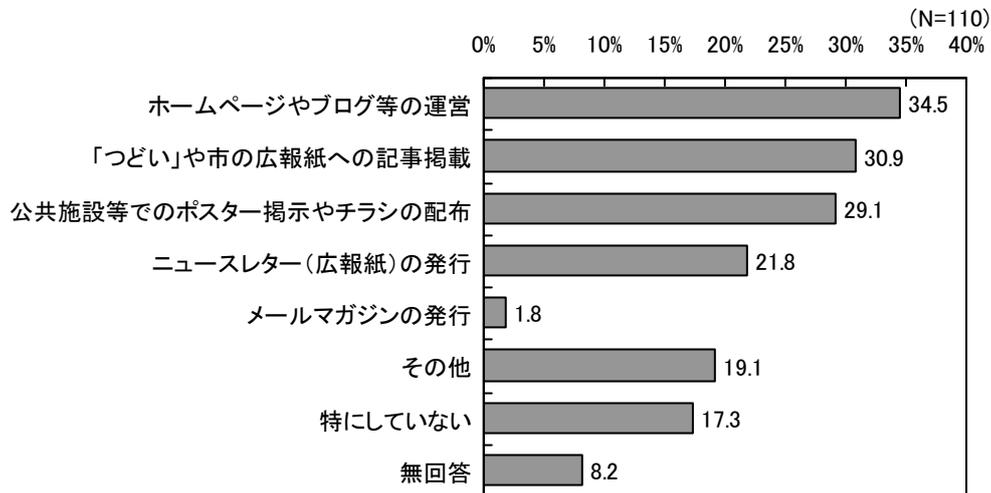
【その他】

- ・町会への働きかけ。
- ・市の助成金を利用して、広報や講演会などを開催予定。
- ・パソコンのメールでやり取りできる人材の発掘を心掛けている。現状は私一人が負担しているので、手が回らない。
- ・新規参加者の開拓。
- ・当法人では外国人の生活相談をしており、その生活相談をされた家族がボランティアをしてくれている。

(6) 情報発信手段 (問8)

・「ホームページやブログ等の運営」が34.5%と最も多く、次いで「「つどい」や市の広報紙への記事掲載」が30.9%、「公共施設等でのポスター掲示やチラシの配布」が29.1%となっている。

図表 18 情報発信の手段(複数回答)



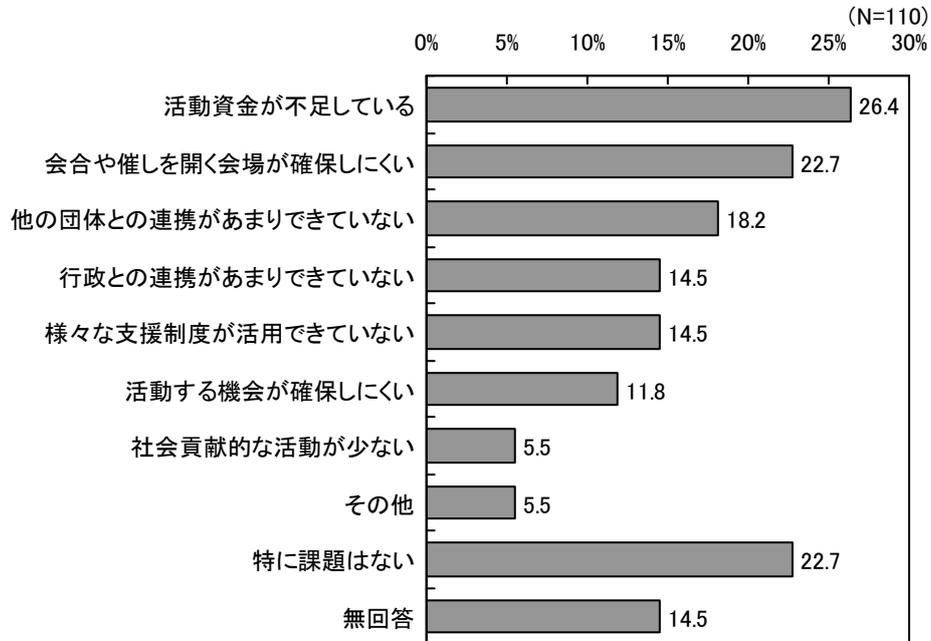
【「その他」の回答内容】

- ・ FMチャオ。
- ・ FMチャオ、メーリング。
- ・ ツイッター、フェイスブックなどのSNS。
- ・ 上部団体の広報紙およびホームページに掲載。
- ・ 活動報告書(毎春)。
- ・ 参加者に資料提供。
- ・ 行事案内。
- ・ 参加した人に年3回案内状。
- ・ 参加者に郵便でお知らせ。
- ・ 案内ハガキ、口コミ。
- ・ 会員の口コミ。
- ・ 季刊誌の発行。
- ・ 旬報の発行。
- ・ 新聞折込。
- ・ 各地のサークルを通して。
- ・ 環境フェスタ、子どもフェスタなどに出演。
- ・ 敢えて公的認知力を高めるべく、助成金の申請。

(7) 団体の運営に関する課題（問9）

- ・「活動資金が不足している」が26.4%と最も多く、次いで「会合や催しを開く会場が確保しにくい」が22.7%となっている。
- ・「特に課題はない」も22.7%となっている。

図表 19 団体の運営に関する課題（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・メンバーの広がりがない。
- ・集合してもらえない。何のためにみんなイベントをしているのかをそれぞれにわかってほしい。
- ・運営に関わりたい正会員が増えない。行政の担当課に限定してしまう（他にも関係あるのに）。
- ・もっと参加費を安くしたい。
- ・行政が拒否している。
- ・個人的事情。

(8) 団体の運営に関する課題を解決するために行っている取組（問9）

- ・活動資金の不足を補うため、各種助成金への申請や、バザー活動などによる資金集めといった取り組みが見られる。
- ・活動の場を確保するために、「つどい」をはじめとした施設を借りている。また、代表者の自宅を使っている例もある。
- ・他団体からの協力依頼への対応をしている団体や、他団体と連携が取れないか話し合っている団体の事例を見ることができる。

【活動資金の確保】

- ・市政だよりなど公文書の点字化などを行って資金を作っている。
- ・バザー活動などで資金を集めている。
- ・カンパ金。
- ・利用会員の獲得、助成金応募、寄付賛助金を募る。
- ・新規事業には助成金などへ申請。社会の問題を個人レベルで考える機会をつくる。
- ・各種助成金。
- ・助成金を利用し大変助かった。ボランティアで、資金も自分たちの会費ではあまりにもきつい。
- ・助成金の申請、つながりをつくる。

【活動の場の確保】

- ・早めの場所の確保。
- ・「つどい」の会議室を借りている。
- ・広報の手段、活動会場確保が全然できてない。現在はプリズムホールで借りている。福祉会館も空きがあれば利用。
- ・なかなか会場がないので、代表者の自宅で行っている。

【行政・他団体との連携】

- ・八尾市体育振興会などへの取組。
- ・他団体との提携。
- ・他団体との連携が取れないか、役員会で話し合っている。
- ・他団体の支援とアドバイスをすることでブレーンを広めている。
- ・他の地域への啓発、他の地域からの依頼に協力。
- ・行政に対してはアプローチするが、理解度が薄い。

【その他】

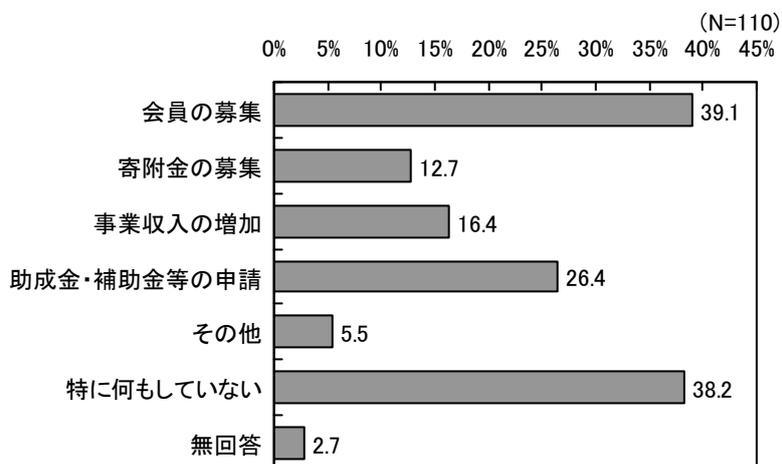
- ・個々への声かけ。
- ・会場（プリズムホール、ネットワークセンター、社会福祉協議会、町会）での呼びかけ、参加。
- ・駅前でのチラシ配布だけではなく、学校や一般の方への講習会などでの啓発活動も行っている。

- ・春の市民活動祭、秋のボランティア祭、全て参加している。「つどい」の小さなイベント全てに参加している。
- ・参加型演奏会。
- ・ミーティングの定例化、年会例会の計画、毎年会員へのニュース発刊（会員の近況など）。例会の定期化は必ず行っている。
- ・できるだけ情報を集める努力をしている。
- ・個人の健康管理に努めている。
- ・活動を行っていることの宣伝ができていない。
- ・今後の運営の仕方を考えている。

(9) 資金確保のためにしている活動（問10）

- ・「会員の募集」が39.1%と最も多く、「助成金・補助金等の申請」が26.4%となっている。
・一方、「特に何もしていない」も38.2%となっている。

図表 20 必要な資金を確保するためにしている活動(複数回答)



【「その他」の回答内容】

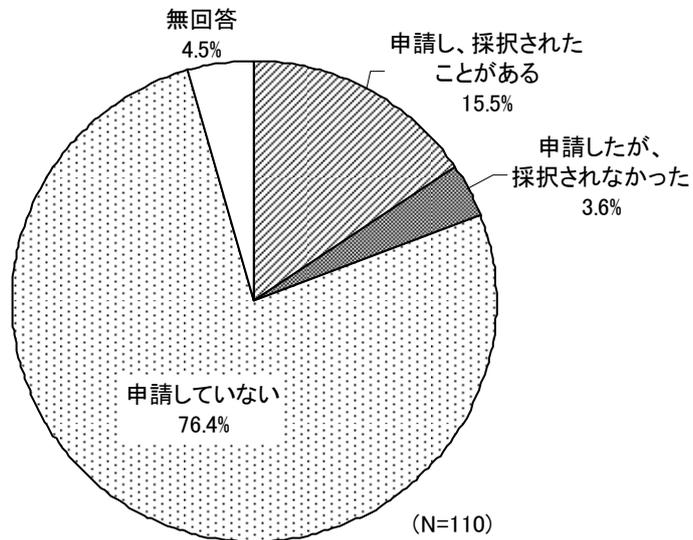
- ・参加者や利用者からの参加費。
- ・物品の提供（いらぬ切手を持ってきてもらう）。
- ・山主の依頼による里山整備に対する謝礼。
- ・府の講習受講（会員の募集）。
- ・経費削減。
- ・自己資金の投入。

(10) 八尾市市民活動支援基金事業の利用状況

a) 八尾市市民活動支援基金事業の利用経験 (問11)

・76.4%の団体が「申請していない」と回答している。

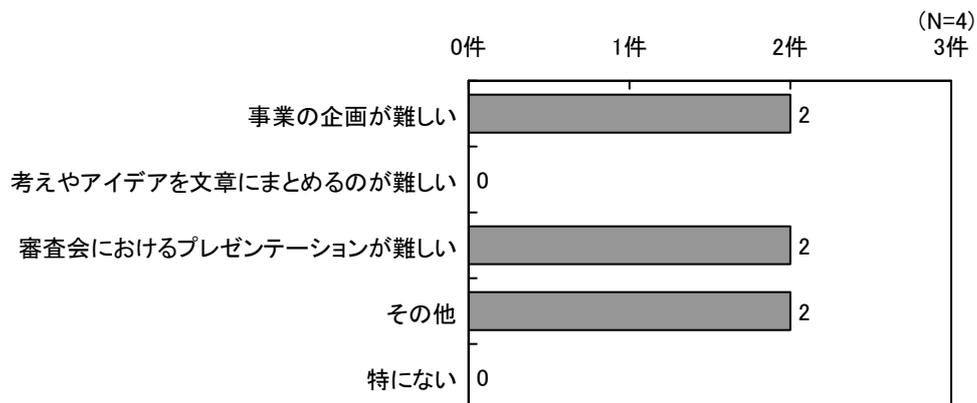
図表 21 八尾市市民活動支援基金事業の利用経験



b) 八尾市市民活動支援基金事業の利用申請にあたって特に難しかったこと (問11 - 1)

・「事業の企画が難しい」「審査会におけるプレゼンテーションが難しい」と回答した団体がそれぞれ2団体あった。

図表 22 申請にあたって特に難しかったこと
(申請したが採択されなかった団体ベース、2つまで回答)



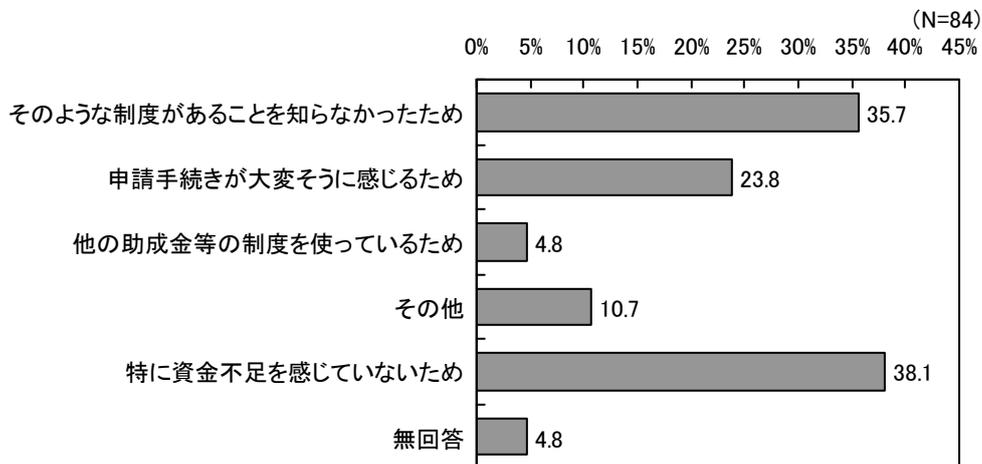
【「その他」の回答内容】

- ・事業自体がNPO活動の事業の一環であるため採択されなかった（NPO活動は八尾市のためになっていない）。
- ・活動内容や思いを伝えにくい。

c) 八尾市市民活動支援基金事業の利用を申請していない理由(問11-2)

・「特に資金不足を感じていないため」が38.1%と最も多いが、「そのような制度があることを知らなかったため」との回答も35.7%あった。

図表 23 申請していない理由(申請していない団体ベース、2つまで回答)



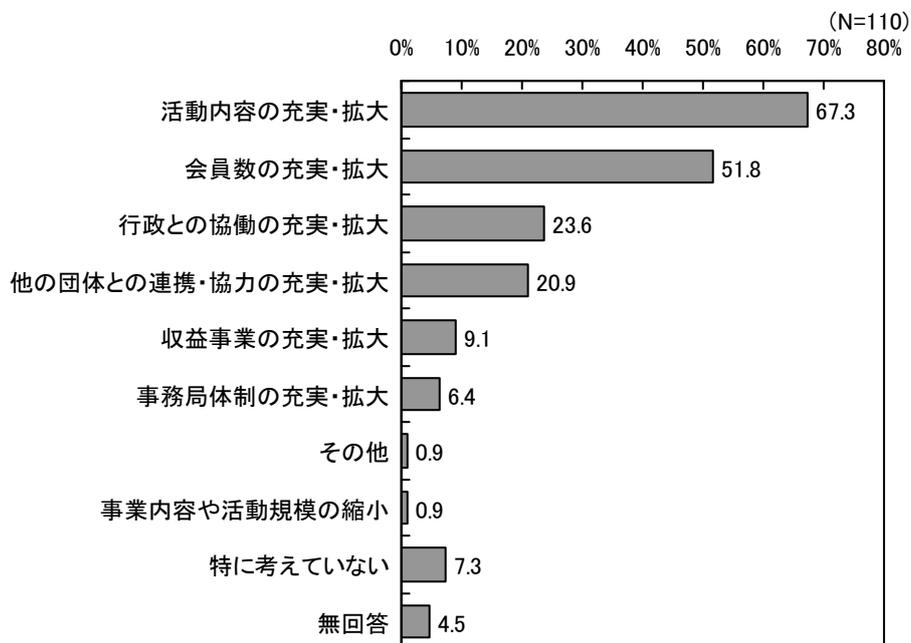
【「その他」の回答内容】

- ・期間が中途半端で利用活用しにくい。
- ・市内メンバーが過半数もいるかわからない。
- ・本会の性質上していないが、個々のグループでは活用しているところもある。
- ・行政からの委託事業のみを実施しているため。
- ・少人数のサークルなので。
- ・自主的な活動のため。
- ・市民活動は自己資金ですべき。
- ・他団体の申請内容を把握し、研究中。
- ・平成24年4月発足につき、25年度は申請したい。

(11) 今後、力を入れたい取組（問12）

・「活動内容の充実拡大」が67.3%と最も多く、次いで「会員数の充実拡大」の51.8%となっている。

図表 24 今後、力を入れたい取組（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

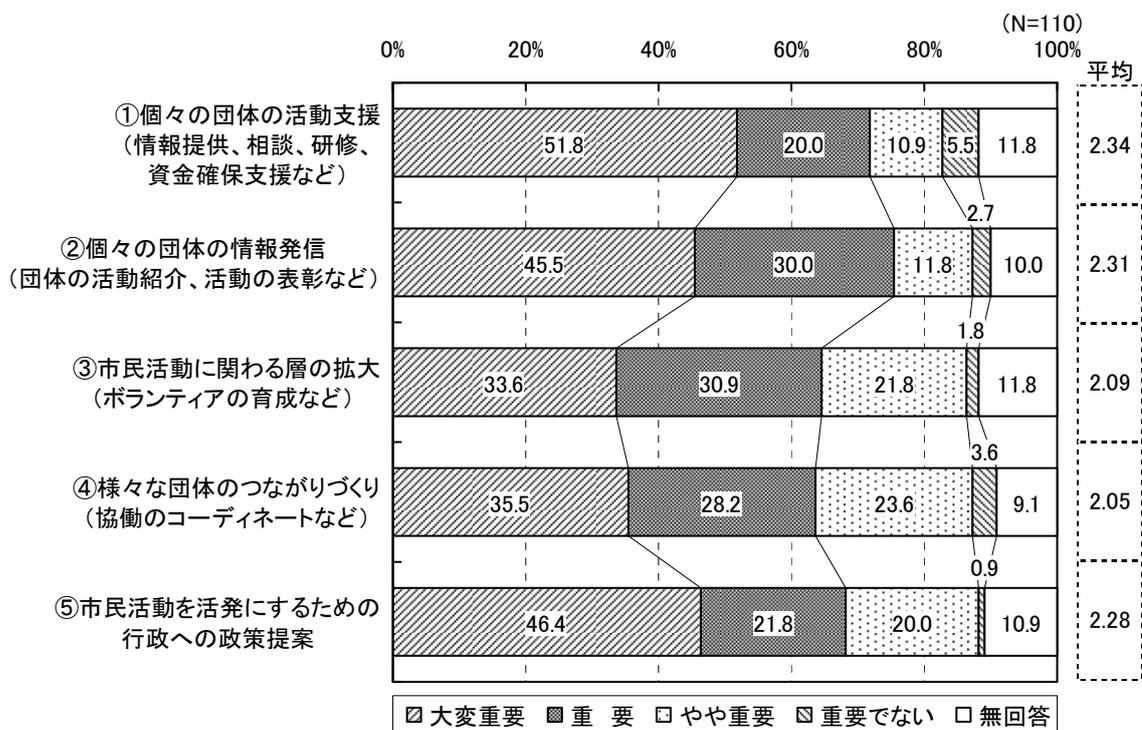
- ・ 社会貢献度の増加。

4. 「つどい」への期待・要望

(1) 「つどい」が果たす役割の重要度（問13）

・「①個々の団体の活動支援」の重要度が最も高く、次いで「②個々の団体の情報発信」「⑤市民活動を活発にするための行政への政策提案」の順となっている。

図表 25 「つどい」が果たす役割の重要度



※平均は「大変重要」=+3、「重要」=+2、「やや重要」=+1、「重要でない」=0とした加重平均値

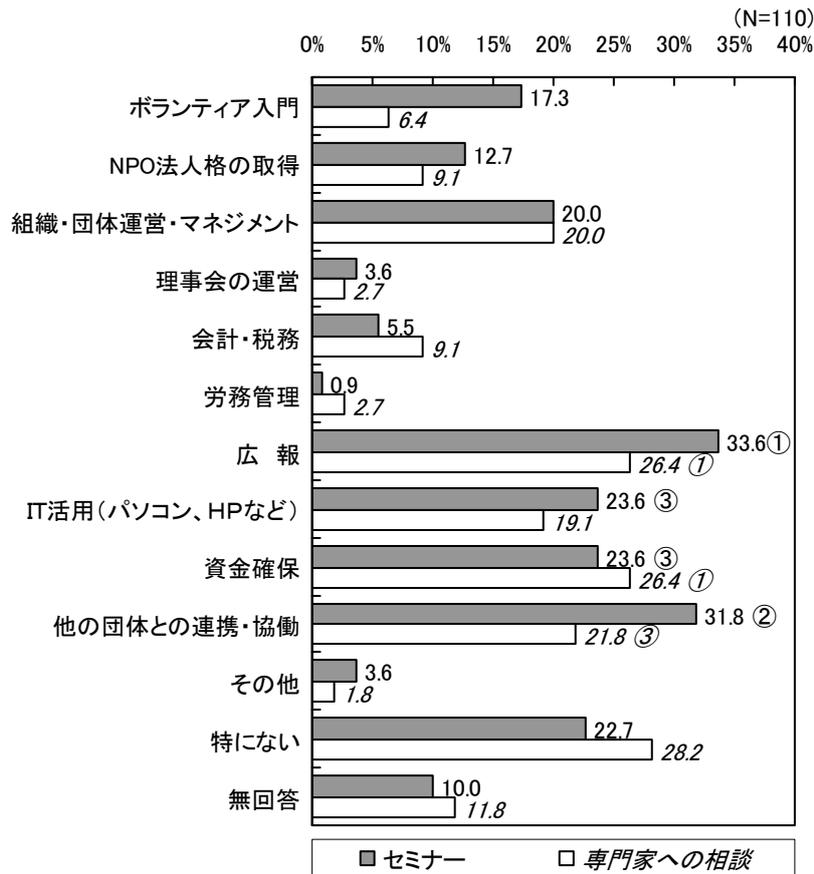
(2) セミナーや相談について

a) 希望するセミナー専門家への相談の内容（問14、問15）

・希望するセミナーのテーマをみると、「広報」が33.6%と最も多く、次いで「他の団体との連携・協働」が31.8%、「IT活用」「資金確保」が23.6%となっている。

・専門家へ相談したい内容では、「広報」「資金確保」が26.4%と最も多く、次いで「他の団体との連携協働」が21.8%となっている。

図表 26 希望するセミナー専門家への相談の内容（複数回答）



※丸数字は上位3位の項目

【問14「その他」の回答内容】

- ・ 笑いと健康。
- ・ 起業、コミュニティビジネス、リスクマネジメント。
- ・ 収益事業の戦略的取組について。
- ・ 女性の生き方、これからの人生。

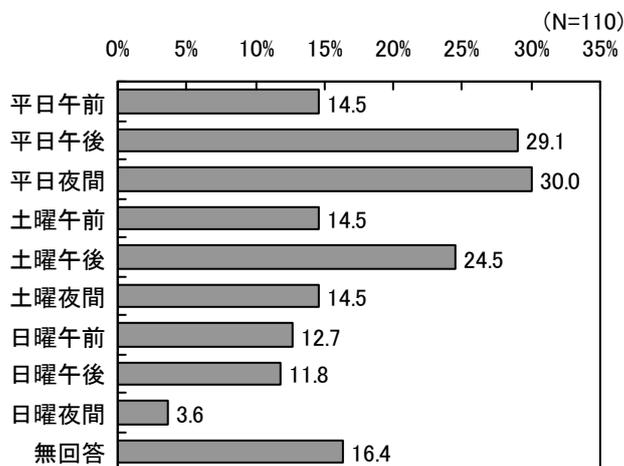
【問15「その他」の回答内容】

- ・ 起業、コミュニティビジネス、リスクマネジメント。

b) セミナー相談に参加しやすい時間帯（問16）

・「平日夜間」が30.0%と最も多く、次いで「平日午後」が29.1%、「土曜午後」が24.5%となっている。

図表 27 セミナーや相談に参加しやすい時間帯(3つまで回答)

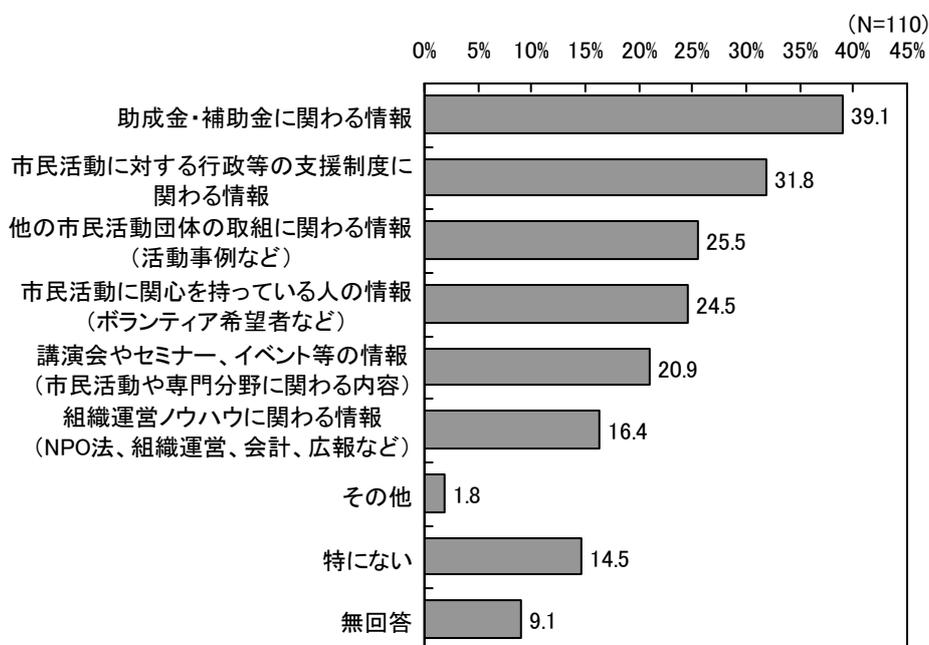


(3) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について

a) 団体の運営にあたって必要となる情報（問17）

・「助成金・補助金に関わる情報」が39.1%と最も多く、次いで「市民活動に対する行政等の支援制度に関わる情報」が31.8%となっている。

図表 28 団体の運営にあたって必要としている情報(3つまで回答)



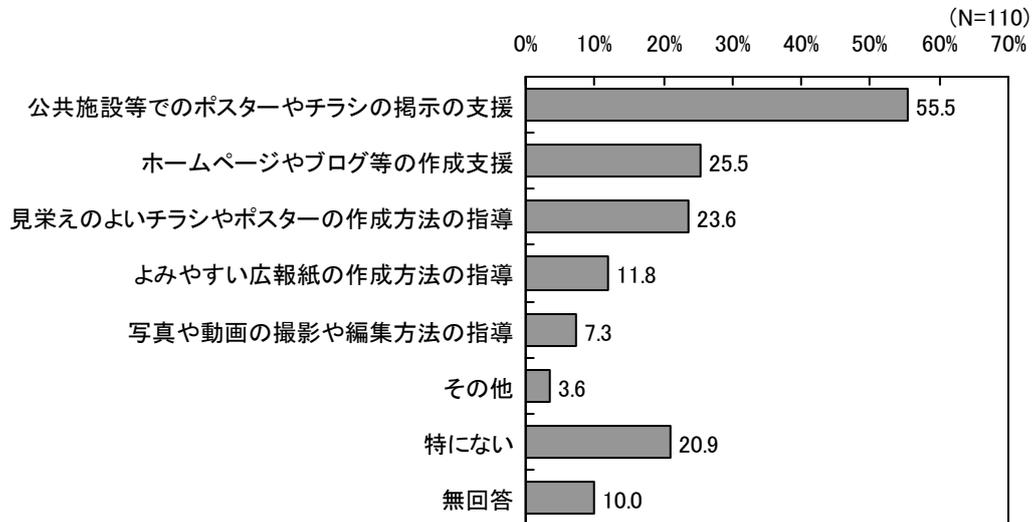
【「その他」の回答内容】

- ・ 練習会場・会合場所など、空室の開放を望む。
- ・ 活動場所の確保に関する情報。

b) 情報発信にあたって希望する支援（問18）

・55.5%の団体が「公共施設等でのポスターやチラシの掲示の支援」を挙げている。

図表 29 情報発信にあたって希望する支援(3つまで回答)



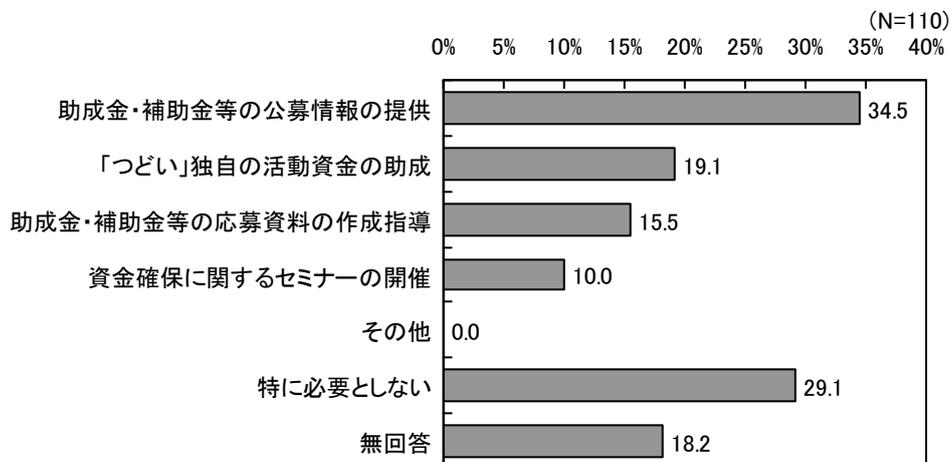
【「その他」の回答内容】

- ・ 市政だよりや社協だよりに載せてほしい。
- ・ 例えば子育て支援のチラシはこういう場所に置けるなどと教えてもらえたり、つないでもらえたらありがたい。
- ・ マスコミへのアップ方法強化。

(4) 活動にあたって必要となる資金の確保について（問19）

・「助成金補助金等の公募情報の提供」が34.5%と最も多く、次いで「つどい」独自の活動資金の助成」が19.1%となっている。

図表 30 資金確保にあたって希望する支援(2つまで回答)

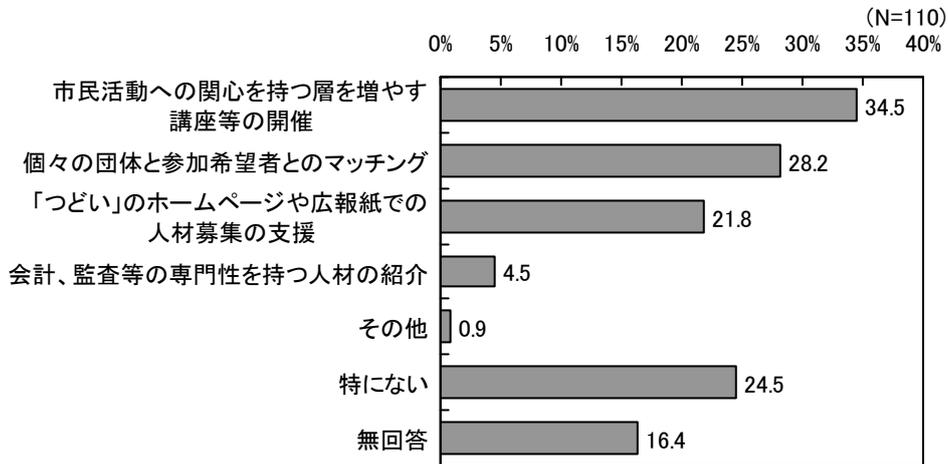


(5) 市民活動に関わる人材の育成について

a) 人材育成確保にあたって希望する支援（問20）

・「市民活動への関心を持つ層を増やす講座等の開催」が34.5%と最も多く、次いで「個々の団体と参加希望者とのマッチング」が28.2%となっている。

図表 31 市民活動の人材育成確保にあたって希望する支援(2つまで回答)



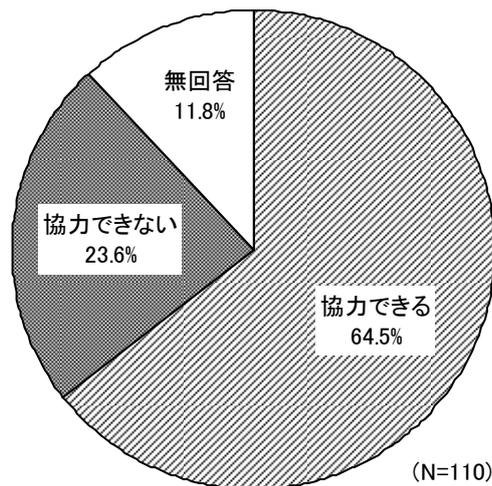
【「その他」の回答内容】

- ・学生ボランティアとのマッチング。

b) 「つどい」が実施する「体験参加」への協力の可否（問21）

・体験参加希望者の受け入れに「協力できる」と回答している団体は64.5%となっている。

図表 32 体験参加希望者の受け入れへの協力の可否



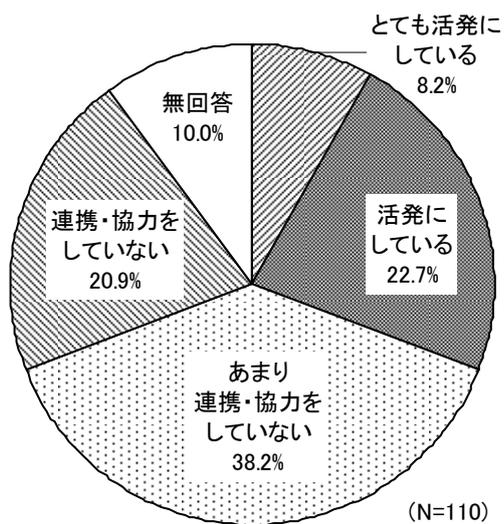
5. 多様な団体との連携協力について

(1) 多様な団体との連携協力状況

a) 多様な団体との連携協力の有無 (問22)

・多様な団体と連携協力している(「とても活発にしている」「活発にしている」)団体は30.9%となっている。一方、連携協力をしていない(「あまり連携協力をしていない」「連携協力をしていない」)団体は59.1%となっている。

図表 33 多様な団体との連携協力の有無

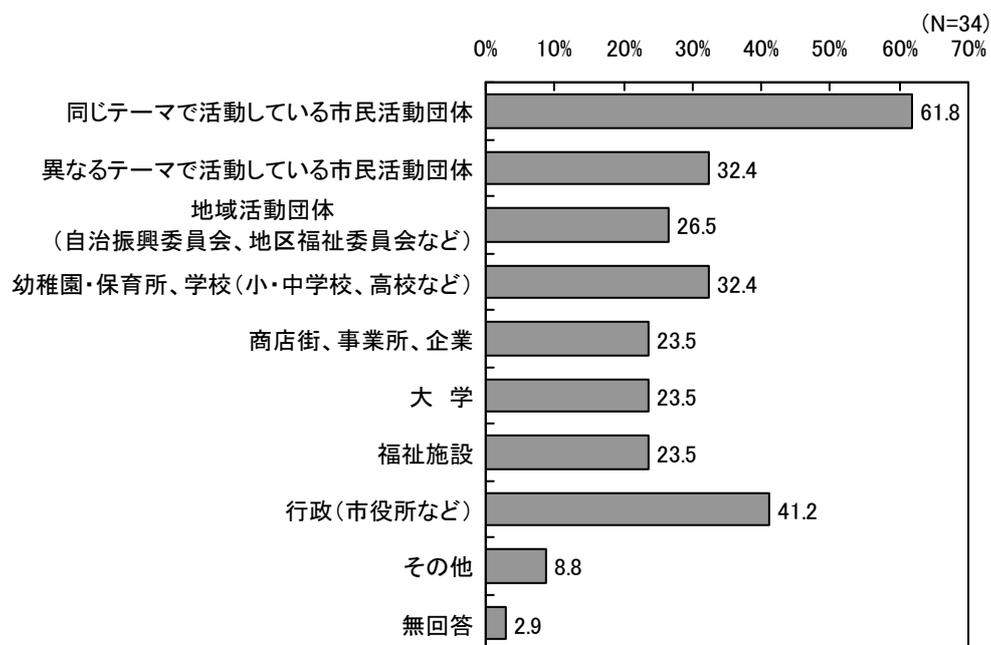


b) 連携協力をしている団体（問22 - 1）

・「同じテーマで活動している市民活動団体」が61.8%と最も多く、次いで「行政」の41.2%となっている。

図表 34 連携協力をしている団体

（「とても活発にしている」「活発にしている」と回答した団体ベース、複数回答）



【「その他」の回答内容】

- ・ 病院。
- ・ 法人格のある団体など。
- ・ 上部組織。

c) 他団体との連携協力の概要（問22 - 1）

- ・スポーツの合同大会、市民活動団体の情報交換など同じテーマで活動する団体間の連携が多くみられた。
- ・「つどい」をきっかけとして様々な団体とつながりができたといった事例もある。

【同じテーマで活動している団体との連携】

- ・各種大会、近隣チームとの交流大会。
- ・交流試合、グラウンド借用、合同練習、講習会など。
- ・母体の一致している団体との連携、活動内容の連絡。
- ・障がい者団体との意見交換、情報提供。
- ・人権をテーマに活動するネットワーク、地域の民生委員の広場への協力・連携（個人のつながりからスタート）、高校との連携、保育所・国へのワークショップ提供など。
- ・大阪府で同じテーマで活動している団体はネット情報などで。類似テーマ、高齢者、大学、行政はテーマごとに行っている。

【異なるテーマで活動している団体との連携】

- ・他団体（八尾市内）からの依頼、店主からの依頼、子どもたちへの外国語指導。
- ・市民活動の参加、展示（プリズムホール、市役所）、ボランティアの参加（社会福祉協議会の依頼、委員に参加）。

【地域活動団体】

- ・地域によっても差はあるが、地域団体のメンバーとして催しに参加している。

【行政】

- ・山本図書館。
- ・協議会（行政、学校、大学）、流域ネットワーク（大和川、寝屋川、恩智川）。設立時よりメンバーとして参加。
- ・ビジネスマッチングのコーディネーターや、中小企業庁の中小企業かけこみ寺のアドバイザーを行っている。
- ・行政、地区福祉委員会、自治振興委員会と連携しながら各事業を進めている。

【幼稚園・保育所、学校との連携】

- ・出会いのきっかけ。農園のみなさんと幼稚園の先生みなさんが「地域に根ざすふれあい活動」とは何かを議論され、世代間交流に取り組む結論となり計画され、今日まで進んできた。
- ・直接交渉に行く。知人の世話で幼・小・保実演。
- ・介護施設のイベント参加、大学生の研究（論文など）協力、地域の会合。
- ・紹介、活動への参加がきっかけ。ワークショップの実施などをしてもらったり。大学に関してはインターンシップの受け入れ。

【「つどい」をきっかけとした連携】

- ・ 地域活動を始めてNPO活動に参加、「つどい」を知って様々な団体と連携を取れるようになった。
- ・ 「つどい」にて知り合った方々と、市民活動を通じて少しでもつながれる方々と協力。

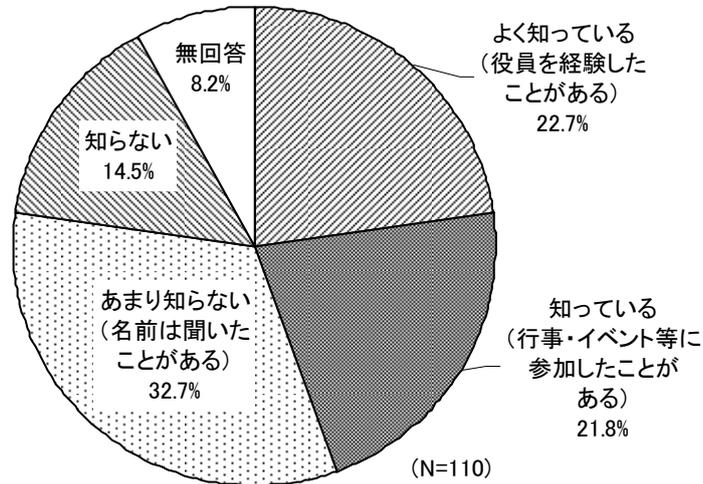
【その他】

- ・ 企画会議、イベント。
- ・ 出演、講座など依頼あればできる限りそれに応えている。

(2) 地域活動団体の活動状況の認知度 (問23)

・地域活動団体の活動状況について知っている(「よく知っている」「知っている」)団体は44.5%となっている。一方、活動状況を知らない(「あまり知らない」「知らない」)団体は47.2%となっている。

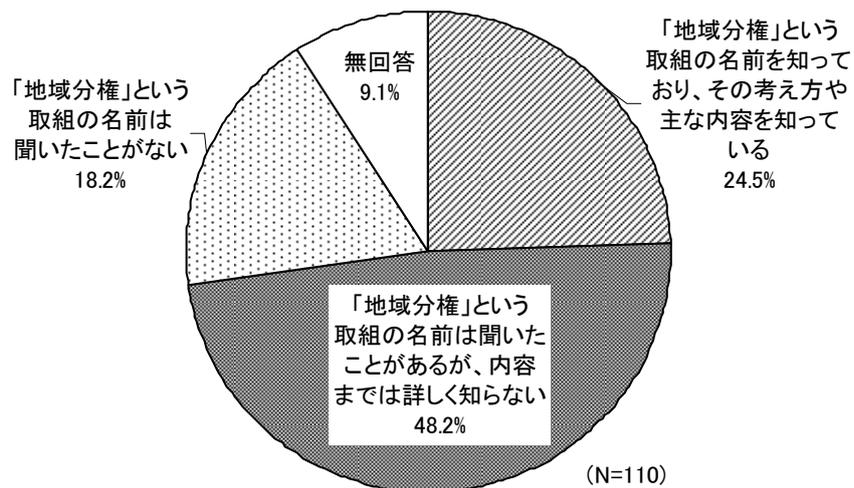
図表 35 地域活動団体の活動状況の認知度



(3) 地域分権の取組の認知度 (問24)

・「地域分権」という取組の名前は聞いたことがあるが、内容までは詳しく知らない」との回答が48.2%と、半数弱を占めている。

図表 36 地域分権の取組の認知度

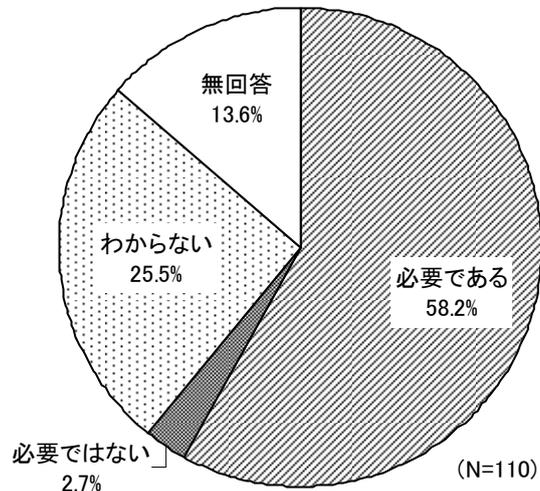


(4) 地域活動団体との連携協力の必要性

a) 市民活動を進めていく上での地域活動団体との連携協力の必要性 (問25)

・地域活動団体との連携協力が「必要である」と回答している団体が58.2%となっている。

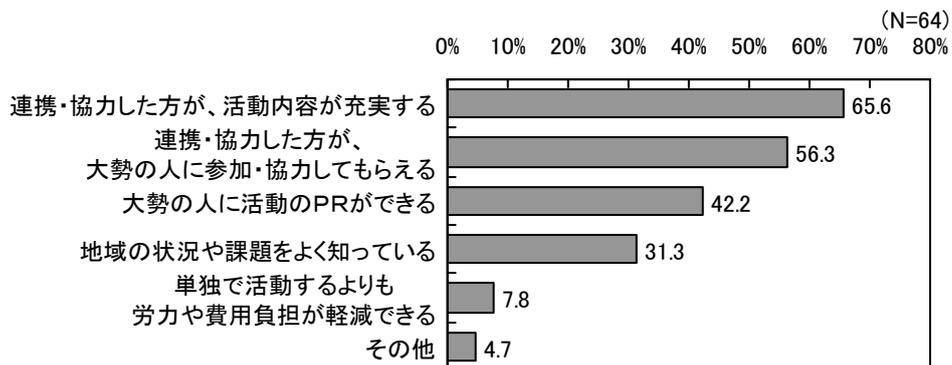
図表 37 市民活動を進めていく上での地域活動団体との連携協力の必要性



b) 地域活動団体との連携協力が必要と考える理由 (問25-1)

・「連携協力した方が、活動内容が充実する」が65.6%と最も多く、次いで「連携協力した方が、大勢の人に参加協力してもらえる」が56.3%となっている。

図表 38 地域活動団体との連携協力が必要と考える理由
(「必要である」と回答した団体ベース、3つまで回答)



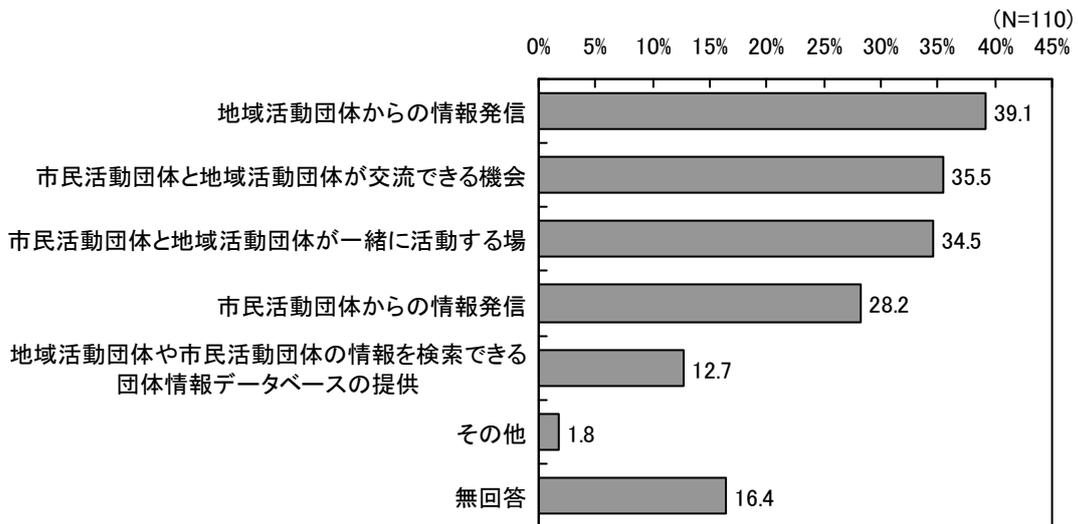
【「その他」の回答内容】

- ・人とのつながりの機会を増やす。
- ・困っている人を助ける、こぼさないようなセーフティネットとなる。
- ・まちづくりは地域の人々が主体となってやるもので、テーマ型団体が主導するものではない。

(5) 地域活動団体との連携協力のために必要な取組（問26）

・「地域活動団体からの情報発信」が39.1%と最も多い。次いで「市民活動団体と地域活動団体が交流できる機会」が35.5%、「市民活動団体と地域活動団体が一緒に活動する場」が34.5%となっている。

図表 39 今後、市民活動団体が地域活動団体と連携協力していくために必要な取組
（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・連携を強いることなく、双方が必要とする場合に介助をしてもらえばよい。
- ・地域活動団体の中で女性の生き方を話し合う講座や参加型話し合いのできる場を持ってほしい。

(6) 地域活動団体等と連携協力する場合に提供できること (問26)

- ・イベントなどを実施する際、運営スタッフまたは参加者として関わるができる、または団体の活動によって集客の手伝いができるといった団体がみられた。
- ・団体の持つ専門性を活かして、出張活動や指導・研修などを行うといった協力ができる団体が多くみられた。
- ・子どもたちの教育活動への協力ができるという団体も多くみられた。

【地域活動への協力】

- ・バザーやイベントの協力ができる。
- ・イベントに参加してもらえる。
- ・イベント。ボランティアで講習会をし、生きがいや健康を支援。
- ・紙芝居、芋掘り、講演会。
- ・地域の文化芸術に対して指導できる。
- ・セルフネグレクトを引っ張り出して当会の活動に参加してもらい、意欲を戻す指導が当会の理念で、本人または周囲からの連絡があればと思っている。
- ・介護施設や地域行事に公演協力。
- ・水呑地蔵尊登山道の草刈りなど、補助作業（刈り草の集積ほか）。
- ・道路清掃、植木鉢のペインティング。
- ・地域活動のイベントに演奏会開催を盛り込み、集客力アップと幅広い層の参加が期待できる。
- ・占いイベントのボランティアを行っているので、人に集まってほしいイベント（敬老会や献血、成人式など）に参加できる。
- ・まちづくりに関するサポート。
- ・一緒に活動することにより、その地域の人たちの意識を高めることができる。
- ・地域の状況を把握できる。

【専門性を活かした協働】

- ・視覚障がいの方のためのもので範囲が狭く、外に出た活動ではないので内にこもっている状態である。もっと点字に対する啓発を行いたい。地域での点記希望の方に協力したいと思っている。
- ・視覚障がい者の日常生活における不便、悩み、楽しみなど、地域で豊かに充実した生活を送るためにどのような努力をしているか、みなさんにお話しし、みなさんからどのような支援をしてもらおうと助かるかなど、理解してもらいたい。
- ・手話にふれてもらうこと。
- ・アルコール依存症という病気にならないための気づきのアドバイスを出前講演すること。
- ・健康に関する情報提供、セミナーなど。
- ・健康体操などの体験型のイベントをしているので、自由に参加して頂ける。それぞれの教室へ体験レッスン参加ができる。教室の紹介。
- ・いろいろなイベントにてアニマルセラピー犬をウェルカム犬として利用させて頂き

- たい。特に障がい者施設などでの行事でのウェルカム犬としてふれあいを希望する。
- ・将来学校の先生や障がい児に関わる仕事を希望されてる方の勉強の場として支援できる。
 - ・登山・ハイキングに関する指導（技術）案内や、自然環境を守る活動。
 - ・ラグビー体験教室。
 - ・スポーツ全般を指導できる。
 - ・体験学習、講演などの支援。
 - ・出張ボランティアできます。人形劇、お話し会など。
 - ・歌の指導者やアコーディオン奏者の派遣も可だが、本人の日程や費用の都合もある。即提供はできない。
 - ・里山近くに住みながら全くその整備活動を行ったことのない人々にお教えできる。
 - ・人権研修の支援。
 - ・今のところ活動内容など再検討中のため提供できることはないが、コミュニケーション・人間学についてのお話はできるかもしれない。
 - ・ホームページの案内。
 - ・パソコン体験。
 - ・議事録、ニュースレター、ウェブづくり。
 - ・様々な分野でのNPOの活動事例や、包括的な活動とネットワークの視点。

【子どもたちへの教育活動への協力】

- ・子どもたちの体操体験は支援できる。
- ・少年野球教室。
- ・夏休みなどで、親子でフラワーアレンジメント制作体験などを指導できる。
- ・子ども会の催しの一端を担う（例：クラフト、バルーンアート、注連縄リースなど）。
- ・子どもたちと一緒に、その場でできる人形劇を作って遊ぶ。
- ・子どもとの遊び、母親へのワークショップ、イベントの企画や進行、一時保育の有償ボランティアなど。
- ・親子教室のイベント、おもちつき、クラフトなどに参加してもらい、子どもたちと協力してイベントを盛り上げることができる。
- ・子育て広場に中学生のボランティアクラブの人にも来てもらう。わくわく教室の子どもを近所の高齢者施設に連れて行って交流する。今後資金ができればやりたいことは、小学校の余裕教室で放課後、教育大の学生や以前に先生をしていた方などに来て頂き、小学生や中学生の勉強を見てもらったり、居場所づくりをしたい。
- ・子どもたちへの外国語（英語・中国語）学習支援。

【その他】

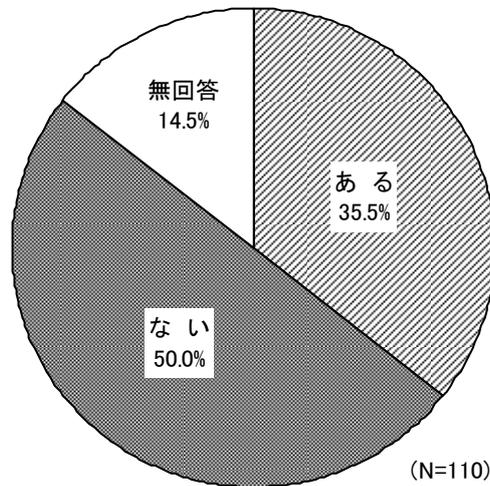
- ・情報発信。
- ・情報提供。
- ・身近な水環境についての情報提供や、河川での観察会支援。
- ・地域で環境改善の体験学習をしたい。
- ・自然とのふれあい。

- ・ 史跡めぐりへの一般参加を支援できる。
- ・ 紙芝居実演での支援。
- ・ 朗読、読み聞かせ活動をしているので、高齢者施設などで新聞を読み聞かせたり、読書支援ができる。
- ・ 多彩なボランティア資源を持った人材が多いため一端を挙げると、高齢クラブにおける運営などに関わっている。ディスコン、歌体操、スリーA、フルート伴奏での歌唱、おもちゃ作り（人材豊富）、小物作り、自然素材の物作り、マジック指導、絵手紙、押し花作品作り、おもしろ算数教室（算数パズル）、アニマルセラピーなど。
- ・ ボランティアグループの団体なので、既に様々なボランティア活動支援を行っている。
- ・ 他者愛により一人一人を心から大切に、一人一人の幸せを心から願って協力。人格者育成。

(7) 行政との協働状況（問27）

・行政と協働したことが「ある」と回答した団体は35.5%で、「ない」が50.0%となっている。

図表 40 行政との協働経験の有無



【協働の概要】

- ・ウイングのオープニング時、記念大会で協賛した。他に毎年春秋の市民大会体操の部に参加協力している。
- ・スポーツ、文化活動の行事は行政と協力してやっている。
- ・ラグビー体験教室。
- ・体カテストの開催に協力。市民博のイベントの一つとして体験レッスン型のイベントを開催。ウイングの柿落としの発表イベント。
- ・図書館でのお話し会、人形劇、プリズムホールでのイベント参加、手作り指導。
- ・「つどい」での茶点講師。
- ・アロマキャンドルの体験会への講師派遣。
- ・八尾市制60周年記念イベントに参加（ウェルカム犬）。「つどい」や社協でも市民活動などには必ず参加している。
- ・八尾市制60周年大会での協力。
- ・昨年度から今までの例：介護職員初級研修、大阪府ボランティア連絡会15周年記念事業、大阪府社会福祉協議会宿泊研修。
- ・毎年点字講習会をしている（12回）。
- ・生活介護事業を行っている。
- ・事業委託を受けて人権研修などを実施している。
- ・ヒューマンフェスタなど。
- ・リサイクルフェスティバルなどの市内での環境フェスの立ち上げ。
- ・環境アニメイテッド、自然楽校。
- ・市のみどり課管理の里山の整備。
- ・市役所の成人式、献血ルーム。
- ・ビジネスマッチングのコーディネーターや、中小企業庁の中小企業かけこみ寺のアドバイザーを行っている。市の産業振興市民としての参加など。

- ・後援依頼、物品提供、交通費助成、広報記載、物品借用。
- ・講演会の開催。
- ・講座の実施。
- ・行政からの依頼出演など。
- ・市の行事での公演。
- ・イベントなどは常に実行委員会形成で行政と共に行っている。
- ・キャンペーンの際に一緒に自転車の整理をした。交通安全教室などへの参加。
- ・情報提供・発信。
- ・情報発信、ワークショップ進行、広場運営、会議の委員として参加など。
- ・フォーラムを社会福祉協議会と共催。市民委員。
- ・まちづくり教室への参加。
- ・親善訪問団事業を協働で行った。
- ・委託事業の受託（地域通貨活用による地域活性化促進事業）。
- ・事業受託。
- ・八尾市民活動助成金を活用した。

(8) 行政と協働して「良かったこと」「苦労したこと」「工夫したこと」、「協働しない理由」「協働できない理由」など（問27）

- ・良かったこととしては、団体の信用度が高まることや、広く広報ができる、参加者が増えて活動に広がりがあるといった意見がみられた。
- ・苦労したこととしては、職員の異動が多く、引継ぎもはっきりされないため、持続的な関係が気付けないことや、活動への理解を得にくいといったことがみられた。
- ・行政と協働しない・できない理由としては、どのようにすれば行政と協働でできるかわからない等が挙げられている。

【良かったこと】

- 団体の信用度が高まる
 - ・協働することで団体の信頼度が高まる。
 - ・協働することによって信頼・信用面にプラスとなった。
 - ・個人ではいくら頑張っても活動が伝わらないが、行政と協働すると少し活動を認めてもらえる。
 - ・信用度が上がる。
- 幅広い広報が可能になる
 - ・団体だけよりも、より多くの市民に広報できる。
 - ・活動が多くの市民に知られ、幅広い人の参加が進むため。
 - ・市内での認知度が上がる。ネットワーク（連携の範囲）が広がる。広報が楽になる（市政だよりが使える）。
 - ・広報を行政側で行ってくれる。活動費の助成があり、充実していた。
 - ・広報を広くして頂ける。
- 参加者が増え、活動に広がりが出る
 - ・コミュニケーションについて、自分も相手も認め合うことの楽しさを体験してもらえたと思う。また、準備など参加者の募集も含めてして頂き、とても助かった。
 - ・活動をスムーズに行えた。活動が広がった。
 - ・地域で生きていく障がい者に対して身近に感じてもらえる機会。
- その他
 - ・いろいろな市民の意見や感謝の言葉を頂けた。
 - ・多くの子どもたちとのふれあい、スタッフが楽しんでいること。
 - ・お客様が喜んでくれること、そのイベントに向けて来てくれるお客様がいてくれること。
 - ・行政との協力なしでは、当会だけでは行事はできない。
 - ・会場確保ができることが良かった。
 - ・職員の方の仕事に対する取組み方が理解できたこと。
 - ・定例化している毎年6月の高安山清掃ハイキング、ハイキング道の整備など後援をして頂き、好意的で30年も続いている。好評である。

【苦勞したこと】

- 職員の引継ぎができていないため関係が持続しない
 - ・ 1～2年で職員の異動があり、よく再説明をする。引き継ぎはきっちりしてほしい。
 - ・ 人事異動で職員同士の引き継ぎがうまくいかない時は、持続・継続が難しい時が多い。
- 団体を理解してもらいにくく、意見が合致しない
 - ・ 意見が合わないで苦勞した。職員が非協力的。
 - ・ 現場のことをわかってもらっていないと思う。行政にやる気がないのではないか。
 - ・ 団体の特徴を全面的に出しづらい。
 - ・ 教室の趣旨を理解してもらおうのがなかなか難しいと思う。
- 参加者が集まりにくい
 - ・ 講習会になかなか人が集まらないこと。人数が少なくても毎年開催することが大切なこと（一人前になるには年数が必要なこと）を知ってほしい。もう少し回数を増やしてほしい。
 - ・ 参加人数が集まらないこと。
 - ・ 行政からの情報を市民にわかりやすく解説することに若干苦勞した。
- その他
 - ・ 単年度事業であることが足を引っ張ることがある。
 - ・ 活動に制限がかかる。
 - ・ 賛助資金の不足。

【工夫したこと】

- ・ 接触プレーが多く危険と思われがちなラグビー競技の楽しさを、初心者の子どもや保護者にどのように伝えられるか。

【行政への要望】

- ・ 行政の「公平・中立」とNPOのフットワークの軽さのバランスをうまく取ればよいし、苦勞しない。コミュニケーションが大切で、いかに時間を使ってもらうか。「協働」の定義認識の共有化ができれば協働は可能。
- ・ 行政と中小企業との接点としてのNPO法人の必要性を具申した。
- ・ 里山は多くの地権者・山主が存在し、例え一種放棄林的荒れ地でも、勝手に整備作業はできない。しかし市への管理委託地となっている里山は整備作業を問題なく行える。願わくば放棄林的地権者や山主は市への管理に委ねることを望む。

【協働しない・できない理由】

- ・ 何をされているのかよくわからない。行政は平等が基本なので、市民活動団体の中の一つを特別に扱うことは難しいのだろう。市役所や社会福祉協議会は平日の昼しかオープンしていないので、仕事をしている者にとっては基本的に難しいのかもしれない。
- ・ 行政と協働するとして、どのような道順を経たらできるのかがわからない。
- ・ 行政の事業共催・委託などの情報の入手方法がわからない。当会でできることがあれば、応分の協働は参加したい。

- ・どのようにすれば行政と協働できるのか、よくわからない。
- ・行政から作り上げられてきた女性の取組み講座だったのに、その後のフォローがない。もう少しつなげていくことをしなければ、女性の地位向上といってもならない。
- ・そのような機会がなかった。
- ・私たちとしてはやりたいところだが、まだあまり知ってもらっていないと思う。もっと私たちのできることやしていることをアピールしなければと思っている。
- ・当団体は完全なボランティア活動をめざしているグループで、今までは本部からも指示もなく私たちが進めてきた。本部との調整が必要だと思う。
- ・患者の会である特質上、健常者には理解を得られない点が多く、協働が困難な場合が多い。
- ・行政に頼らない活動を念頭に置いている。
- ・今後は八尾市のためには活動したくない。ボランティア募集をも行政に拒否されている(公共施設などでの広報の拒否)のに、なぜ八尾市のためにしないといけないのか。行政が当団体(法人)を拒否している以上、当法人が協働する理由がない。

(9) 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見（問28）

- ・「つどい」に対しては、登録団体間の連携の促進や、情報発信・広報での支援、施設・設備利用に関するニーズなどが多く見られた。
- ・行政に対しては、広報への協力、活動のコーディネート、資金面での支援などのニーズが多く見られた。

【「つどい」に対する意見】

●団体紹介・マッチングについて

- ・各障がい者団体の概要など紹介して頂き、市民が少しでも障がい者に目を向け理解してくれる手助けになってくれればありがたい。
- ・A会がサポートを必要としている時、それに応じられるB会を紹介してくれるなどを望む。現行の印刷機の使用制度は最も良い。2階の会議室は使用料を取ってはどうか。イベントを再々しない方がよい。
- ・登録団体同士の連携と、自主的な活動で共通・単独を問わず課題を解決していく仕組みづくりが必要である。「つどい」にはその課題解決の支援をお願いしたい。市民団体の連合会づくりが必要と考える。
- ・ボランティアで活動している市民団体の会員募集や紹介に力を入れてほしい。
- ・個々の活動内容を「つどい」のホームページ・ブログなどでどんどん発信してほしい。
- ・市政だよりと重複、入り乱れての案内が多く、「つどい」の内容がわかりやすいので、各団体の活動は毎月一本化できないのかと思う。私たちは共通・共有できる活動には会員に案内して参加を呼びかけている。
- ・特定の団体の特集ページの枠を減らし、もっと我々や他の登録団体の名前、活動内容、連絡先を常時印刷してほしい。ハンドブックだけでは一般の市民の方が見たり知ってもらえる機会が少ない。
- ・市民活動を続けていく上で必要なのは人と場所と資金なので、それについての情報提供や直接的支援、必要とする個人や団体とのマッチングの場などつくって頂けたらありがたい。会議の場所を無料で提供して頂いたり、印刷を安くでさせて頂いたり、いろいろ情報を頂いていることなど本当にありがたく思っている。

●情報発信について

- ・他市の情報などが発信できていない。「つどい」と他市との中間支援との連携がないように思う。専門的なことの相談ができない。ニュースが面白くない。もっと工夫すべきである。
- ・私を含め仕事を持っている人が多いので、情報は早めに、時間など詳しく知りたい。できれば直接代表者に連絡してもらいたい。
- ・私たちの活動内容が行き届いていないため、実演してもほとんど身内がかき集めた参加者で、なかなか受け入れてもらえない。「つどい」で協力してもらっているが、広がり幅が狭いように思える。

●施設・設備利用について

- ・「つどい」の会議室をもっと柔軟に利用できるようにしてほしい。制約が多く、空いているのに使えない。

- ・会議室利用の時間を長くしてほしい。
- ・月・火曜日も利用可能にしていきたい。
- ・パソコンを利用しやすくしてもらいたいと思う。
- ・2日も休みというのはいかがなものか。活動の会場確保に協力してほしい。コミセンなどは制約があるので借りられない。「つどい」の機関誌で各団体のスケジュールなどを知らせてほしい。
- ・2ヶ月に1回ぐらいだが、場所、プロジェクターほかお借りでき、みんなが楽しめる会合ができてとても助かっている。
- ・コピーや印刷機、ラミネート等々、個人の資金のない団体としてはなくてはならぬ場所である。現在当団体は「つどい」のお蔭でいろいろなイベント、ファミサロンへの参加など大変助かっており、今後の発展に行ってほしいと思う。
- ・コピー（印刷）を取らせて頂き、ありがたい。

●その他

- ・各種講座の提供充実。
- ・将来を見据えた取組で運営に当たって頂きたい。
- ・もっぱら印刷作業に利用させて頂いている。今後はハード面ばかりでなく、活動面でもご支援頂けることを期待する。
- ・せっかく団体としての登録をしているのに、地元地域で活動場所が確保できず、特に何の活動もできていない。今のところ他の団体に参加する形で過ごしている。自然と遊ぶという形では高安山がベストなのかもしれない。
- ・決まったグループのみが利用している。事務所があるので「つどい」を利用することがなく、情報を共有しにくい。もっとメリットがあればギブアンドテイクで利用していきたい。
- ・「つどい」は信用できない。
- ・「つどい」がどのような方法でやっておられるのか、あまりわからない。
- ・「つどい」のことを知らない人が多いと思う。市政だよりなどで時々紹介してはいいか。
- ・話の内容など、知らない人がたくさんいると思う。「つどい」の広報も必要かと思う。
- ・「つどい」の存在そのものを知らずにいた。当団体でも登録団体の一つであるなら、「つどい」の活動状況・内容を定期的に各登録団体へ連絡頂けないか。
- ・現サービスなどで非常に満足している。
- ・困った時に相談できる場所として、大いに期待している。
- ・中間支援組織としてようやくスタートを切ったと思っている。今後とも登録団体として協力をし、共同創造をしていきたい。
- ・現状でよいが、参加しきれっていない時間制約との兼ね合い具合が難しく思える。
- ・「つどい」事務所の雰囲気冷たい気がする。

【行政に対する意見】

●広報に関する支援ニーズ

- ・地域福祉活動を通して様々なボランティアや市民活動を周知してもらい、多様な市民ニーズを捉え、反復的に活動団体へ情報提供などしてほしい。
- ・市民活動と行政への協働、広報の支援、会場・機会の提供の支援。

●活動のコーディネートに関する支援ニーズ

- ・コーディネーター役。
- ・地域とのコーディネートを密にしてほしい。登録団体との話し合いの場を時々持って頂いて、意見を聞く場を持ってほしい。
- ・個人の団体と公的機関のつながりにもっと協力して頂きたい。
- ・ボランティアの指導者がほしい。市政だよりに載せてほしい。支援制度の応募方法を教えてほしい。活動場所（運動場、体育館など）が全くない。予算をつけてほしい。八尾市全体のスポーツ祭を開催してほしい。市民ふれあい課でNPO法人を集合させて月1回会議して、どうしたらよいか市民と市政とNPO法人で考えたい。

●助成・優遇に関する支援ニーズ

- ・公共施設の使用について、優遇や助成があればよい。
- ・趣味のサークルの支援ではなく、社会を良くする信念を持った団体の支援・連携の事業を充実させること。そのための資金、人材の拡充を図ること。

●その他

- ・八尾市のボランティアへの取組は高齢者福祉しか認めていない。中間支援としての役割を忘れずに。行政が中間支援としての立場を生かせるように、制約をなくすことが必要。
- ・「継続は金なり」という言葉があるが、団体活動40年という我が会に対する認識が薄いのでは。それなりの苦勞がある。その苦勞軽減に手を差し伸べてほしい。八尾市の知名度にも協力しているつもりだが。
- ・行政の堅さをなくすことが大切だと思う。もっと親しみある方向性が必要である。
- ・市民は元気に活動している。行政が責任のことばかりでやりたくないのでは。
- ・八尾市行政の手の届かない部分へのNPOなど市民活動との協働化が行政コストの低減となっていく。行政は公平さを言うよりも、できる部分から活動していかないと、いつまでも何もしない結果になってきた。

【その他】

- ・難しい。無理せずボチボチと。人が行う活動はお互いの信頼が第一である。
- ・コース・サークルの連合体のため体験参加には協力できないが、個々のサークルなら協力できる所もあるのでは。
- ・協力はするが、高齢で限度。
- ・70人規模の団体で、全て役員などで行事の進行をしているため、特段に行政と連携する必要はない。
- ・私たちの団体は年間500円の会費で運営している。会場を借りるにも金銭的に無理である。もっと安心して活動する場所があればと思う。場がなければ活性化につながり

にくい。

- ・ 八尾市内の市民活動が発展するように、支援をお願いしたい。
- ・ 横のつながりがあるようでないような感じに思える。もっとたくさんの団体が協力し合えばよい。
- ・ 若い人が興味を持ったり参加してくれるように、働きかけを強化してほしい。

八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の 充実に向けてのアンケート

1. 貴団体の概要をお聞かせください (○印はまたは数字等を記入)

①設立年度	() 年度
②団体の種別 (○印は1つ)	1. <u>任意団体</u> 2. NPO法人 3. その他の法人 ↓ 【1. 任意団体と回答された場合】 ②-1 NPO法人の法人格の取得意向をお聞かせください。 1. あり 2. なし 3. わからない
③主な活動分野 (○印は1つ)	1. 保健・医療・福祉 11. 国際協力 2. 社会教育 12. 男女共同参画社会の形成促進 3. まちづくり 13. 子どもの健全育成 4. 観光 14. 情報化社会の発展 5. 農山漁村・中山間地域の振興 15. 科学技術 6. 学術・文化・芸術・スポーツ 16. 経済活動の活性化 7. 環境保全 17. 職業能力開発・雇用機会拡充 8. 災害救援 18. 消費者保護 9. 地域安全 19. 市民活動団体の運営に関する支援 10. 人権擁護・平和推進 20. その他 ()
④活動内容 (自由記入)	
⑤活動拠点 (○印は1つ)	1. 事務所あり (場所: 市・町・村) 2. 事務所なし (代表者自宅等)
⑥活動頻度 (○印は1つ)	1. ほぼ毎日 3. 月1～2回程度 5. その他 2. 週1～2日程度 4. 年に数回 ()
⑦予算規模 (2011年度)	1. 10万円以下 3. 100万円未満 5. 1,000万円未満 2. 50万円未満 4. 300万円未満 6. 1,000万円以上
⑧主な収入 (○印は3つまで)	1. 会費 3. 自主事業収入 5. 行政からの委託費 2. 寄附金・協賛金 4. 補助金・助成金 6. その他 ()
⑨専従スタッフ の有無 (すべて○)	1. 専従スタッフ (有給) がいる 3. 専従スタッフはいない 2. 専従スタッフ (無給) がいる
⑩主に活動さ れている方の年代 (○印は2つまで)	1. 20代未満 4. 40代 7. 70代以上 2. 20代 5. 50代 3. 30代 6. 60代

貴団体の活動状況や活動に関する課題をお聞かせください

問5 団体の人材に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 役員(理事)のなり手がいない | 4. 専門的な知識・ノウハウの不足 |
| 2. 事務処理・会計に慣れている人がいない | 5. その他() |
| 3. 運営を手伝ってくれるスタッフが不足 | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問6 団体に参加してほしいのはどのような人材ですか?(○印はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 若い人材(学生など) | 5. 広報が得意な人(ニューズレターの作成等) |
| 2. ビジネス経験が豊富な人(リタイア層など) | 6. 自動車の運転ができる人 |
| 3. ITに強い人(パソコン、インターネット等) | 7. その他() |
| 4. 事務の経験がある人(書類作成、会計等) | 8. 特に必要としない |

問7 広報や参加者に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 広報が十分に行えていない | 4. 市民活動に対する社会の認知が低い |
| 2. イベント等の参加者が少ない | 5. その他() |
| 3. 利用者・参加者が固定化している | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問8 貴団体ではどのように情報発信をしていますか?(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. ニュースレター(広報紙)の発行 | 5. 「つどい」や市の広報紙への記事掲載 |
| 2. ホームページやブログ等の運営 | 6. その他 |
| 3. メールマガジンの発行 | () |
| 4. 公共施設等でのポスター掲示やチラシの配布 | 7. 特にしていない |

問9 団体の運営に関する課題をお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 会合や催しを開く会場が確保しにくい | 6. 他の団体との連携があまりできてない |
| 2. 活動する機会が確保しにくい | 7. 様々な支援制度が活用できていない |
| 3. 社会貢献的な活動が少ない | 8. その他() |
| 4. 活動資金が不足している | 9. 特に課題はない |
| 5. 行政との連携があまりできていない | |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

**市民活動支援ネットワークセンター「つどい」では機能強化を目指しています。
～どのようなサービスの充実が望まれるか、ご意見をお聞かせください～**

問 13 市民活動支援ネットワークセンター「つどい」が果たす役割として、次に示す①～⑤の役割はどの程度重要と思われるか。(項目ごとに○印は1つずつ)

	大変重要	重要	やや重要	重要でない
<記入例> ①個々の団体の活動支援	①	2	3	4
①個々の団体の活動支援 (情報提供、相談、研修、資金確保支援など)	1	2	3	4
②個々の団体の情報発信 (団体の活動紹介、活動の表彰など)	1	2	3	4
③市民活動に関わる層の拡大 (ボランティアの育成など)	1	2	3	4
④様々な団体のつながりづくり (協働のコーディネートなど)	1	2	3	4
⑤市民活動を活発するための行政への政策提案	1	2	3	4

A:セミナーや相談について

問 14 どのようなテーマのセミナーの開催を希望されますか。(○印はいくつでも)

1. ボランティア入門	7. 広報
2. NPO法人格の取得	8. IT活用 (パソコン、HP等)
3. 組織・団体運営・マネジメント	9. 資金確保
4. 理事会の運営	10. 他の団体との連携・協働
5. 会計・税務	11. その他 ()
6. 労務管理	12. 特にない

問 15 専門家に気軽に相談できるなら、どのようなことを相談したいですか。(○印はいくつでも)

1. ボランティア入門	7. 広報
2. NPO法人格の取得	8. IT活用 (パソコン、HP等)
3. 組織・団体運営・マネジメント	9. 資金確保
4. 理事会の運営	10. 他の団体との連携・協働
5. 会計・税務	11. その他 ()
6. 労務管理	12. 特にない

問 16 どのような時間帯に開催されると、セミナーや相談に参加しやすいですか。(○印は3つまで)

1. 平日午前	4. 土曜午前	7. 日曜午前
2. 平日午後	5. 土曜午後	8. 日曜午後
3. 平日夜間	6. 土曜夜間	9. 日曜夜間

B:活動にあたって必要となる情報や情報発信について

問 17 団体の運営にあたってどのような情報を必要とされていますか？（○印は3つまで）

1. 他の市民活動団体の取組に関わる情報（活動事例など）
2. 市民活動に関心を持っている人の情報（ボランティア希望者など）
3. 講演会やセミナー、イベントなどの情報（市民活動や専門分野に関わる内容）
4. 市民活動に対する行政等の支援制度に関わる情報
5. 助成金・補助金に関わる情報
6. 組織運営ノウハウに関わる情報（NPO法、組織運営、会計、広報など）
7. その他（ ）
8. 特にない

問 18 情報発信に関連して、どのような支援を希望されますか？（○印は3つまで）

1. 公共施設等でのポスターやチラシの掲示の支援
2. 見栄えのよいチラシやポスターの作成方法の指導
3. よみやすい広報紙の作成方法の指導
4. ホームページやブログ等の作成支援
5. 写真や動画の撮影や編集方法の指導
6. その他（ ）
7. 特にない

C:活動にあたっての必要となる資金の確保について

問 19 資金確保にあたってどのような支援を希望されますか。（○印は2つまで）

1. 助成金・補助金等の公募情報の提供
2. 助成金・補助金等の応募資料の作成指導
3. 資金確保に関するセミナーの開催
4. 「つどい」独自の活動資金の助成
5. その他（ ）
6. 特に必要としない

D:市民活動に関わる人材の育成について

問 20 市民活動の人材育成・確保にあたって、どのような支援を希望されますか。（○印は2つまで）

1. 市民活動への関心をもつ層を増やす講座等の開催
2. 個々の団体と参加希望者とのマッチング
3. 「つどい」のホームページや広報紙での人材募集の支援
4. 会計、監査などの専門性を持つ人材の紹介
5. その他（ ）
6. 特にない

問 21 市民活動に参加する層を増やすための方法として活動への「体験参加」という方法があります。「つどい」が今後「体験参加」を実施する場合に、体験希望者の受け入れにご協力いただくことは可能ですか。（○印は1つ）

1. 協力できる
2. 協力できない

(全ての回答者がお答えください)

問 26 今後、市民活動団体が地域活動団体と連携・協力していくためには、どのような取組が必要と思われるですか。(○印は3つまで)

- | |
|--|
| 1. 地域活動団体からの情報発信
2. 市民活動団体 (NPO、ボランティア等) からの情報発信
3. 地域活動団体や市民活動団体の情報を検索できる団体情報データベースの提供
4. 市民活動団体 (NPO、ボランティア等) と地域活動団体が交流できる機会
5. 市民活動団体 (NPO、ボランティア等) と地域活動団体が一緒に活動する場
6. その他 () |
|--|

問 26-1 地域活動団体等と連携・協力する場合、貴団体が提供できることをお聞かせください。

(例) 介護ボランティア活動を行っているため、子どもたちの介護体験学習などを支援できる

問 27 貴団体は、行政と協働したことはありますか。また、ある場合はその概要についてご記入ください。(○印は1つ)

※ここでの協働とは、行政との事業の共催、行政からの事業委託などのことです。

- | |
|----------------|
| 1. ある
2. ない |
|----------------|

→

(協働の概要)

問 27-1 行政と協働して「良かったこと」、「苦労したこと」、「工夫したこと」、あるいは「協働しない理由」、「協働できない理由」などをお聞かせください

市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関してご意見をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。

返信用封筒に入れて、**10月12日(金)中**にお近くのポストに投函してください。

八尾市市民活動ネットワークセンター
「つどい」の充実に向けてのアンケート調査
【校区まちづくり協議会(設立準備会)】

<<目 次>>

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収結果	1
(4) 調査期間	1
(5) 集計結果について	1
II. 集計結果	2
1. 活動地域の特徴	2
(1) 住民の居住年数の特徴(問1①)	2
(2) 地域の特徴(問1②)	2
(3) 祭りや行事(問1③)	3
(4) 住民同士の交流(問1④)	3
2. 校区まちづくり協議会設立準備会の活動をふりかえった感想	4
(1) 活動をふりかえって、「成果があった」と思われること(問2)	4
(2) 活動をふりかえって、「難しかった」と思われること(問3)	5
3. 校区まちづくり協議会の今後の活動意向	6
(1) 今後力を入れていきたい活動分野(問4、4-1)	6
(2) 特に充実して取り組みたいこと(問5)	7
4. 校区まちづくり協議会の活動状況や活動に関する課題	8
(1) 校区まちづくり協議会の人材に関する課題(問6)	8
(2) 校区まちづくり協議会に参加してほしい人材(問7)	9
(3) 広報や参加者に関する課題(問8)	10
(4) 校区まちづくり協議会の運営に関する課題(問9)	11
5. 「つどい」への期待・要望	12
(1) 「つどい」の認知度(問10)	12
(2) 「つどい」が果たす役割の重要度(問11)	12
(3) セミナーや相談について(問12、13、14)	13
(4) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について(問15、16)	14
(5) 活動にあたって必要となる資金の確保について(問17)	15
(6) 地域活動に関わる人材の育成について(問18)	15
6. 多様な団体との連携・協力について	16
(1) 多様な団体との連携・協力状況(問19、19-1)	16
(2) 市民活動団体の活動状況の認知度(問20)	18
(3) 市民活動団体との連携・協力の必要性(問21、21-1)	18
(4) 市民活動団体との連携・協力のために必要な取組(問22)	19
(5) 市民活動団体に協力を希望すること(問23)	20
(6) 市民活動団体との連携・協力にあたって、不安に感じること(問24)	20

7. 地域活動の活性化や校区まちづくり協議会の今後のあり方等に関する意見	21
--	----

1. 調査の概要

1. 調査の目的

八尾市では、平成16年に八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」を設置し、情報提供や相談、会議スペースや機材の貸出を通じて、市民活動の支援に取り組んできた。また、平成23年度から開始した八尾市第5次総合計画において、「地域分権」の考え方のもと、「みんなでつくる八尾」をまちづくりの目標の一つに掲げ、市民活動のより一層の活発化をめざしている。

上記の背景から、今後市民活動ネットワークセンター「つどい」の取り組みのより一層の充実を図るための調査研究を行うこととし、その一環として、校区まちづくり協議会（設立準備会）へのアンケート調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

校区まちづくり協議会（設立準備会）

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 回収結果

配布数：28票

回収数：28票

有効回答数：28票（有効回答率 100%）

(4) 調査期間

平成24年11月2日（発送）～平成25年1月9日

(5) 集計結果について

「N＝」は当該設問の回答者数を表しており、回答割合を算出する際の母数である。なお、集計に当たっては、小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答割合の合計は必ずしも100%にはならない。

また、複数回答の設問では、回答割合の合計は100%を上回ることがある。

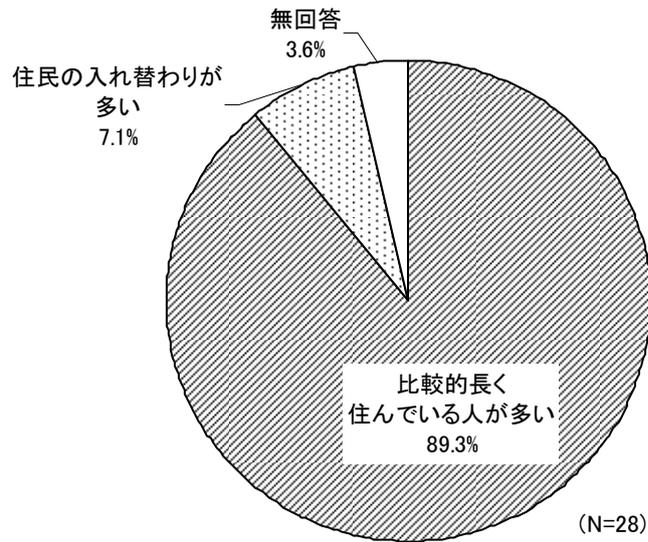
II. 集計結果

1. 活動地域の特徴

(1) 住民の居住年数の特徴 (問 1 ①)

・「比較的長く住んでいる人が多い」地域がほとんどである。

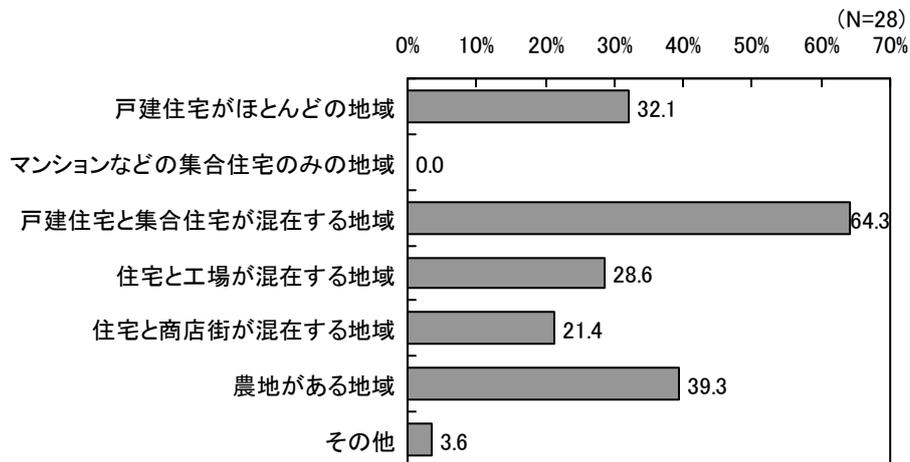
図表 1 住民の居住年数の特徴



(2) 地域の特徴 (問 1 ②)

・「戸建住宅と集合住宅が混在する地域」が64.3%と最も多い。

図表 2 地域の特徴(複数回答)



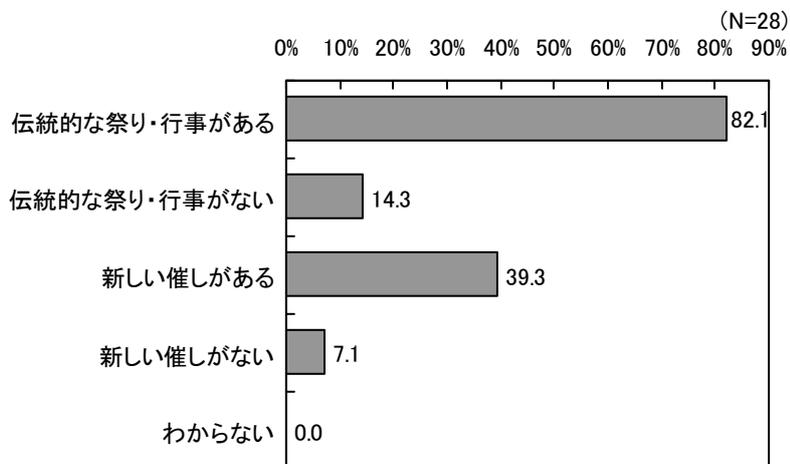
【「その他」の回答内容】

・約7割が公営・改良住宅で形成されている。

(3) 祭りや行事 (問 1 ③)

・「伝統的な祭り・行事がある」が82.1%と最も多い。

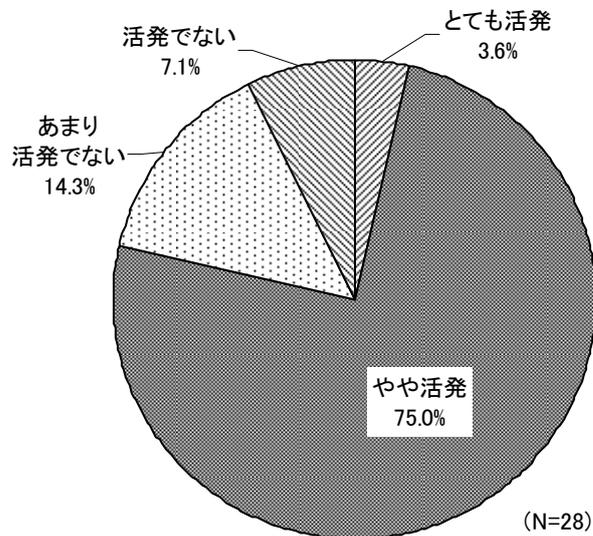
図表 3 祭りや行事(複数回答)



(4) 住民同士の交流 (問 1 ④)

・「やや活発」が最も多く、75.0%を占める。

図表 4 住民同士の交流

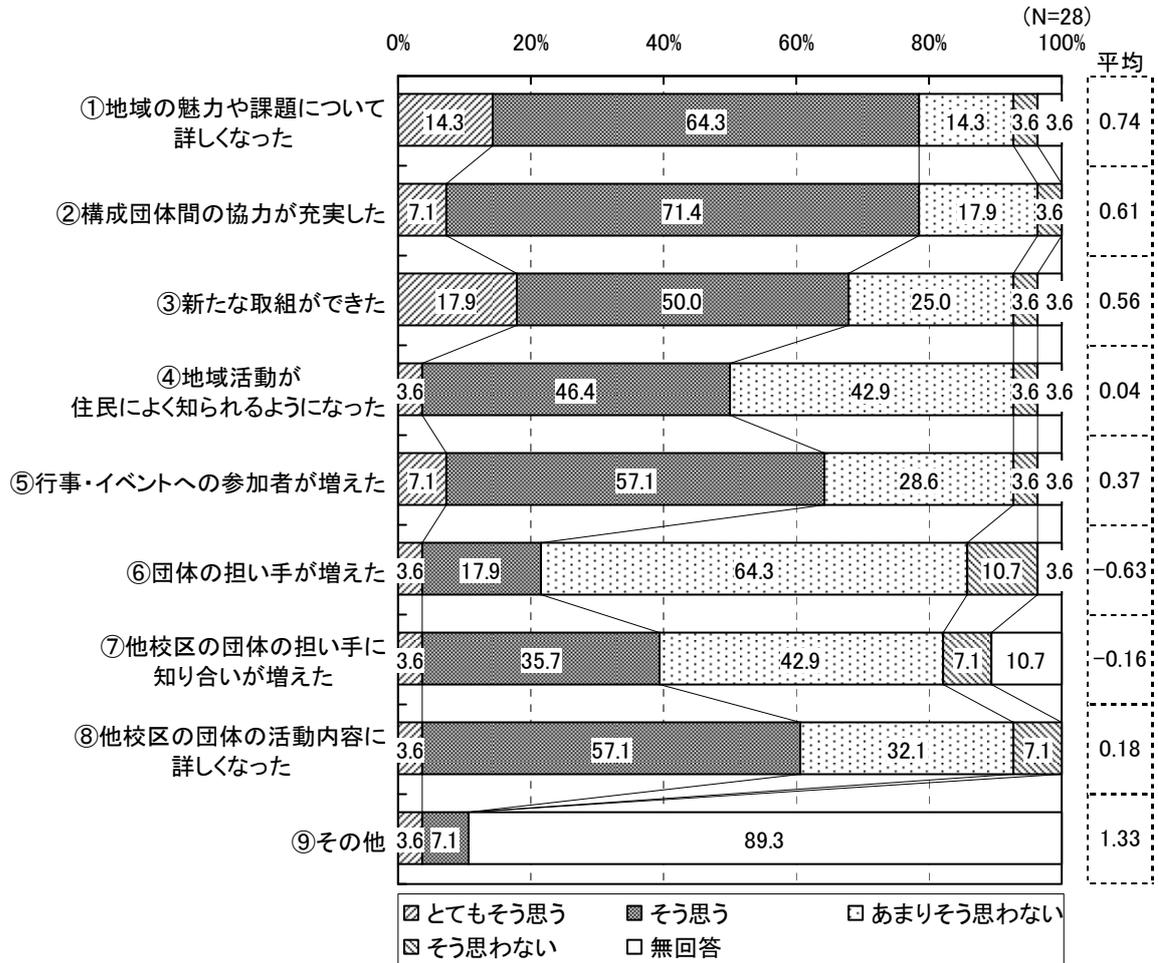


2. 校区まちづくり協議会設立準備会の活動をふりかえった感想

(1) 活動をふりかえて、「成果があった」と思われること（問2）

・最も成果があったと思われているのは「①地域の魅力や課題について詳しくなった」。次いで「②構成団体間の協力が充実した」、「③新たな取組ができた」の順となっている。

図表 5 「成果があった」と思われること



※平均は「とてもそう思う」=+2、「そう思う」=+1、「あまりそう思わない」=-1、「そう思わない」=-2とした加重平均値

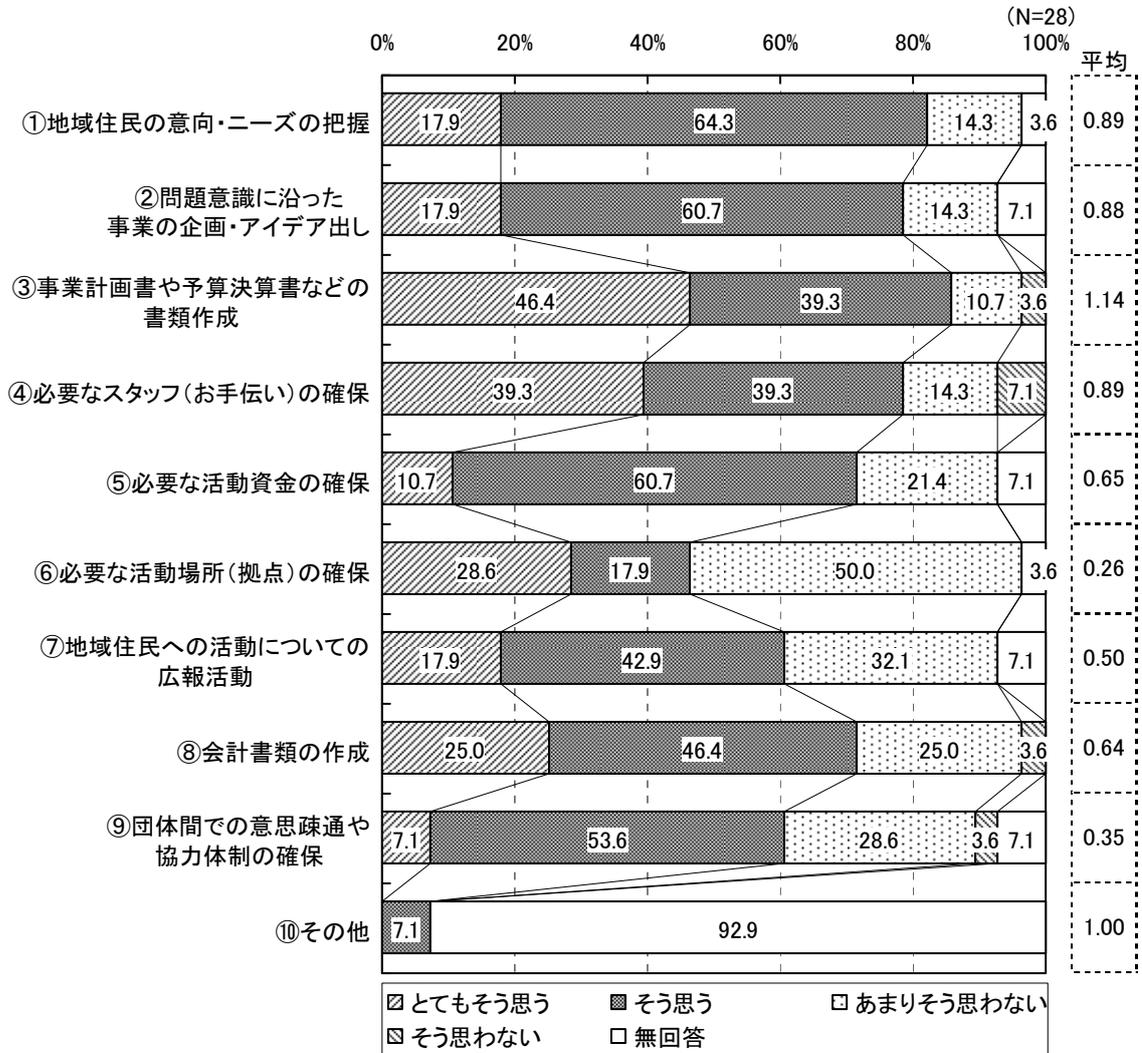
【「その他」の回答内容】

- ・ 学校関係とのつながりが多くなった。
- ・ 警察への協力ができた。
- ・ 団結力ができた。

(2) 活動をふりかえって、「難しかった」と思われること (問3)

・最も難しかったと思われているのは「③事業計画書や予算決算書などの書類作成」。次いで「④必要なスタッフ(お手伝い)の確保」、「①地域住民の意向・ニーズの把握」、「②問題意識に沿った事業の企画・アイデア出し」の順となっている。

図表 6 「難しかった」と思われること



※平均は「とてもそう思う」=+2、「そう思う」=+1、「あまりそう思わない」=-1、「そう思わない」=-2とした加重平均値

【「その他」の回答内容】

- ・ ボランティアの高齢化。若い人が出て欲しい。

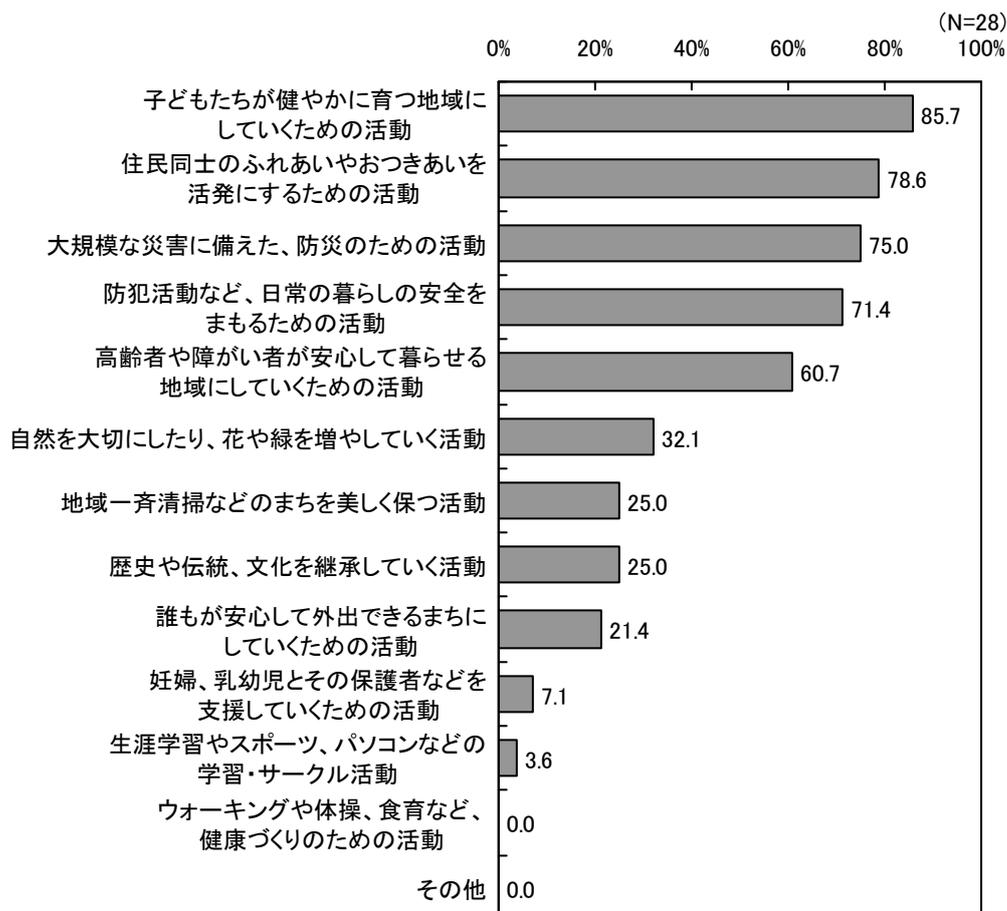
3. 校区まちづくり協議会の今後の活動意向

(1) 今後力を入れていきたい活動分野（問4、4-1）

a) 今後力を入れていきたい活動分野（問4）

・「子どもたちが健やかに育つ地域にしていくための活動」が85.7%と最も多い。次いで「住民同士のふれあいやおつきあいを活発にするための活動」が78.6%、「大規模な災害に備えた、防災のための活動」が75.0%となっている。

図表 7 今後力を入れていきたい活動分野(5つまで回答)



b) 今後力を入れていきたい活動の具体的なアイデア（問4-1）

・住民同士がより親密になれる交流を図る行事や、防災対策・防犯対策につながる活動などが具体的なアイデアとして挙げられている。

【住民同士の交流】

- ・小学校区に拡大した防災訓練、グラウンドゴルフ大会など（定例的に）。
- ・子どもたちを通じて住民同士がより親密になれるような行事に特に力を入れていきたい。
- ・地域一斉の清掃日を設定し、地域住民が各地区の清掃にあたり、お互いのふれあいを高めていく。

【防災・防犯】

- ・当地区は自治会活動が弱いので、今後必ず来る大規模な災害をテーマに地域での助けあい・支えあいの精神を持って頂けるように、自主防災組織の結成を進めていきたい。
- ・防犯・パトロール活動の充実。
- ・子どもたちの事故防止、活発な活動。
- ・防犯カメラ設置場所の周辺住民へ防犯カメラの効果を理解して頂くよう情報の提供に徹し、協力をお願いしていく。

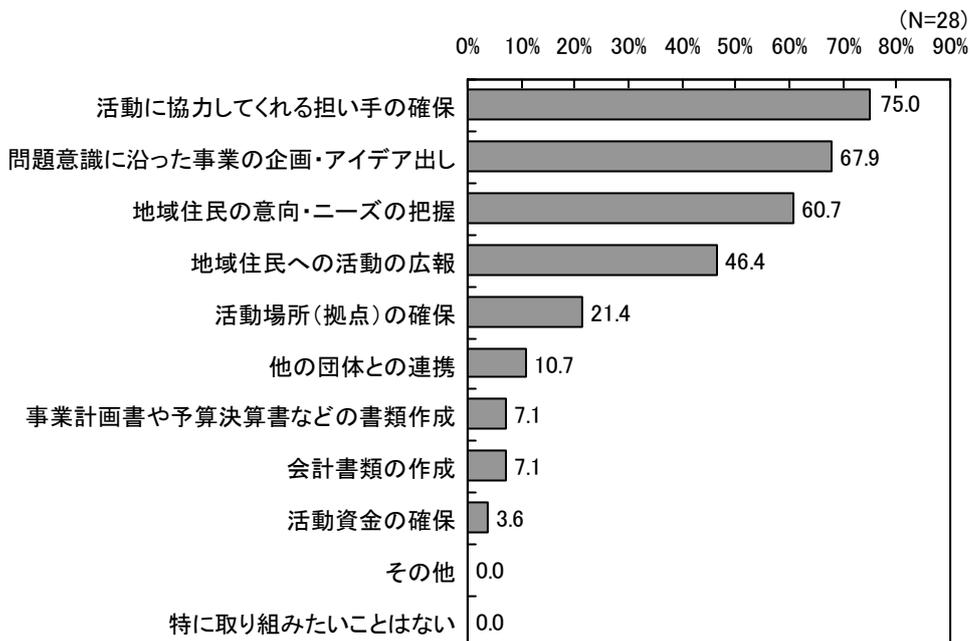
【その他】

- ・歴史・伝統文化を結ぶ遊歩道の設置。

(2) 特に充実して取り組みたいこと（問5）

・「活動に協力してくれる担い手の確保」が75.0%と最も多い。次いで「問題意識に沿った事業の企画・アイデア出し」が67.9%、「地域住民の意向・ニーズの把握」の60.7%となっている。

図表 8 特に充実して取り組みたいこと(3つまで回答)



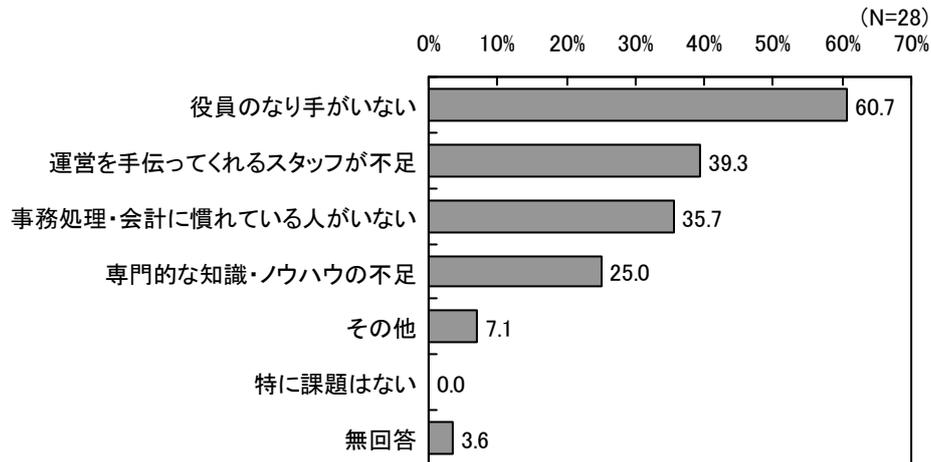
4. 校区まちづくり協議会の活動状況や活動に関する課題

(1) 校区まちづくり協議会の人材に関する課題（問6）

a) 校区まちづくり協議会の人材に関する課題

・「役員のなり手がいない」が60.7%と最も多い。次いで「運営を手伝ってくれるスタッフが不足」の39.3%。

図表 9 校区まちづくり協議会の人材に関する課題(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・人材発掘に苦労。

b) 人材に関する課題を解決するために行っている取組

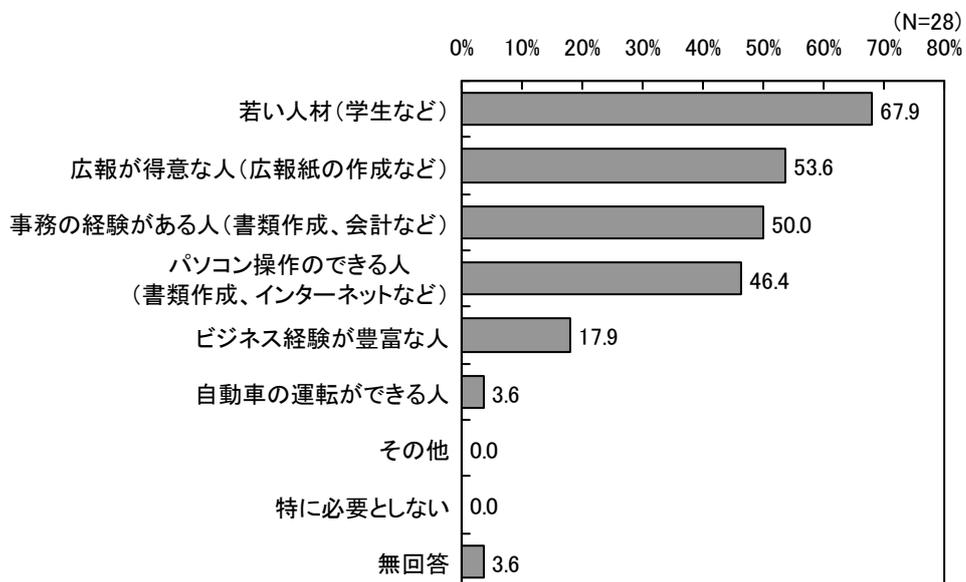
・人材を発掘するために日常的に情報を収集し、役員募集や知り合いへの声掛けなどに取り組んでいる。

- ・検討中として、校区まちづくり協議会の運営を手伝ってくれるボランティアスタッフを募集しようと考えている。
- ・常に発掘に努力するとともに、「役員といっても大した仕事はないよ」と軽い感じで誘っている。
- ・地域各団体との連携の模索。
- ・スタッフの仕事の軽減（報告書類の減少）。
- ・住民の意識改革（町会の世話すらやらない、町会未加入）。
- ・日頃からの情報収集。

(2) 校区まちづくり協議会に参加してほしい人材 (問7)

・「若い人材(学生など)」が最も多く、67.9%を占める。次いで「広報が得意な人(広報紙の作成など)」が53.6%となっている。

図表 10 校区まちづくり協議会に参加してほしい人材(複数回答)

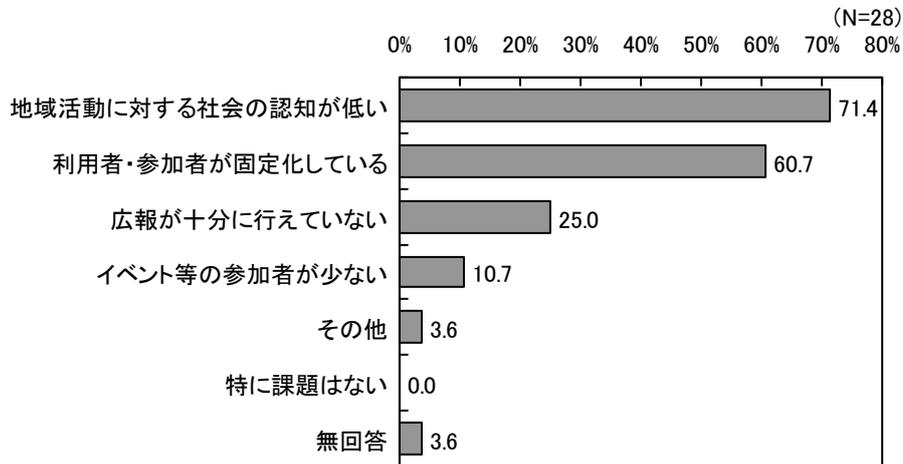


(3) 広報や参加者に関する課題（問8）

a) 広報や参加者に関する課題

・「地域活動に対する社会の認知が低い」が71.4%と最も多い。次いで「利用者・参加者が固定化している」が60.7%となっている。

図表 11 広報や参加者に関する課題(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・ 地域による違いが大きい。
- ・ 町会長が1～2年で替わる町会が多いため、取組の浸透がままならない。

b) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている取組

・ 広報については、主に広報紙の発行や回覧などを中心として認知度を高めようとしている。また、インターネットを活用している地域もある。

・ 参加者については、ファミリー世代や若い世代の参加を促進している、

【広報】

- ・ 広報を月1回発行することで認知度を高め、参加者を増やしたい。
- ・ 校区まちづくり協議会の活動を知ってもらうため、インターネットを活用して校区まちづくり協議会のブログを立ち上げたり、自治振興委員会を通じて回覧を回してたりといったことを行っている。
- ・ 町会住民への回覧の充実（回数、中身など）。
- ・ 回覧・ポスター以外に、口コミによる勧誘が必要。
- ・ 町会長の定着を図っている。

【参加者】

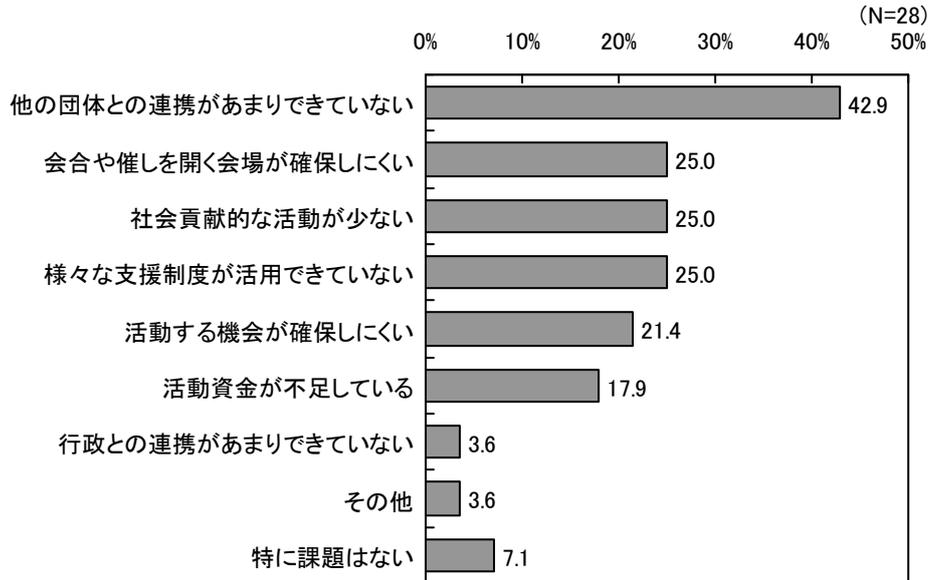
- ・ 若い世代の積極的な参加、推進力。
- ・ 青少年の育成を中心に、親が参加する行事を行う。

(4) 校区まちづくり協議会の運営に関する課題（問9）

a) 校区まちづくり協議会の運営に関する課題

・「他の団体との連携があまりできていない」が42.9%と最も多い。次いで「会合や催しを開く会場が確保しにくい」「社会貢献的な活動が少ない」「様々な支援制度が活用できていない」が25.0%となっている。

図表 12 校区まちづくり協議会の運営に関する課題(3つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・住民のニーズの把握が難しい。

b) 運営に関する課題を解決するために行っている取組

・年間活動計画の策定することで活動予定を明らかにしたり、バザー出展などにより活動資金を確保するといった取り組みがされている。

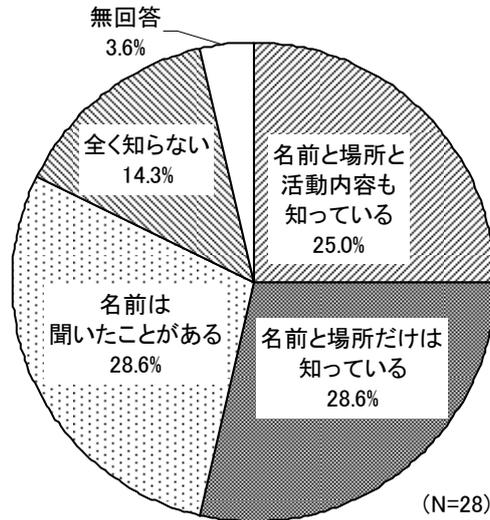
- ・年間活動計画など、予定をはっきりしようとしている。
- ・青少年に対する事業などは活発に行っているが、活動資金は不足している。不足分は模擬店・バザーなどの開催で補っているのが現状である。
- ・スタッフの専用部屋の確保。
- ・校区まちづくり協議会を通じて、市に対して校区集会所の建設を要望しようとしている。

5. 「つどい」への期待・要望

(1) 「つどい」の認知度 (問10)

・約8割は「つどい」の存在を知っており、「名前と場所と活動内容も知っている」が25.0%となっている。一方、「全く知らない」が14.3%となっている。

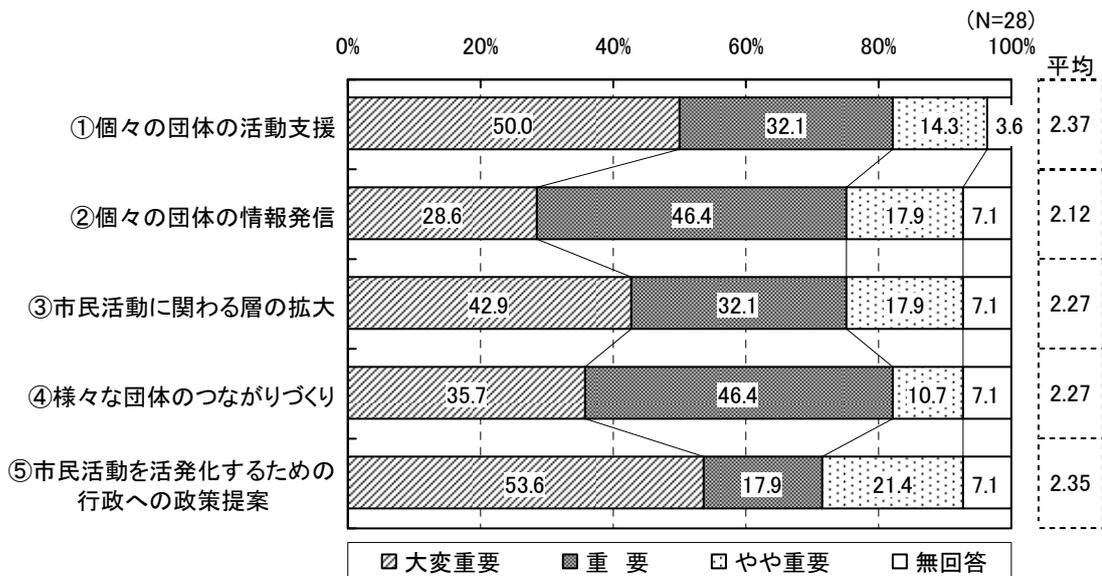
図表 13 「つどい」の認知度



(2) 「つどい」が果たす役割の重要度 (問11)

・「①個々の団体の活動支援」の重要度が最も高く、次いで「⑤市民活動を活発化するための行政への政策提案」となっている。

図表 14 「つどい」が果たす役割の重要度



※平均は「大変重要」=+3、「重要」=+2、「やや重要」=+1、「重要ではない」=0とした加重平均値

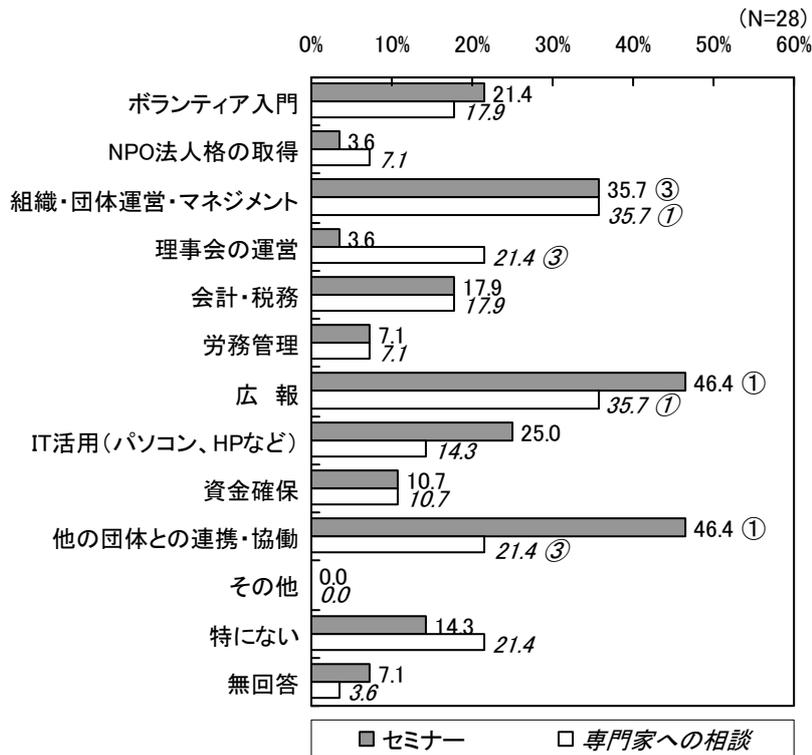
(3) セミナーや相談について (問12、13、14)

a) 希望するセミナー・専門家への相談の内容 (問12・問13)

・希望するセミナーのテーマをみると、「広報」「他の団体との連携・協働」が46.4%と最も多く、次いで「組織・団体運営・マネジメント」が35.7%となっている。

・専門家へ相談したい内容では、「組織・団体運営・マネジメント」「広報」が35.7%と最も多く、次いで「理事会の運営」「他の団体との連携・協働」が21.4%となっている。

図表 15 希望するセミナー・専門家への相談の内容(複数回答)

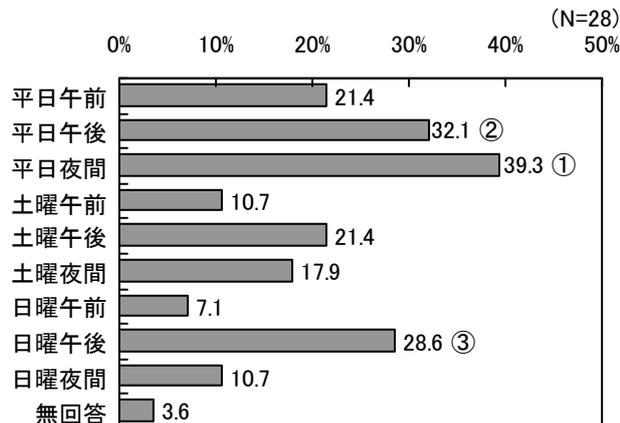


※丸数字は上位3位の項目

b) セミナー・相談に参加しやすい時間帯 (問14)

・「平日夜間」が39.3%と最も多い。次いで「平日午後」が32.1%、「日曜午後」が28.6%となっている。

図表 16 セミナーや相談に参加しやすい時間帯(3つまで回答)



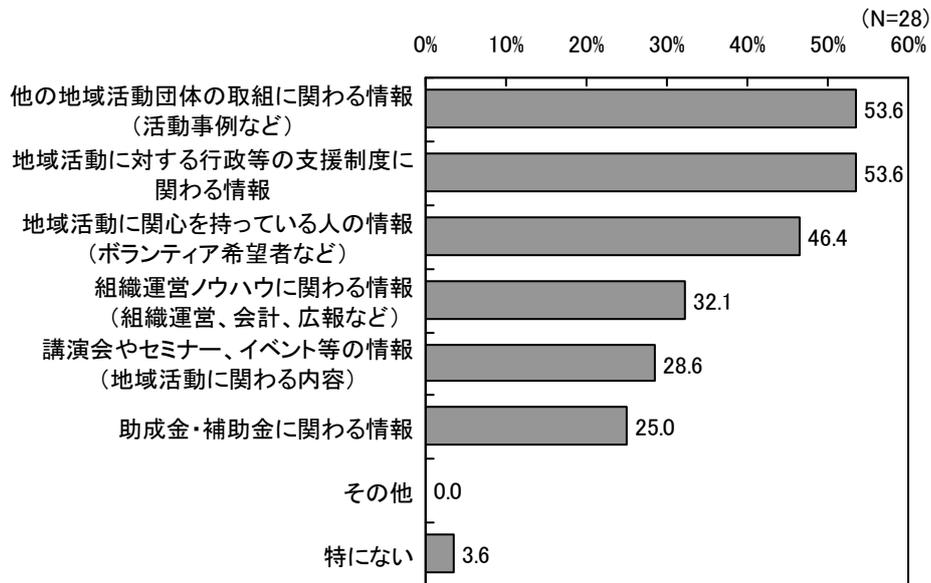
※丸数字は上位3位の項目

(4) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について (問15、16)

a) 校区まちづくり協議会の運営にあたって必要となる情報 (問15)

・「他の地域活動団体の取組に関わる情報(活動事例など)」「地域活動に対する行政等の支援制度に関わる情報」が53.6%と最も多く、次いで「地域活動に関心を持っている人の情報(ボランティア希望者など)」が46.4%となっている。

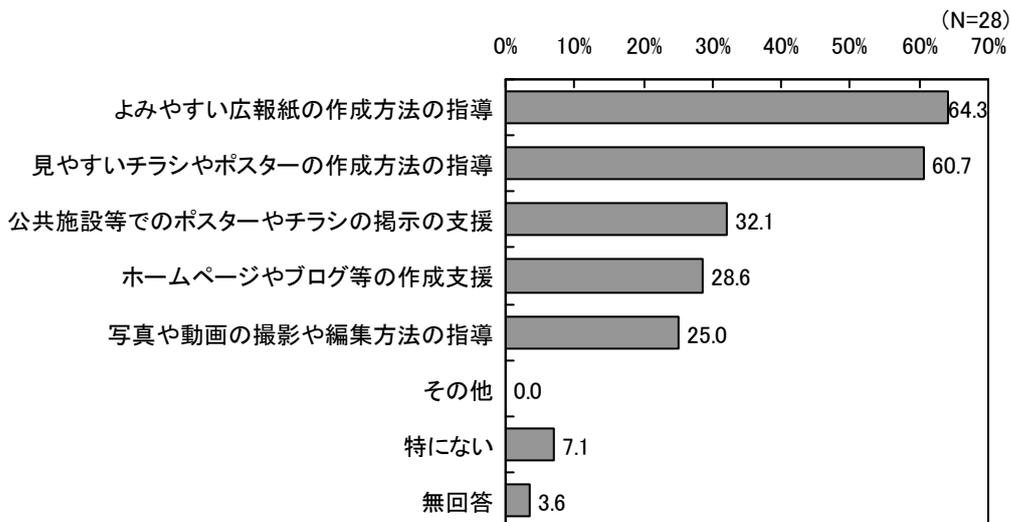
図表 17 校区まちづくり協議会の運営にあたって必要としている情報(3つまで回答)



b) 情報発信にあたって希望する支援 (問16)

・「よみやすい広報紙の作成方法の指導」が64.3%と最も多く、次いで「見やすいチラシやポスターの作成方法の指導」が60.7%となっている。

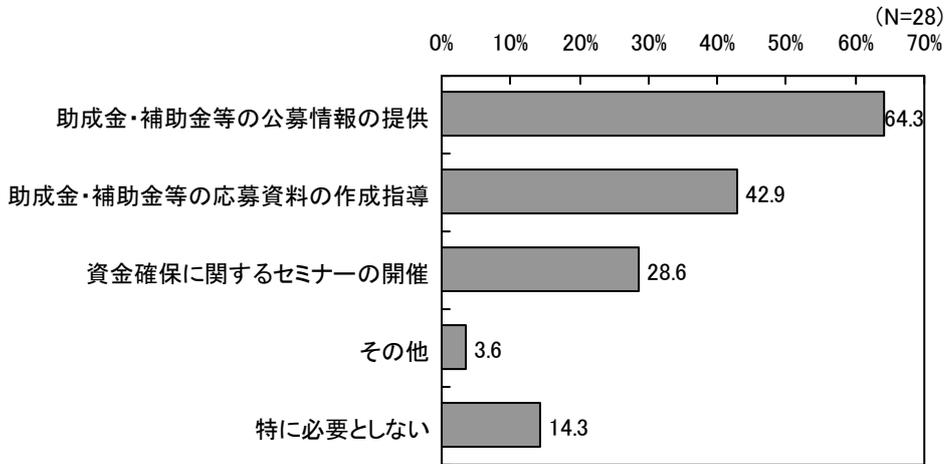
図表 18 情報発信にあたって希望する支援(3つまで回答)



(5) 活動にあたって必要となる資金の確保について（問17）

・「助成金・補助金等の公募情報の提供」が64.3%と最も多く、次いで「助成金・補助金等の応募資料の作成指導」が42.9%となっている。

図表 19 資金確保にあたって希望する支援(2つまで回答)



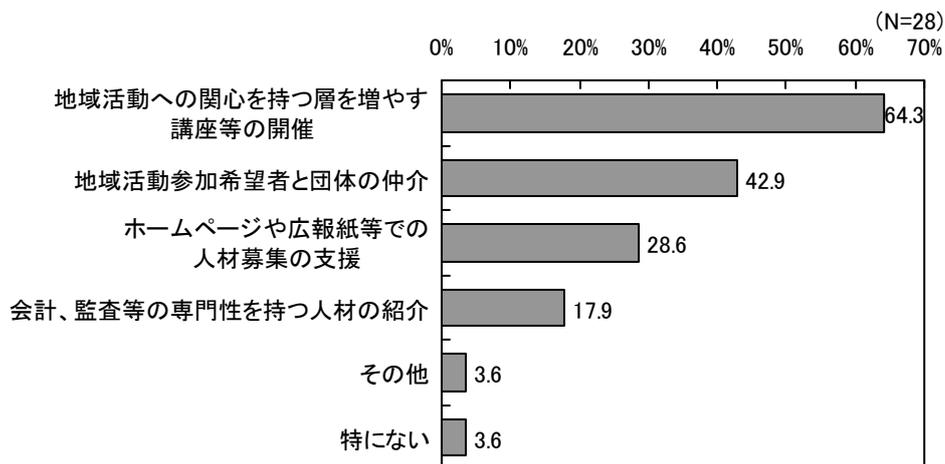
【「その他」の回答内容】

- ・市からの助成。

(6) 地域活動に関わる人材の育成について（問18）

・「地域活動への関心を持つ層を増やす講座等の開催」が64.3%と最も多く、次いで「地域活動参加希望者と団体の仲介」が42.9%となっている。

図表 20 地域活動の人材育成・確保にあたって希望する支援(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・小学校、中学校、高校、大学で働きかけて欲しい。授業項目に入れるなど。

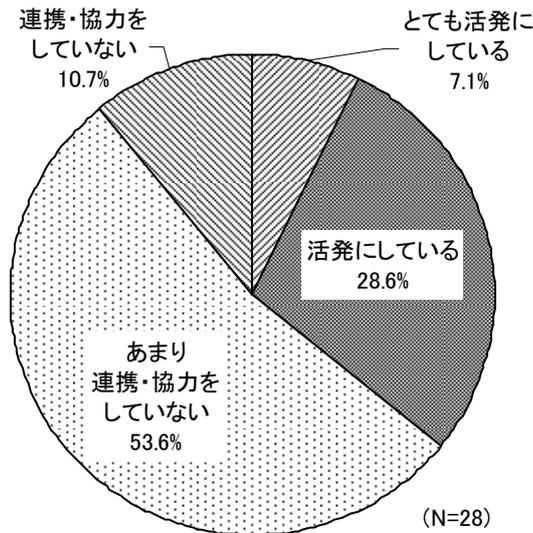
6. 多様な団体との連携・協力について

(1) 多様な団体との連携・協力状況 (問19、19-1)

a) 他の団体との連携・協力状況 (問19)

・多様な団体と連携・協力している(「とても活発にしている」「活発にしている」)協議会は35.7%となっている。一方、連携・協力をしていない(「あまり連携・協力をしていない」「連携・協力をしていない」)協議会は64.3%となっている。

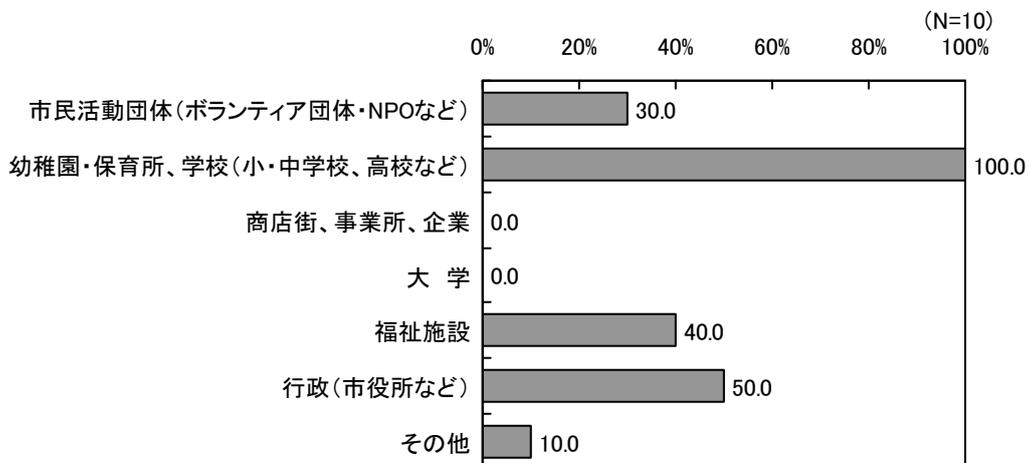
図表 21 他の団体との連携・協力状況



b) 連携・協力をしている団体 (問19-1)

・全ての協議会が「幼稚園・保育所、学校」と連携・協力している。「行政」と連携・協力している協議会は半数となっている。

図表 22 連携・協力をしている団体
(「とても活発にしている」「活発にしている」と回答した団体ベース、複数回答)



【「その他」の回答内容】

- ・八尾警察署、消防署。

c) 連携・協力の概要（問19-1）

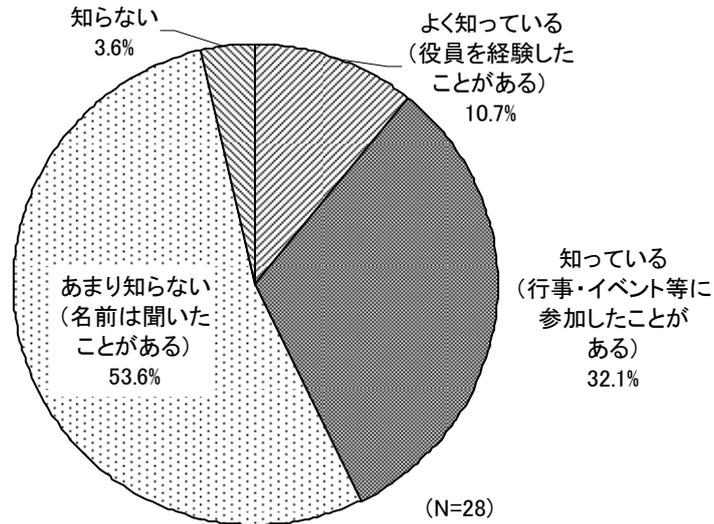
- ・イベントや行事に参加することをきっかけに連携・協力関係が生まれたり、深まったりといった状況が見られる。
- ・学校との連携・協力など、子どもを通じて連携が始まるという回答が多い。
- ・学校の敷地を備品の保管などに活用している例もある。

- ・イベントなどをきっかけに連携・協力するような関係が築くことができている。
- ・行事に参加することにより交流を深めている。
- ・子ども会、PTAの活動により出会いました。小学校と福祉委員会の連携と協力をしています。
- ・幼、小・中、高については長年にわたり協力・連携を行っている。特に平成12年より中学校区にて子どもたちの育成に頑張っている。
- ・声かけ運動、入学式、卒業式、運動会、ふれあい祭り、体育祭など。
- ・地域内に協議会の拠点となる建物（集会所など）がないため、小学校の敷地内に倉庫を建てさせてもらい、協議会の備品などを保管させてもらっている。

(2) 市民活動団体の活動状況の認知度 (問20)

・市民活動団体の活動状況について知っている(「よく知っている」「知っている」)協議会は42.8%となっている。一方、活動状況を知らない(「あまり知らない」「知らない」)協議会は57.2%となっている。

図表 23 市民活動団体の活動状況の認知度

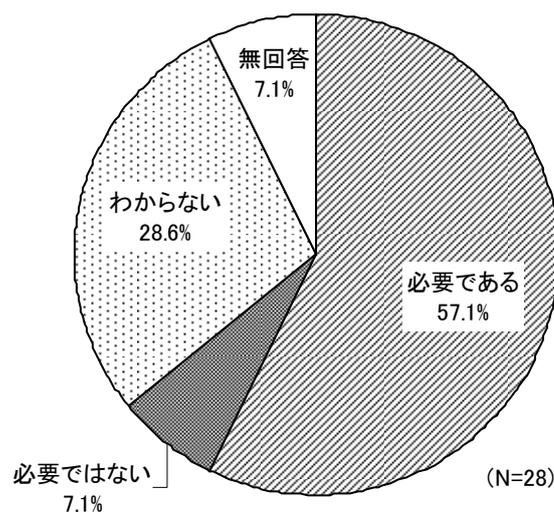


(3) 市民活動団体との連携・協力の必要性 (問21、21-1)

a) 地域活動を進めていく上での市民活動団体との連携・協力の必要性 (問21)

・市民活動団体との連携・協力が「必要である」と回答している協議会は57.1%となっている。

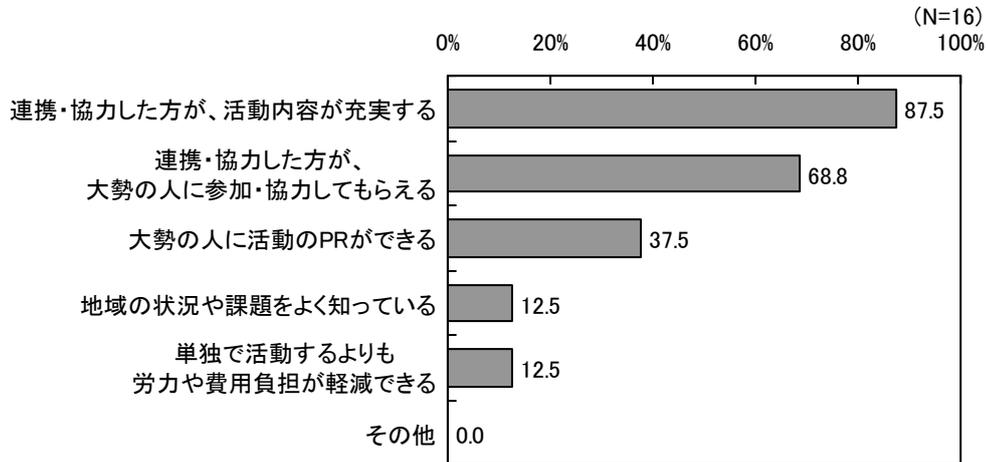
図表 24 地域活動を進めていく上での市民活動団体との連携・協力の必要性



b) 市民活動団体との連携・協力が必要と考える理由（問21-1）

・「連携・協力した方が、活動内容が充実する」が87.5%と最も多く、次いで「連携・協力した方が、大勢の人に参加・協力してもらえる」が68.8%となっている。

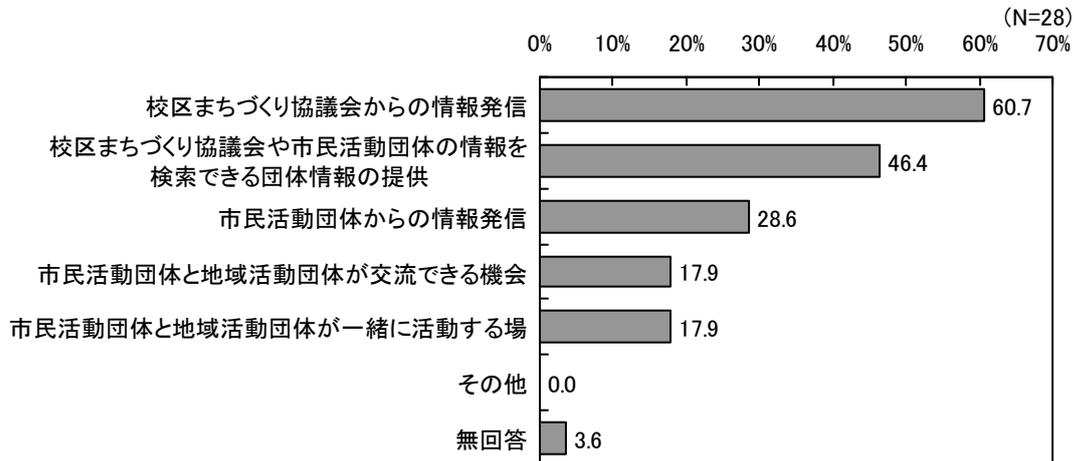
図表 25 市民活動団体との連携・協力が必要と考える理由
（「必要である」と回答した校区まちづくり協議会ベース、3つまで回答）



(4) 市民活動団体との連携・協力のために必要な取組（問22）

・「校区まちづくり協議会からの情報発信」が60.7%と最も多い。次いで「校区まちづくり協議会や市民活動団体の情報を検索できる団体情報の提供」が46.4%となっている。

図表 26 今後、校区まちづくり協議会が市民活動団体と連携・協力していくために必要な取組
（3つまで回答）



(5) 市民活動団体に協力を希望すること (問23)

・全般的なアドバイス、スタッフ育成、イベント運営など、さまざまな面からの協力が要望されている。

- ・全般にわたってアドバイスを頂きたい。
- ・青少年活動のためのスタッフの育成。
- ・イベントなどの地域活動の運営に協力してもらうこと。
- ・障がい者に対する援助活動の支援。
- ・地域活動団体がテーマ型団体を受け入れる体制づくりがまず必要です。
- ・年間を通してさまざまなイベントなどを行っています。まずは1つでも2つでも参加して頂き、交流を図ることから始めていってはどうでしょうか。

(6) 市民活動団体との連携・協力にあたって、不安に感じること (問24)

・地域に対する理解・認識がないのではないかという点や、活動の継続性に対して疑問を持つ一方、協力するとなった際に自分たちが対応できるかといった不安を感じている。

- ・単発的なものでなく、継続したものであって欲しい。
- ・円滑な運営。
- ・市民活動団体がどれだけ地域の全体を把握しているのか、また狭い認識による提案。長い歴史、慣習への理解の不足。
- ・市民活動団体の方は地域と連携しようとは本気で考えているのでしょうか。
- ・積極的に協力して頂いた場合、当方でそれに対応できるのだろうか。
- ・どういうことをしているか、よくわからない。

7. 地域活動の活性化や校区まちづくり協議会の今後のあり方等に関する意見

- ・校区まちづくり協議会として、地域の行事や活動を推進することで、地域住民の人間関係づくりやまちづくりのネットワーク形成を進めていくことがあり方として挙げられている。
- ・制度面としては、福祉委員会などの従来組織と校区まちづくり協議会の関連性を明確にしてほしいといった声や、事務手続きの簡素化や補助金の使途に関する柔軟な運用などについて要望があった。
- ・八尾市に対しては、地域活動の拠点となる施設の整備などの要望があった。

【校区まちづくり協議会のあり方】

- ・地域住民の意向を反映させる状態をつくり、住民の意見を丹念に吸い上げ、地域に行政に反映することが地域の輝き、活動につながっていく。地域住民の人間関係（子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人の関係）の構築を第一義に活動する。元気な笑顔をいっぱいひかるまちづくり。ふれあう、交流する、知る、学ぶ、伝える、そして支えあう活動の推進。現在行っている地域の諸行事を精査し、推進していく。
- ・イベントに参加しない人は何にも参加しない。地域の住民全てが地域の将来を自分のこととして捉えることがまちづくりの第一歩となる。地域の動向の情報発信、また祭事などへの参加の広報をし続けることにより住民が地域の現況を認識、また関心が持てるようになり、それぞれの地域に対しての責任が生まれるのではないかと。校区まちづくり協議会としては全ての住民を巻き込むことを第一と考え、発信、広報、意見を集約する。
- ・いろいろな問題が起きてくるのではないかと。その中で個人、構成団体の知恵を結集して、地域の活性化をめざして進むのみ。
- ・計画をしっかりと持ち、自分たちのまちづくりを考えて多くの人に参加できるようにする。参加者みなさんが喜び、楽しさを知る活動をしたい。

【校区まちづくり協議会の制度や事務手続きに対する要望】

- ・設立総会を始め、書類の簡素化に努めて欲しい。地域分権を推進するならば、結果報告、使用規制などの点についても緩くして欲しい。市職員OBなど、コミュニティ活動に通じた人を配置して欲しい。
- ・協議会への補助金の使途について、柔軟な対応（個別に行政が判断するとか）が必要と思われる。現状では活動がかなり制限・制約される。
- ・地区福祉委員会との関連の明確化。
- ・校区まちづくり協議会は複数の従来からの福祉委員会で構成されることが多いのではないかと。これまで福祉委員会を担っていた者が携わる可能性大（人材不足などで）。掛け持ちで仕事の負担増は必然。校区まちづくり協議会偏重を危惧する。予算もつきやすいので全体で進められるアイテムはよいとして、全体の同意の得にくいもの、きめ細かな対応が求められるアイテムが疎かにならないようにしたい。福祉委員会の衰退がないようにしたい。

【外部との連携】

- ・ NPO・市民団体などとの連携は現在考えていない。今後議論を重ねていく中で適時考え、協力・交流を促していきたい。まず地元から協力を求めていきたい。
- ・ 長年居住され活動されている方々など多くの有識者の参加を求めていきたい。
- ・ 地域の諸団体（地域、学校、行政、企業）のネットワークづくりが私たちの大きな課題だと思う。

【人材の育成・確保】

- ・ 地域活動をすることにし組織を充実する必要があるが、その人材育成に新しい人が集まりにくい。地域の各団体の役員が重複して何年も続いていることもある。当地域では小学校PTA、中学校PTAを退任しても何らかの方法で地域団体に残れる方法を検討中です。

【八尾市に対する意見・要望】

- ・ まちづくり協議会はこれから地域のいろいろな団体のまとめ役になっていくのだらうと思います。市もバラバラに施策を行うのではなく、これを機会に事業を一本化するなどの努力をしていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・ できるだけ多くの地域住民のニーズを吸い上げることが必要と考えている。
- ・ 地域の声を聞き進めて参りますので、どうぞ温かく助けて頂けますよう行政にお願い申し上げます。
- ・ リーダーとして誠心誠意で尽力するのみと考えている。
- ・ 集会所が小学校の1教室のみで、しかも平日の昼間は使えないため、コミュニティセンターのような施設が欲しい。
- ・ 地域住民のニーズの把握、地域活動の広報の充実。地区の中心部に会館の建設を強く希望する。

校区まちづくり協議会設立準備会の活動をふりかえった感想をお聞かせください。

問2 校区まちづくり協議会設立準備会の活動をふりかえって、「成果があった」と思われることをお聞かせください。(①～⑨の項目ごとに○印は1つずつ)

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
<記入例> 各団体の活動内容に詳しくなった	1	②	3	4
①地域の魅力や課題について詳しくなった	1	2	3	4
②構成団体間の協力が充実した	1	2	3	4
③新たな取組ができた	1	2	3	4
④地域活動が住民によく知られるようになった	1	2	3	4
⑤行事・イベントへの参加者が増えた	1	2	3	4
⑥団体の担い手が増えた	1	2	3	4
⑦他校区の団体の担い手に知り合いが増えた	1	2	3	4
⑧他校区の団体の活動内容に詳しくなった	1	2	3	4
⑨その他 ()	1	2	3	4

問3 校区まちづくり協議会設立準備会の活動をふりかえって、「難しかった」と思われることをお聞かせください。(①～⑩の項目ごとに○印は1つずつ)

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
<記入例> 地域住民の意向・ニーズの把握	1	②	3	4
①地域住民の意向・ニーズの把握	1	2	3	4
②問題意識に沿った事業の企画・アイデア出し	1	2	3	4
③事業計画書や予算決算書などの書類作成	1	2	3	4
④必要なスタッフ（お手伝い）の確保	1	2	3	4
⑤必要な活動資金の確保	1	2	3	4
⑥必要な活動場所（拠点）の確保	1	2	3	4
⑦地域住民への活動についての広報活動	1	2	3	4
⑧会計書類の作成 (現金の適切な取り扱い、領収書の整理など)	1	2	3	4
⑨団体間での意思疎通や協力体制の確保	1	2	3	4
⑩その他 ()	1	2	3	4

貴団体の活動の今後の意向をお聞かせください。

問4 貴団体は、今後どのような分野の活動に、特に力を入れていきたいと考えていますか？

(○印は5つまで)

1. 住民どうしのふれあいやおつきあいを活発にするための活動
2. 子どもたちが健やかに育つ地域にしていくための活動
3. 妊婦、乳幼児とその保護者などを支援していくための活動
4. 高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域にしていくための活動
5. 大規模な災害に備えた、防災のための活動
6. 防犯活動など、日常の暮らしの安全をまもるための活動
7. 誰もが安心して外出できるまちにしていくための活動
8. 自然を大切にしたり、花や緑を増やしていく活動
9. 生涯学習やスポーツ、パソコンなどの学習・サークル活動
10. ウォーキングや体操、食育など、健康づくりのための活動
11. 地域一斉清掃などのまちを美しく保つ活動
12. 歴史や伝統、文化を継承していく活動
13. その他 ()

↓

問4-1 具体的な活動のアイデアがございましたらご記入ください。

問5 今後、協議会活動を本格化していくにあたって、特に、充実して取り組みたいことをお聞かせください。(○は3つまで)

1. 地域住民の意向・ニーズの把握
2. 問題意識に沿った事業の企画・アイデア出し
3. 事業計画書や予算決算書などの書類作成
4. 活動に協力してくれる担い手の確保
5. 活動資金の確保
6. 活動場所(拠点)の確保
7. 地域住民への活動の広報
8. 会計書類の作成(現金の適切な取り扱い、領収書の整理など)
9. 他の団体との連携
10. その他 ()
11. 特に取り組みたいことはない

貴団体の活動状況や活動に関する課題をお聞かせください。

問6 団体の人材に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 役員のなり手がいない | 4. 専門的な知識・ノウハウの不足 |
| 2. 事務処理・会計に慣れている人がいない | 5. その他 () |
| 3. 運営を手伝ってくれるスタッフが不足 | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問7 団体に参加してほしいのはどのような人材ですか？(○印はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. 若い人材 (学生など) | 5. 広報が得意な人 (広報紙の作成等) |
| 2. ビジネス経験が豊富な人 | 6. 自動車の運転ができる人 |
| 3. パソコン操作のできる人
(書類作成、インターネット等) | 7. その他 () |
| 4. 事務の経験がある人 (書類作成、会計等) | 8. 特に必要としない |

問8 広報や参加者に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 広報が十分に行えていない | 4. 地域活動に対する社会の認知が低い |
| 2. イベント等の参加者が少ない | 5. その他 () |
| 3. 利用者・参加者が固定化している | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問9 団体の運営に関する課題をお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 会合や催しを開く会場が確保しにくい | 6. 他の団体との連携があまりできてない |
| 2. 活動する機会が確保しにくい | 7. 様々な支援制度が活用できていない |
| 3. 社会貢献的な活動が少ない | 8. その他 () |
| 4. 活動資金が不足している | 9. 特に課題はない |
| 5. 行政との連携があまりできていない | |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

**市民活動支援ネットワークセンター「つどい」では機能強化を目指しています。
～どのようなサービスの充実が望まれるか、ご意見をお聞かせください～**

本市では、市民活動の活性化をめざして、平成 16 年に八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」を設置（市役所北側 藤井寺行バス停前 1 階）し、情報提供や相談、会議スペースや印刷機器の提供などを行っています。現在、その活動の充実に向けた方向性を検討しています。

問 10 市民活動支援ネットワークセンター「つどい」を知っていますか。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 名前と場所と活動内容も知っている | 3. 名前は聞いたことがある |
| 2. 名前と場所だけは知っている | 4. 全く知らない |

問 11 （上記の説明を読んだ上で）市民活動支援ネットワークセンター「つどい」が果たす役割として、次に示す①～⑤の役割はどの程度重要と思われますか。（項目ごとに○印は 1 つずつ）

	大変重要	重要	やや重要	重要でない
<記入例>	①	2	3	4
①個々の団体の活動支援				
①個々の団体の活動支援 （情報提供、相談、研修、資金確保支援など）	1	2	3	4
②個々の団体の情報発信 （団体の活動紹介、活動の表彰など）	1	2	3	4
③市民活動に関わる層の拡大 （ボランティアの育成など）	1	2	3	4
④様々な団体のつながりづくり （協働のコーディネートなど）	1	2	3	4
⑤市民活動を活発するための行政への政策提案	1	2	3	4

A: セミナーや相談について

問 12 どのようなテーマのセミナーの開催を希望されますか。（○印はいくつでも）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. ボランティア入門 | 7. 広報 |
| 2. NPO法人格の取得 | 8. IT活用（パソコン、ホームページ等） |
| 3. 組織・団体運営・マネジメント | 9. 資金確保 |
| 4. 理事会の運営 | 10. 他の団体との連携・協働 |
| 5. 会計・税務 | 11. その他（ ） |
| 6. 労務管理 | 12. 特にない |

問 13 専門家に気軽に相談できるなら、どのようなことを相談したいですか。（○印はいくつでも）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. ボランティア入門 | 7. 広報 |
| 2. NPO法人格の取得 | 8. IT活用（パソコン、ホームページ等） |
| 3. 組織・団体運営・マネジメント | 9. 資金確保 |
| 4. 会議の運営 | 10. 他の団体との連携・協働 |
| 5. 会計・税務 | 11. その他（ ） |
| 6. 労務管理 | 12. 特にない |

問 14 どのような時間帯に開催されると、セミナーや相談に参加しやすいですか。(○印は3つまで)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 4. 土曜午前 | 7. 日曜午前 |
| 2. 平日午後 | 5. 土曜午後 | 8. 日曜午後 |
| 3. 平日夜間 | 6. 土曜夜間 | 9. 日曜夜間 |

B:活動にあたって必要となる情報や情報発信について

問 15 団体の運営にあたってどのような情報を必要とされていますか？(○印は3つまで)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 他の地域活動団体の取組に関わる情報(活動事例など) |
| 2. 地域活動に関心を持っている人の情報(ボランティア希望者など) |
| 3. 講演会やセミナー、イベントなどの情報(地域活動に関わる内容) |
| 4. 地域活動に対する行政等の支援制度に関わる情報 |
| 5. 助成金・補助金に関わる情報 |
| 6. 組織運営ノウハウに関わる情報(組織運営、会計、広報など) |
| 7. その他() |
| 8. 特にない |

問 16 貴団体からの情報発信に関連して、どのような支援を希望されますか？(○印は3つまで)

- | |
|--------------------------|
| 1. 公共施設等でのポスターやチラシの掲示の支援 |
| 2. 見やすいチラシやポスターの作成方法の指導 |
| 3. よみやすい広報紙の作成方法の指導 |
| 4. ホームページやブログ等の作成支援 |
| 5. 写真や動画の撮影や編集方法の指導 |
| 6. その他() |
| 7. 特にない |

C:活動にあたっての必要となる資金の確保について

問 17 資金確保にあたってどのような支援を希望されますか。(○印は2つまで)

- | |
|-----------------------|
| 1. 助成金・補助金等の公募情報の提供 |
| 2. 助成金・補助金等の応募資料の作成指導 |
| 3. 資金確保に関するセミナーの開催 |
| 4. その他() |
| 5. 特に必要としない |

D:地域活動に関わる人材の育成について

問 18 地域活動の人材育成・確保にあたって、どのような支援を希望されますか。(○印は2つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 地域活動への関心をもつ層を増やす講座等の開催 |
| 2. 地域活動参加希望者と団体の仲介 |
| 3. ホームページや広報紙等での人材募集の支援 |
| 4. 会計、監査などの専門性を持つ人材の紹介 |
| 5. その他() |
| 6. 特にない |

八尾市市民活動ネットワークセンター
「つどい」の充実に向けてのアンケート調査
【庁内関係課】

<<目 次>>

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 回収結果	1
(4) 調査期間	1
(5) 集計結果について	1
II. 集計結果	2
1. 市民活動団体と行政との協働について	2
(1) 実施している協働の取組(問1)	2
(2) 今後、市民活動団体と実施していきたい協働について(問2)	5
(3) 市民活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと (問3、4)	6
(4) 市民活動団体との協働を進めていく上での課題(問5)	7
2. 地域活動団体と行政との協働について	9
(1) 今後、地域活動団体と実施していきたい協働について(問6)	9
(2) 地域活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと (問7、8)	10
(3) 地域活動団体との協働を進めていく上での課題(問9)	11
3. 協働の相手先についての認識	12
(1) 協働の相手先の人材に関する課題(問10)	12
(2) 市民活動や地域活動に参加するとよいと思う人材(問11)	13
(3) 協働の相手先の広報や参加者に関する課題(問12)	14
(4) 協働の相手先の団体の運営に関する課題(問13)	15
(5) 協働の相手先の団体に期待する取組(問14)	16
4. 「つどい」への期待・要望	17
(1) 「つどい」の認知度(問15、15-1)	17
(2) 「つどい」が果たす役割の重要度(問16)	18
(3) 「つどい」に期待する役割(問17)	18
(4) 協働の相手先が受講するとよいと思うセミナーのテーマ(問18)	19
(5) 協働の相手先が入手するとよいと思う情報(問19)	20
(6) 協働の相手先の資金確保の充実のために必要な支援(問20)	20
(7) 市民活動の人材育成・確保にあたって必要な支援(問21)	21
5. 多様な団体との連携・協力について	22
(1) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力の必要性(問22、22-1、22-2)	22
(2) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力のために必要な取組(問23)	23
6. 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見	24

1. 調査の概要

1. 調査の目的

八尾市では、平成16年に八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」を設置し、情報提供や相談、会議スペースや機材の貸出を通じて、市民活動の支援に取り組んできた。また、平成23年度から開始した八尾市第5次総合計画において、「地域分権」の考え方のもと、「みんなでつくる八尾」をまちづくりの目標の一つに掲げ、市民活動のより一層の活発化をめざしている。

上記の背景から、今後市民活動ネットワークセンター「つどい」の取り組みのより一層の充実を図るための調査研究を行うこととし、その一環として、八尾市各課へのアンケート調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

八尾市各課

(2) 調査方法

メール配布・メール回収

(3) 回収結果

配布数：18票

回収数：16票

有効回答数：16票（有効回答率 88.9%）

(4) 調査期間

平成24年11月2日～平成24年12月27日

(5) 集計結果について

「N＝」は当該設問の回答者数を表しており、回答割合を算出する際の母数である。なお、集計に当たっては、小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答割合の合計は必ずしも100%にはならない。

また、複数回答の設問では、回答割合の合計は100%を上回ることがある。

II. 集計結果

1. 市民活動団体と行政との協働について

(1) 実施している協働の取組（問1）

- ・協働の方法としては「委託」が最も多く、協働の相手先の専門性を活かして事業を実施している取り組みが多く見られる。
- ・主にイベントの運営などでは、「共催」により行政が事務や事業負担の役割を担い、相手先が企画・運営を担っている例が多い。

図表 1 実施している協働(相手先・内容・方法)

担当課	NPOとの協働の状況			協働の方法	協働の役割分担	
	事業名	協働の内容	分野		市民等	行政
市政情報課	「点字広報」発行・配送業務委託	毎月20日に発行する「やお市政だより」(年12回発行)の点字版を本市が提出する原稿に基づき調整し、発行する	保健、医療、福祉の増進	委託	「やお市政だより」の原稿を基に点字広報を作成し、希望者に配布している	「やお市政だより」の内容が確定した時点で協働の相手先に原稿を渡す。でき上がった点字広報を関係課・機関へ配布し、一部広報係で保管している
	「声の市政だより」発行・配送業務委託	毎月20日に発行する「やお市政だより」(年12回発行)のカセットテープ版・DAISY版を本市が提出する原稿に基づき調整し、発行する	保健、医療、福祉の増進	委託	「やお市政だより」の原稿を基に声の市政だよりを作成し、希望者に配布している	「やお市政だより」の内容が確定した時点で協働の相手先に原稿を渡す。出来上がった声の市政だよりを市ホームページで公開している
人事課 人材育成室	職員研修・新規採用職員研修(フォローアップ)	新規採用職員研修(フォローアップ)「障がい者理解のための講座」の実施	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	市の職員研修において、専門的な視点から講義を行う	受講者の割り出し、召集。研修会場の準備、設営。委託料の支払い。効果の検証
	職員研修・中堅職スパイラルアップ研修・人権学習	中堅職スパイラルアップ研修・人権学習「子どもの声に耳を傾けよう」の実施	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	市の職員研修において、専門的な視点から講義を行う	受講者の割り出し、召集。研修会場の準備、設営。委託料の支払い。効果の検証
	職員研修・監督職研修・新任係長研修・人権学習	監督職研修・新任係長研修・人権学習「障がい者の人権」の実施	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	市の職員研修において、専門的な視点から講義を行う	受講者の割り出し、召集。研修会場の準備、設営。委託料の支払い。効果の検証
	職員研修・中堅職研修及び専門研修	中堅職スパイラルアップ研修及び専門研修「わかりやすく伝える技術」の実施	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	市の職員研修において、専門的な視点から講義を行う	受講者の割り出し、召集。研修会場の準備、設営。委託料の支払い。効果の検証
人権政策課	人権啓発事業	人権啓発推進委員養成研修(年5回)、一日研修会、みんなのしあわせを築く八尾市民集会、地区人権研修事業等の実施	人権の擁護、平和の推進	委託	地区人権研修における企画・運営、場所の提供等	事務局機能
	人権啓発業務	①世界人権宣言八尾市実行委員会事務局業務 ②ひゅーまんフェスタ関係業務 ③地域人権啓発推進関係アドバイザー業務 ④差別事象等防止啓発イベントの企画、開催業務 ⑤その他、人権啓発に関し本市が必要と認める業務	人権の擁護、平和の推進	委託	各種事業における企画・運営、コーディネート等	各種事業の企画・運営、広報、開催場所の確保等
	人権啓発事業	①ひゅーまんフェスタ すべての人権が尊重されるまちづくりの取り組みの一環として、市と市民が協働で人権の大切さを考えることを目的として、八尾市、八尾市教育委員会、世界人権宣言八尾市実行委員会の三者共催で、セミナー、展示、ワークショップ等さまざまな形態での人権啓発イベントを一同に会した形で実施している ②世界人権宣言パネル展 すべての人権が尊重されるまちづくりの取り組みの一環として、世界人権宣言等に触れ、人権の大切さについて考える機会づくりとなる催しの企画・運営・実施	人権の擁護、平和の推進	共催	事業の企画・運営・実施等	事務局機能、事業の企画・運営、広報、開催場所の確保等
文化国際課	外国市民相談事業	本市の外国人登録者数のうち、占める割合の高いイングリ、中国語及びベトナム語を対象とした生活相談を実施する	人権の擁護、平和の推進	委託	各種行政手続きや生活等に関する相談対応	相談受付場所の提供
	外国人市民情報提供事業	中国語、ベトナム語、英語の3ヶ国語に日本語を併記した、行政情報・コミュニティ情報を盛り込んだ情報誌を年6回発行	人権の擁護、平和の推進	委託	多言語情報誌の作成、編集会議の実施	編集会議の場所の提供
	文化会館の管理運営	芸術文化の拠点施設である文化会館の管理運営	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	文化会館の管理・運営	事業費の負担(指定管理料に含む) 施設の改修
	芸術文化の課外授業	市内小学校及び中学校の希望する学校に講師を派遣し、児童・生徒に芸術にふれるきっかけを提供する	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	派遣先、講師の調整	事業費の負担(指定管理料に含む)
	12演劇フェスティバルin八尾	八尾市文化会館において、中学生・高校生・大学生や市民による演劇・人形劇・よみきかせ、またプロによる舞台劇などを上演する	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	実行委員会形式で事業を検討し実施した	事業費の負担(指定管理料に含む)

担当課	NPOとの協働の状況			協働の方法	協働の役割分担	
	事業名	協働の内容	分野		市民等	行政
高齢福祉課	高齢者住宅改造費助成事業	高齢者住宅改造費助成事業の事務手続きのうち、次の業務を委託。①建築士としての助言②改造計画図作成③施工説明及び業者説明④見積書審査および金額確定⑤竣工検査	保健、医療、福祉の増進	委託	・建築士としての助言 ・改造計画図の作成 ・施工および業者への説明 ・見積書審査および金額の確定 ・竣工検査	委託料の支払い 審査 受付
	老人健康マッサージ事業	高齢者の健康維持・増進を図るため、週に4日マッサージを施している	保健、医療、福祉の増進	委託	マッサージ治療を希望する高齢者への施術サービスを提供	委託料の支払い
	地区敬老祝寿事業	地区ごとに敬老行事を開催	保健、医療、福祉の増進	委託	地区ごとに敬老行事を開催	委託料の支払い
	白寿高齢者敬老事業	99歳高齢者に対する祝状・記念品の贈呈	保健、医療、福祉の増進	委託	99歳高齢者に対する祝状・記念品の贈呈	委託料の支払い
	街かどデイハウス介護予防事業	高齢者が要介護状態に陥らないため、介護予防知識の普及啓発や、地域における自主的な介護予防活動の育成支援	保健、医療、福祉の増進	委託	市内各施設毎に介護予防活動・趣味活動・給食等の日帰りサービスを提供している	委託料の支払い
	地域住民見守り孤独死防止事業	在宅の一人暮らし高齢者等に対し、地域住民等による定期的な訪問活動及び軽易な日常生活上の援助を行なう	保健、医療、福祉の増進	委託	地域における一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯に、地域住民による定期的な訪問を行い、安否確認や相談、簡易な家事援助等を実施している	委託料の支払い
障がい福祉課	障がい者相談支援事業	地域生活における障がい者やその介護者の支援(福祉サービスの利用相談、介護相談、情報提供、ピアカウンセリング等)を総合的に実施している	保健、医療、福祉の増進	委託	地域生活における障がい者やその介護者の支援(福祉サービスの利用相談、介護相談、情報提供、ピアカウンセリング等)を総合的に実施している	障がい福祉サービスの支給決定等について、相談支援事業所と連携を図る
	八尾市障害者計画ワーキング会議	「障がい者防災」について議論した	保健、医療、福祉の増進	参画	障がい者フォーラム実施に当たって、自らが企画・準備・当日の運営を行う	障がい者フォーラム開催に当たって、会場・備品等の提供。運営全般に関する協力。
	八尾市障害者施策推進協議会	第3期八尾市障害者福祉計画について検討、策定を行った	保健、医療、福祉の増進	参画	推進協議委員として、障がい者基本計画等の進捗把握、及び本市の障がい者施策全般について検討する	協議会の事務局として、議事運営を行う
	八尾市地域自立支援協議会	市内の地域関係機関によるネットワークの構築や困難事例への対応などの障がい者支援のあり方について協議する場を設置した	保健、医療、福祉の増進	参画	市内の地域関係機関によるネットワークの構築や困難事例への対応などの障がい者支援のあり方について協議する	事務局に対して、備品、研修等の提供。協議会本会議には事務局として参加
	障がい者フォーラム	市民の障がい者に対する理解の促進と、障がい者の社会参加の場や情報を提供することを目的として実施した。今回は「障がい者の主張パート4」と銘打ち、日頃の思いを自由に発表するイベントに加え、展示室において防災展を開催した。毎年開催している作業所展では、作業の実演・体験コーナーも設けた	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	障がい者フォーラム実施に当たって、自らが企画・準備・当日の運営を行う	障がい者フォーラム開催に当たって、会場・備品等の提供。運営全般に関する協力。
こども政策課	八尾市次世代育成支援推進委員の会議	八尾市次世代育成支援行動計画(後期計画)の推進について議論した	子どもの健全育成	参画	会議に出席していただき、意見をいただいた	会議での案件の提出
保育課	つどいの広場事業	地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的とした事業	子どもの健全育成	委託	つどいの広場の運営(子育て親子の交流・集いの場の設置、子育てに関する相談・情報提供)	つどいの広場運営に対する側面的支援(スタッフへの講習、子育て支援に関する情報提供)
青少年課	八尾市放課後子ども教室推進事業	放課後の子どもの居場所づくりとして、小学校での文化・スポーツ活動を実施している	子どもの健全育成	委託	地域での放課後子ども教室の実施	委託料の支払。地区代表者会議の開催
	大畑山青少年野外活動センター	八尾市立大畑山青少年野外活動センター管理運営業務委託	施設の管理運営	委託	大畑山青少年野外活動センターの管理運営	指定管理料の支払。施設の修繕
産業政策課	八尾市商業ネットワーク化支援事業システム管理	インターネットを利用した商業情報サイト「八尾あきんどOn-Doネット」の管理委託	情報化社会の発展/経済活動の活性化	委託	サイトを活用し、八尾市内の個店及び商店街・市場等についての情報を得ることで、地域のお店等の利用を進める	ネット環境を持たない小規模事業者に対しても、情報発信の機会を与えることで、地域事業者と消費者とのネットワークづくりを支援する
	地域就労支援センター運営業務	桂・安中人権コミュニティセンター内に就労支援の拠点となる「地域就労支援センター」を設置し地域就労支援コーディネーターによる個別相談業務を実施	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	就労阻害要因を克服し、就労実現のためのコーディネート(NPO)	雇用・就労の実現をベースとした自立支援
	就労・生活相談事業委託業務	市内6ヶ所に各地区担当の相談員を配置するとともに、相談専用電話を設置し、就労を始めとするさまざまな生活上の課題解決に向けて支援を行う	職業能力の開発、雇用機会の拡充	委託	市民が抱えるさまざまな課題の解消に向けたコーディネート(NPO)	就労・生活問題の実情や課題、市民のニーズを把握
	地域通貨活用による地域活性化促進事業	地域通貨を活用して、地域社会、地域商業の活性化を図るために、効果的な手法を検討するための実証実験を行うとともに、市民や市民団体への周知活動等を実施	まちづくりの推進/経済活動の活性化	委託	地域通貨を活用することで、地域社会、地域商業の活性化に寄与する	地域通貨を普及促進するため、関係団体等との連携に向けた調整や広報活動等を行う
	消費者大会	消費生活の安定と向上を目指し、商品についての知識や悪質商法の手口、その他さまざまな情報を発信する	消費者の保護	共催	式典・催し物等の企画立案、来賓等案内状送付、展示物準備、大会進行等	案内状・展示物等準備補助、会場準備撤収作業、大会進行補助等

担当課	事業名	NPOとの協働の状況		協働の方法	協働の役割分担	
		協働の内容	分野		市民等	行政
環境保全課	八尾市生活環境美化事業	まちの美化を発展させるため、住民の自主的な活動を尊重しながら、市民とともに地域一斉清掃やグリーンキャンペーンなどを通して美化活動を推進する	環境の保全	委託	自治振興委員会を始めとした各種団体から本部委員を派遣して頂き、事業計画等を審議して頂いている	事務局として、庶務等を行っている
	いきいき八尾環境フェスティバル	環境パートナーシップ協議会「環境アニメイティッドやお」は、市民、事業者、教育機関、行政との協働により、身近なところから楽しく環境を考える機会として、環境フェスティバルを開催している。平成23年度については「地球にE〜COとしませんか」をテーマとし、地球温暖化防止に向けた啓発活動などを行った	環境の保全	共催	イベントの企画・運営	協議会の事務局として庶務等を行っている
都市政策課	個性豊かな住環境づくり事業	本市在住・在勤者に公平で良質な住情報を提供するとともに、住まいに関する啓発を行うため、展示会、出前住まい講座(住教育)、建築士による相談などを、当該NPO法人と協働で実施	まちづくりの推進	委託	参画 その他	委託
	まちづくり教室	市民自らが地域に目を向け、行政とともに課題に取り組み解決していけるような地域のまちづくりスタッフやリーダーの育成を行うために「まちづくり教室」を開催	まちづくりの推進	委託	参画	委託
生涯学習スポーツ課	郷土文化活動	「郷土八尾」が多くの歴史的文化遺産をもつ地であることを認識し、これを守り育て、社会に広く啓発するとともに後世に伝承する	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	地区生涯学習推進事業	コミュニティーセンター施設を利用して、地域に根ざした生涯学習講座を実施	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	女性教育事業	地域における社会教育活動の推進及び女性の教養と社会的地位の向上を図る	社会教育の推進	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	小中学校施設開放	地域住民の自主的な活動の拠点として、市内全小中学校において学校教育に支障のない範囲で開放を行っている	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	社会体育事務事業(八尾市民体育大会・各種体育大会)	八尾市体育連盟加盟協会が主管団体となり、市民のスポーツ振興に寄与することを目的として実施	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	地区市民スポーツ祭	市民がスポーツを通じて、体力の向上と親睦を図ることを目的として実施している	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	企画運営	委託料支払・成果確認
	生涯学習センター管理運営	生涯学習センターの管理運営	施設の管理運営	委託	生涯学習センターの管理運営	指定管理費の負担 成果確認
	くらし学習館管理運営	くらし学習館の管理運営	施設の管理運営	委託	くらし学習館の管理運営	指定管理費の負担 成果確認
	総合体育館等管理運営	総合体育館等の管理運営	施設の管理運営	委託	総合体育館等の管理運営	指定管理費の負担 成果確認
	屋内プール管理運営	屋内プールの管理運営	施設の管理運営	委託	屋内プールの管理運営	指定管理費の負担 成果確認
小学生軟式野球大会	市内の小学生を対象に、青少年健全育成事業の一貫として、軟式野球を通じ心身の鍛錬と相互の親睦を図ることを目的とする	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	企画運営	委託料支払・成果確認	
八尾図書館	NPO絵本子育てセンター 高梨香寿子氏講演会	子どもゆめ基金助成事業による、市民ボランティア団体との共催行事。児童文学作家の講演を通して、図書館利用の促進と読書活動推進を図ることを目的に、志紀図書館で実施した	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	企画・広報・運営を担当	管理等を担当
	手づくり紙芝居講座・紙芝居まつり・特別展示	山本図書館で毎年開催している連続講座。紙芝居のお話づくり、絵の描き方、完成まで企画・講習を市民ボランティア団体を中心となって実施。講座で作成した紙芝居等を、親子連れを対象に紙芝居まつりで実演披露する。H23は山本図書館15周年記念事業として、「世界にひとつだけの紙芝居」と題し、講座受講者の作品を中心に関連資料の展示を行った	学術、文化、芸術、スポーツの振興	共催	企画・講習・作業を担当	広報・受付・管理等を担当
文化財課	史跡心合寺山古墳の管理運営	史跡心合寺山古墳のガイダンス施設である八尾市立しおんじやま古墳学習館の管理運営	施設の管理運営	委託	NPOの柔軟な発想や機動力を活かした事業提案により、施設の管理運営を実施	モニタリング等を通じて、施設の管理運営が適正に実施されているかを確認
	市指定文化財環山楼公開業務	八尾市の指定文化財となっている建築物の環山楼を水曜日と土曜日に市民に公開する業務	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	NPOの地域性や人的資源を活かし、文化財の公開業務を実施	これまでの文化財の学術成果を反映したパンフレット等を提供
	史跡サイクリングマップデータ作成	史跡散策等のマップのデザインを作成	学術、文化、芸術、スポーツの振興	委託	NPOの専門性と機動力を活かし、史跡のマップを作成	散策ルート上の史跡や文化財の情報を提供
	安中新田会所跡旧植田家住宅の管理運営	八尾市指定文化財の安中新田会所跡旧植田家住宅の管理運営	施設の管理運営	委託	NPOの柔軟な発想や機動力を活かした事業提案により、施設の管理運営を実施	モニタリング等を通じて、施設の管理運営が適正に実施されているかを確認
	埋蔵文化財調査センターの管理運営	文化財施設である埋蔵文化財調査センターの管理運営	施設の管理運営	委託	財団法人の専門性や経験を活かした事業提案により、施設の管理運営を実施	モニタリング等を通じて、施設の管理運営が適正に実施されているかを確認
	歴史民俗資料館の管理運営	文化財施設である歴史民俗資料館の管理運営	施設の管理運営	委託	財団法人の専門性や経験を活かした事業提案により、施設の管理運営を実施	モニタリング等を通じて、施設の管理運営が適正に実施されているかを確認

(2) 今後、市民活動団体と実施していききたい協働について（問2）

- ・今後協働したい内容としては、事務局運営や資料作成、研修業務などがあり、協働相手先の専門性を活用したいという意向が多く見られる。
- ・市民ボランティアによる参画に対する意向もある。

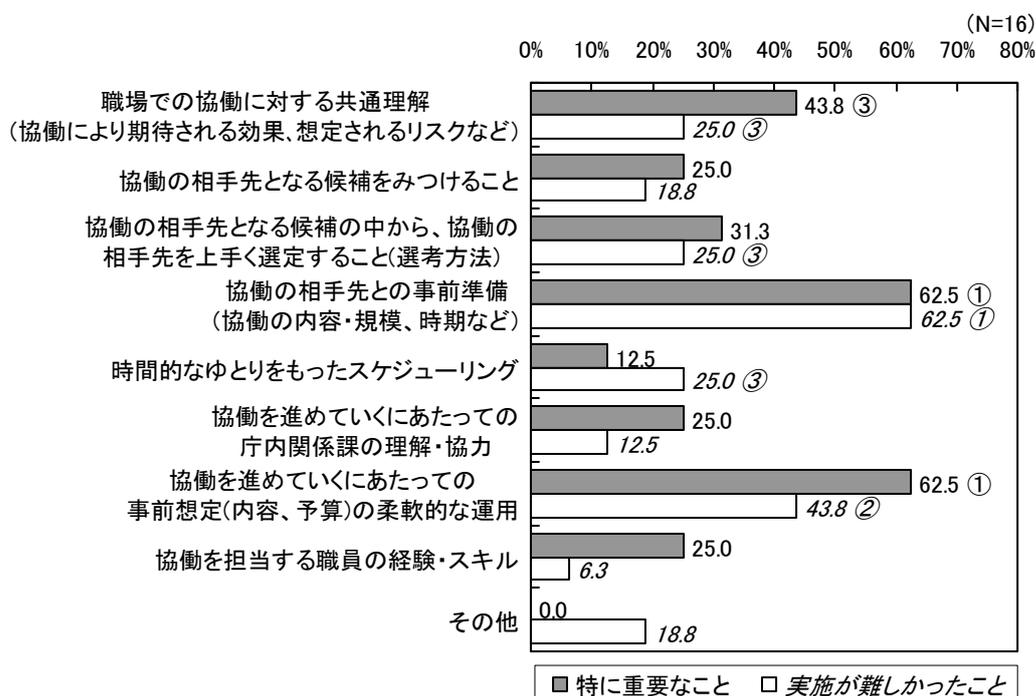
図表 2 今後、市民活動団体と実施していききたい協働(相手先・内容・方法)

回答課	協働の相手先	協働したい内容	協働の方法
人事課 人材育成室	NPO法人	研修内容から、専門的な知識を有する団体に講師を依頼していく可能性がある	委託
人権政策課	人権にかかわる団体	世界人権宣言八尾市実行委員会事務局業務、ひゅーまんフェスタ関係業務、地域人権啓発推進関係アドバイザー業務、差別事象等防止啓発イベントの企画・開催業務など	委託
	人権にかかわる団体	人権啓発推進委員養成研修(年5回)、一日研修会、みんなのしあわせを築く八尾市民集会、地区人権研修事業などの実施	委託
	人権にかかわる団体	人権相談事業、人権啓発事業	参画
	人権にかかわる団体	ひゅーまんフェスタの企画および運営、世界人権宣言パネル展の企画および運営など	共催
文化国際課	NPO法人	八尾市内の戦跡に関する資料の作成	委託
高齢福祉課	ボランティア団体 NPO法人など	講演会の開催や各種相談の実施などにより、セカンドライフの過ごし方を提案することを目的とした「セカンドライフセミナー」開催業務。平成25年度は民間事業者への委託により実施し、平成26年度以降は委託などを想定している	—
子ども政策課	子育てにかかわる団体	子ども・子育て支援に関わる取組を行う個人・団体などから、自ら取組を実施することを前提として事業提案を受ける。市での審査の結果、適当と判断した場合、提案者に委託し事業を行う(次年度より実施予定)	その他
安中 青少年会館	国際交流関係団体	国際理解に関する講座などへの講師派遣	—
環境保全課	NPO法人	地球温暖化対策実行計画に位置づける温暖化防止の対策。環境マネジメントシステムの普及に関する取組。 協働方法:市の保有する環境に関する情報の提供や情報発信の支援	その他
	NPO法人	地球温暖化対策実行計画に位置づける温暖化防止の対策。自然環境に関する環境学習を内容とする事業、アクランドを会場とした環境イベント事業	委託 参画 共催
	NPO法人	地球温暖化対策実行計画に位置づける温暖化防止の対策。省エネ井戸端会議など環境を内容とする事業	委託 参画 共催
文化財課	市民活動団体	今後の高安千塚古墳群の維持管理や案内ガイドなどを担う市民ボランティア	参画

(3) 市民活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと（問3、4）

- ・市民活動団体との協働を進めていく上で特に重要なことをみると、「協働の相手先との事前準備（協働の内容・規模、時期等）」「協働を進めていくにあたっての事前想定（内容、予算）の柔軟的な運用」がそれぞれ62.5%と最も多く、次いで「職場での協働に対する共通理解（協働により期待される効果、想定されるリスク等）」が43.8%となっている。
- ・一方、実施が難しかったことでは、「協働の相手先との事前準備（協働の内容・規模、時期等）」が62.5%と最も多く、次いで「協働を進めていくにあたっての事前想定（内容、予算）の柔軟的な運用」が43.8%となっている。

図表 3 市民活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと（3つまで回答）



※丸数字は上位3位の項目

【「その他」の回答内容】

＜実施が難しかったこと＞

- ・市民活動団体の経験・スキル。
- ・責任分担。
- ・行政も市民団体も、協働の際の役割分担について温度差がある。

(4) 市民活動団体との協働を進めていく上での課題（問5）

- ・協働先の市民団体と市が協働するにあたって、事業に対する相互の認識をしっかりと確認するとともに、委託事業や実行委員会といった形態の場合にも、対等な立場で市民活動団体に協働を意識してもらう必要があるといった意見がある。
- ・協働を推進していくために、契約や予算など、制度面での改善が必要だとされている。
- ・市民活動団体に関する情報を庁内で共有することが求められている。

【協働という意識を持つ必要性】

- 市民・企業・団体との相互理解
 - ・市民・企業・団体と意見交換する場が少ないため、定期的な会議を開き、意見交換を行うことが必要。
 - ・信頼醸成のための相互交流と研修。
- 担ってもらう役割と、市としての位置づけの明確化
 - ・事業実施の認識について違いがないか、事前にきっちり打ち合わせ・確認を行うことが課題。
 - ・協働の形態として委託があるが、委託された団体側はそもそも協働という認識ではなく、あくまで委託された業務を行うという認識しかない。その点を改善していく必要がある。
 - ・市民活動団体との連携においては、果たしていただく役割や市としての位置づけを明確にする必要がある。
 - ・指定管理者として受託している団体との委託を行う際、指定管理者としての業務内容との整理を行う必要がある。
- 対等な立場
 - ・多くの活動団体が参加している実行委員会形式などの場合、事務局の一つである行政が事業実施の主体となりがちであり、市民活動団体と行政が共に主体的に事業を進めていくのが難しい。

【契約や予算など制度面で求められる改善】

- 契約制度
 - ・課題の内容：競争性、透明性を確保するための入札制度であるが、より安い委託料を示すところになりかねず、事業の質が落ちる可能性がある。
→解決のためのアイデア：プロポーザルの実施。
 - ・協働を強く推進していくにあたり、随意契約の特例などの整備がなされると進めやすい。
- 予算制度
 - ・課題の内容：急な備品購入などの要望が多く、早急かつ柔軟な対応が困難である。
→解決のためのアイデア：予算組みの際に、もう少し幅を持たせた予算の積立を行う。
 - ・市民活動団体の活動資金が不足しているため、市民活動団体の取組に対して行政が補助金を交付することが必要。
 - ・市民活動団体は活動資金の問題を抱えている所も多く、補助金や委託のあり方という課題も大きい。

●個人情報の壁

- ・課題の内容：行政が保有する個人情報を委託先に提供できない。
→解決のためのアイデア：個人情報登録時に本人の同意を得る。

●通常の業務時間外（時間外、祝祭日）対応

- ・市民活動団体等との連携は通常業務時間外であることも多く、市の体制的な問題がある（例：フレックスタイム制的なものの検討）。

【市民活動団体に関する情報の共有】

- ・協働していく中で、多くの活動団体が参加している実行委員会形式などの場合、スムーズな情報共有や意見の集約などが難しい場合がある。
- ・市民活動団体の種類や活動内容、連絡先など詳細が検索できるシステムをつくる。
- ・所管課が検討している事業内容に対応できるような市民活動団体の存在がわからない。事業の進捗などの情報を共有できれば、もっと市民団体との協働が進むのではないか。

2. 地域活動団体と行政との協働について

(1) 今後、地域活動団体と実施していきたい協働について（問6）

- ・地域活動団体には、地域の見守り活動やその体制支援への協力が期待されている。
- ・他には地域事情に通じていることを活かした庁内研修への協力や、計画策定への意見聴取などが挙げられている。

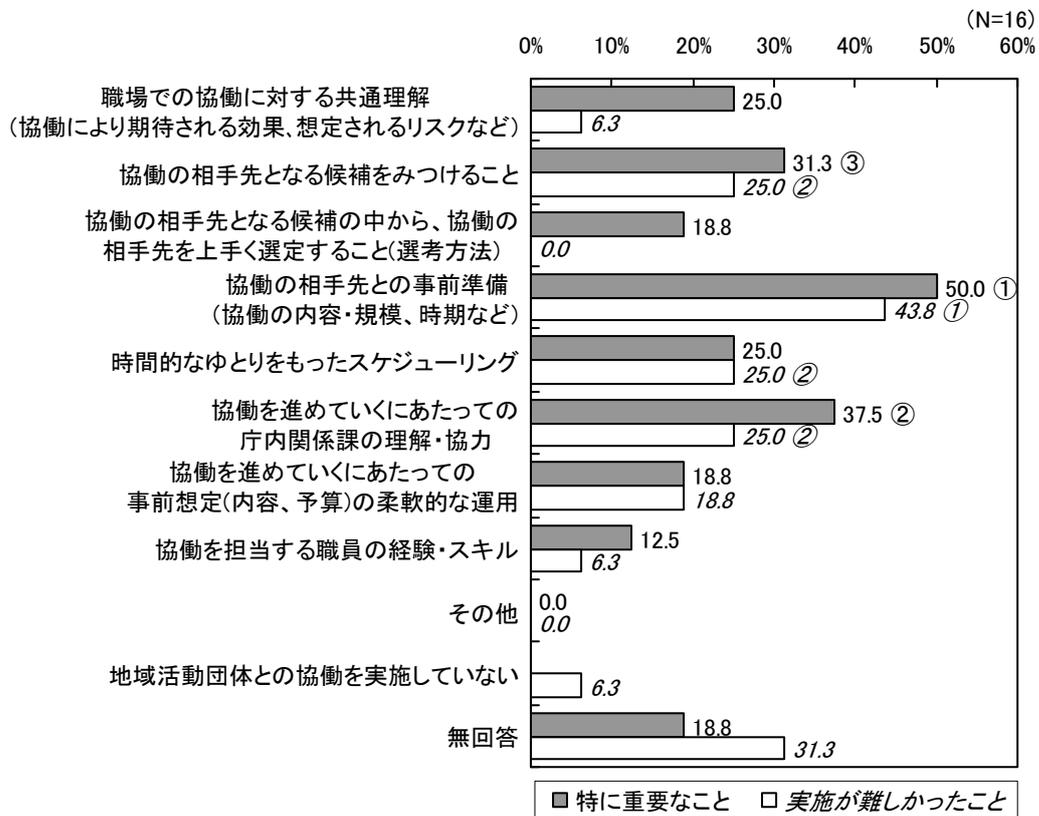
図表 4 今後、地域活動団体と実施していきたい協働(相手先・内容・方法)

回答課	協働の相手先	協働したい内容	協働の方法
人事課 人材育成室	校区まちづくり協議会など	今後のまちづくりにおける協働の研修の中で、可能性として地域の現状を講義してもらうなどが考えられる	参画
文化国際課	総合計画・地域別計画で多文化共生に取り組む校区の地区福祉委員会など	文化国際課所管の施策「多文化共生の推進」は地域別計画にも掲げられており、対象校区の地区福祉委員会が実施している地区人権研修に本市の多文化共生推進研修を取り入れてもらう	共催
高齢福祉課	ボランティア活動団体、NPO団体など	講演会の開催や各種相談の実施などにより、セカンドライフの過ごし方を提案することを目的とした「セカンドライフセミナー」開催業務。平成25年度は民間事業者への委託により実施し、平成26年度以降は委託等を想定している	委託 その他
	地区福祉委員会、自治振興委員会、一人暮らし高齢者の会、地区高齢クラブなど	地域の要援護高齢者を中心とした対象者への見守り活動 認知症サポーター養成講座を受講してもらい、受講生自身がサポーターとなり認知症への理解を深め、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の見守り体制支援へつなげていく	共催 その他
安中 青少年会館	まちづくり協議会や福祉委員会などの地域団体	教室・講座などの昔あそびや人権に配慮した教室開催への協力	—
環境保全課	町会や自治会、子ども会等の地域での活動組織	地球温暖化対策実行計画「チャレンジ80(やお)」に位置づける「省エネ井戸端会議」など、地域におけるコミュニティの場において、環境について語り合う場を設けたい	参画 共催
	校区まちづくり協議会	①八尾市路上喫煙マナー向上推進員の推薦 ②八尾市路上喫煙マナー向上推進員が行う路上喫煙マナー向上のための啓発活動への協力 ③路上喫煙対策重点地域として活動の実施	その他
文化財課	自治振興委員会	高安千塚古墳群の活用計画の意見聴取など	参画

(2) 地域活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと（問7、8）

- ・62.5%が地域活動団体との協働を実施している。
- ・地域活動団体との協働を進めていく上で特に重要なことをみると、「協働の相手先との事前準備（協働の内容・規模、時期等）」が50.0%と最も多く、次いで「協働を進めていくにあたっての庁内関係課の理解・協力」が37.5%、「協働の相手先となる候補を見つけること」が31.3%となっている。
- ・一方、実施が難しかったことでは、「協働の相手先との事前準備（協働の内容・規模、時期等）」が43.8%と最も多く、次いで「協働の相手先となる候補を見つけること」「時間的なゆとりをもったスケジュールリング」「協働を進めていくにあたっての庁内関係課の理解・協力」が25.0%となっている。

図表 5 地域活動団体との協働を進めていく上で特に重要なこと、実施が難しかったこと（3つまで回答）



※丸数字は上位3位の項目

(3) 地域活動団体との協働を進めていく上での課題（問9）

- ・市民活動団体と協働を進めていく上での課題と共通するものが多い。
- ・違いとしては、地域の動きを掴むための情報発信や、助成金手続きの簡素化、施策への意見聴取、市の事業情報の共有などが挙げられている。

【協働という意識を持つ必要性】

- 市民・企業・団体との相互理解
 - ・信頼醸成のための相互交流と研修。
 - ・特定のテーマについて意見をいただく会議は各団体の役員の出席など地域に身近な視点からの意見をもらいにくいいため、地域に根づいた人が参加する会議を開催し、地域の実情や問題などの意見をもらう。
- 担ってもらう役割と、市としての位置づけの明確化
 - ・事業実施の認識について違いがないか、事前にきっちり打ち合わせ・確認を行うことが課題。
 - ・地域活動団体との連携においては、果たしていただく役割や市としての位置づけを明確にする必要がある。

【契約や予算など制度面で求められる改善】

- 活動資金の不足
 - ・課題の内容：活動しようにも活動資金不足である。
→解決のためのアイデア：活動資金の不足を補うために各種助成金の周知を行う。
 - ・地域活動団体は活動資金の問題を抱えている所も多く、補助金や委託のあり方という課題も大きい。
- 助成金を支出する際の手続き
 - ・課題の内容：助成金の支出する際に細かな報告作業や手続きが多い。
→解決のためのアイデア：報告作業や手続き方法については適正な業務を行うために必要であるため、地域活動団体に対して指導を徹底し、会計処理などの講座を行う。
- 通常の業務時間外（時間外、祝祭日）対応
 - ・地域活動団体等との連携は通常業務時間外であることも多く、市の体制的な問題がある（例：フレックスタイム制的なものの検討）。

【人材養成への支援】

- ・課題の内容：地域活動団体において、現在の代表者がその席を退いた際などの人材の不足。
→解決のためのアイデア：地域において人材を養成していくのが当たり前であったが、市でも養成講座を実施する。

【地域活動団体に関する情報の共有】

- ・担当課や地域担当者でないと地域の動きをキャッチしにくいいため、校区まちづくり協議会の活動や成功事例の発信など、「みんなのやお まちづくりかわら版」を今後も拡充してほしい。
- ・地域活動団体の種類や活動内容、連絡先など詳細が検索できるシステムをつくる。
- ・事業関係課と定期的に連絡会議などを行い、市としての方向性を一本化しておく必要がある。

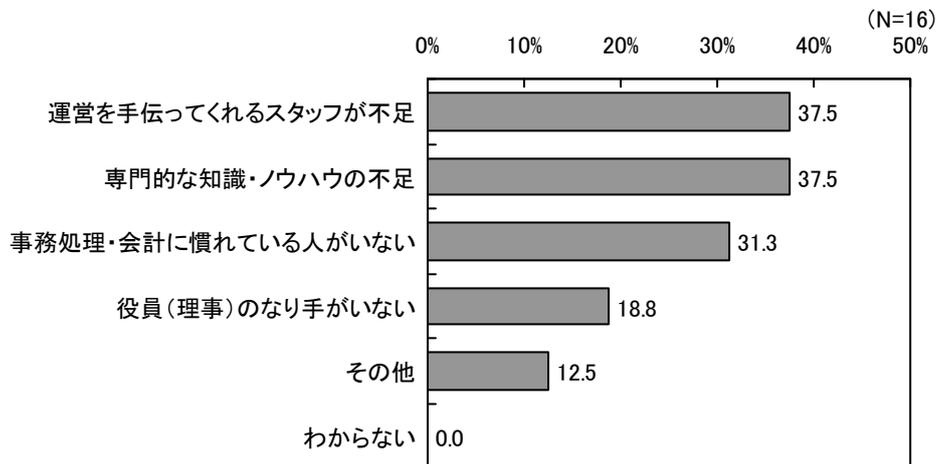
3. 協働の相手先についての認識

(1) 協働の相手先の人材に関する課題（問10）

a) 協働の相手先の人材に関する課題

・「運営を手伝ってくれるスタッフが不足」「専門的な知識・ノウハウの不足」が37.5%と最も多くなっている。

図表 6 協働の相手先の人材に関する課題(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・活動団体名や活動内容などを広く広報する人がない。
- ・協働に向けた取組の周知。

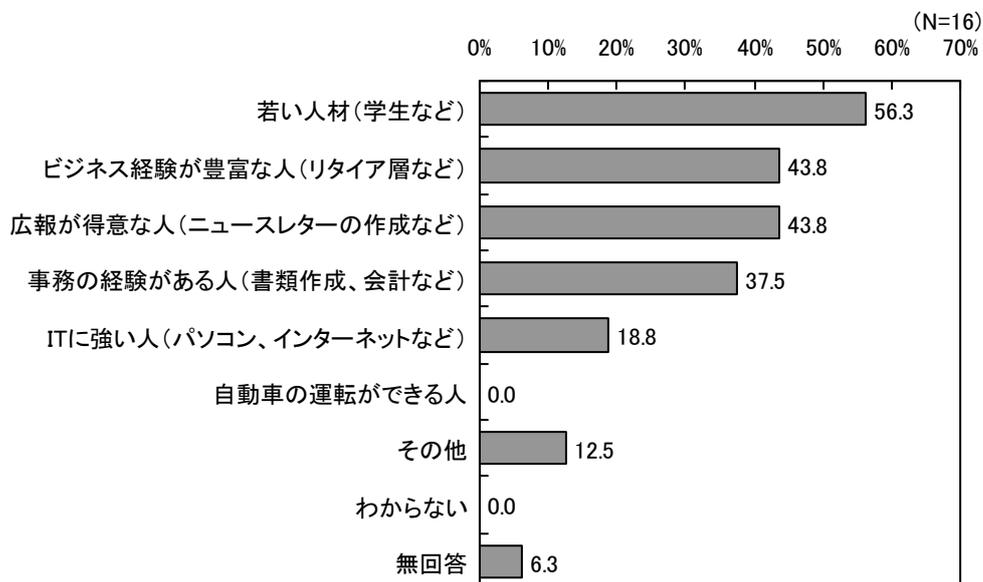
b) 人材に関する課題を解決するために行っている事例

- ・会員同士の交流の機会を持ってないか、検討中。
- ・養成講座の実施。

(2) 市民活動や地域活動に参加するとよいと思う人材（問11）

・「若い人材(学生など)」が56.3%と最も多く、次いで「ビジネス経験が豊富な人(リタイア層など)」「広報が得意な人(ニュースレターの作成など)」が43.8%となっている。

図表 7 市民活動や地域活動に参加するとよいと思う人材(複数回答)



【「その他」の回答内容】

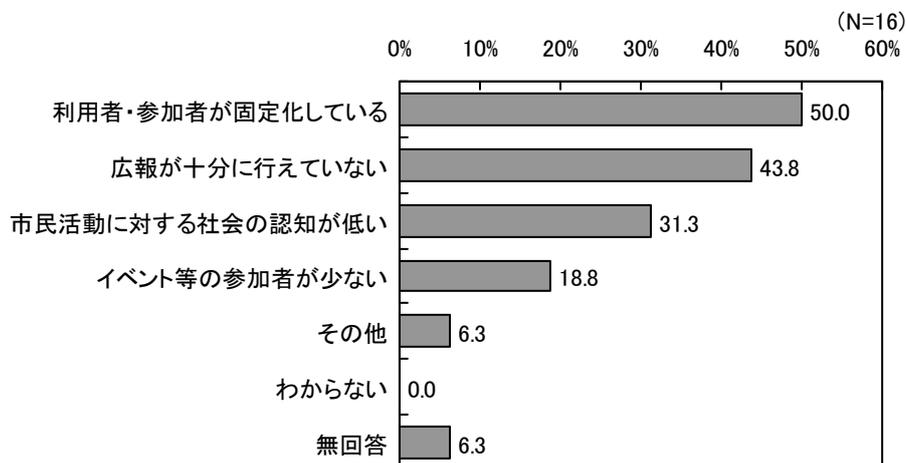
- ・ 取り組み事業に関する豊富な知識および経験。
- ・ 地域の人材。

(3) 協働の相手先の広報や参加者に関する課題（問12）

a) 協働の相手先の広報や参加者に関する課題

・「利用者・参加者が固定化している」が50.0%と最も多くなっている。次いで「広報が十分に行えていない」が43.8%となっている。

図表 8 協働の相手先の広報や参加者に関する課題（2つまで回答）



【「その他」の回答内容】

・より効果的な広報手段の模索および魅力ある事業内容の設定。

b) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている事例

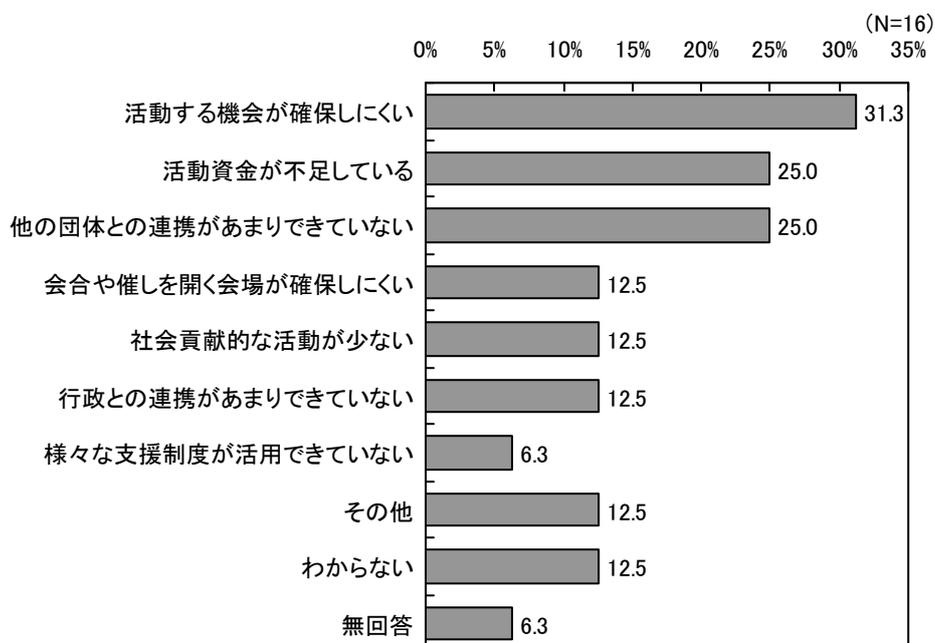
- ・対象者の範囲を広げて、より多くの方に参加してもらえるように取り組んでいる。
- ・地域の自治振興委員会に出席して広報活動を行う、各コミュニティセンターにチラシを置いてもらうなど。

(4) 協働の相手先の団体の運営に関する課題 (問13)

a) 協働の相手先の団体の運営に関する課題

・「活動する機会が確保しにくい」が31.3%と最も多くなっている。次いで「活動資金が不足している」「他の団体との連携があまりできていない」が25.0%となっている。

図表 9 協働の相手先の団体の運営に関する課題(3つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・活動団体名や活動内容などを広報できていない。
- ・人手不足。

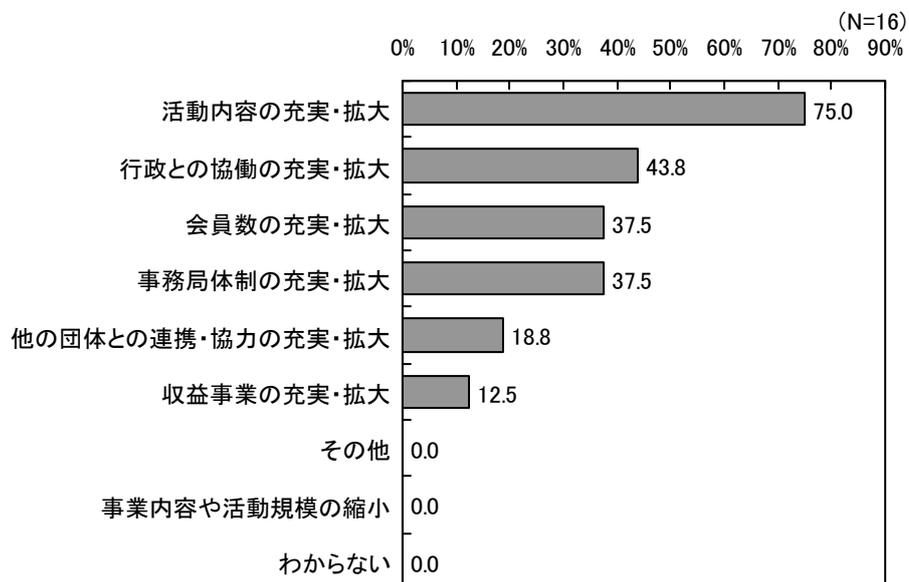
b) 運営に関する課題を解決するために行っている事例

- ・地区自治振興委員会や地域の民生委員に、担当している事業の取組のPRをしている。

(5) 協働の相手先の団体に期待する取組 (問14)

・「活動内容の充実・拡大」が75.0%と最も多く、次いで「行政との協働の充実・拡大」が43.8%となっている。一方、「事業内容や活動規模の縮小」との回答はなかった。

図表 10 協働の相手先の団体に期待する取組 (3つまで回答)



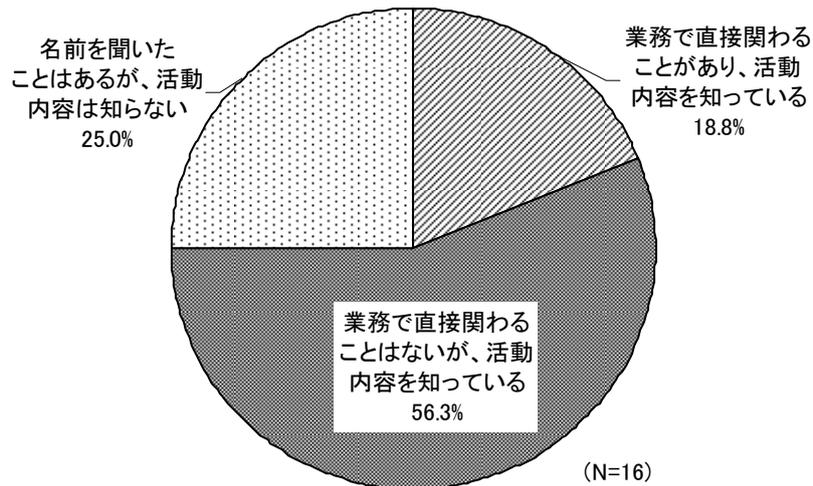
4. 「つどい」への期待・要望

(1) 「つどい」の認知度 (問15、15-1)

a) 「つどい」の認知度 (問15)

・4分の3が「つどい」の活動内容を知っている(「業務で直接関わることもあり、活動内容を知っている」「業務で直接関わることはないが、活動内容を知っている」と回答している。

図表 11 「つどい」の認知度



b) 「つどい」の活動についての印象 (問15-1)

・活発に活動していると評価される一方、関係機関との調整が不足しているといった指摘がある。

・市民活動団体への広報に役立ったという意見がある。

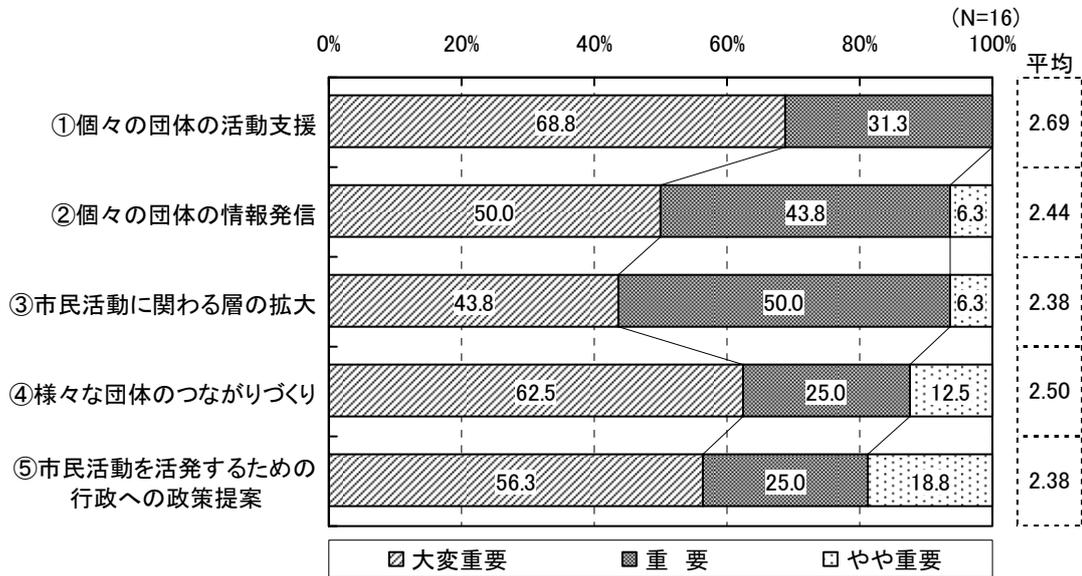
・市民活動の情報提供に対する要望がある。

- ・イベントや講座の開催にあたり全市民を対象としている点や、無料で参加できるよう配慮されている点がよい。
- ・市民活動団体への広報に役立った。
- ・登録団体が多数あり、人材が豊富である。活動が活発であり、さまざまなイベントに参加、開催している。さまざまな場所で機関紙を目にする。関係機関などとの調整が不足する面がある。
- ・市民活動の情報をできるだけ提供して頂きたい。
- ・会議室の提供や印刷機器の利用など、市民活動に非常にありがたい存在である。登録団体数もあり、相互に情報交換を行う環境が整っている。今後、団体と団体の間を取り持つ機能をもっと発揮して欲しい。

(2) 「つどい」が果たす役割の重要度 (問16)

・「①個々の団体の活動支援」の重要度が最も高く、次いで「④様々な団体のつながりづくり」、「②個々の団体の情報発信」の順となっている。

図表 12 「つどい」が果たす役割の重要度

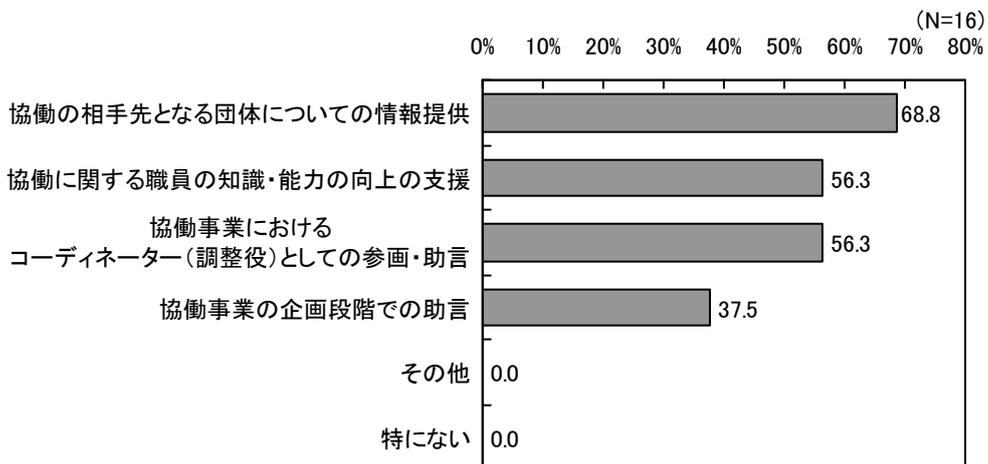


※平均は「大変重要」=+3、「重要」=+2、「やや重要」=+1、「重要ではない」=0とした加重平均値

(3) 「つどい」に期待する役割 (問17)

・「協働の相手先となる団体についての情報提供」が68.8%と最も多くなっている。

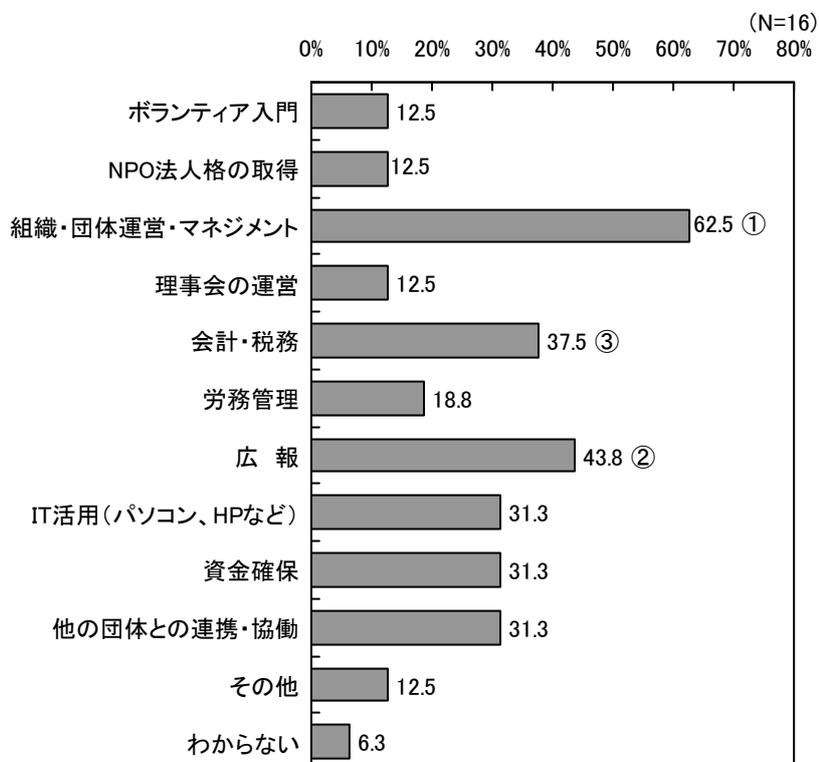
図表 13 協働を進めていくために「つどい」に期待する役割(複数回答)



(4) 協働の相手先が受講するとよいと思うセミナーのテーマ (問18)

・「組織・団体運営・マネジメント」が62.5%と最も多く、次いで「広報」が43.8%、「会計・税務」が37.5%となっている。

図表 14 協働の相手先が受講するとよいと思うセミナーのテーマ(複数回答)



※丸数字は上位3位の項目

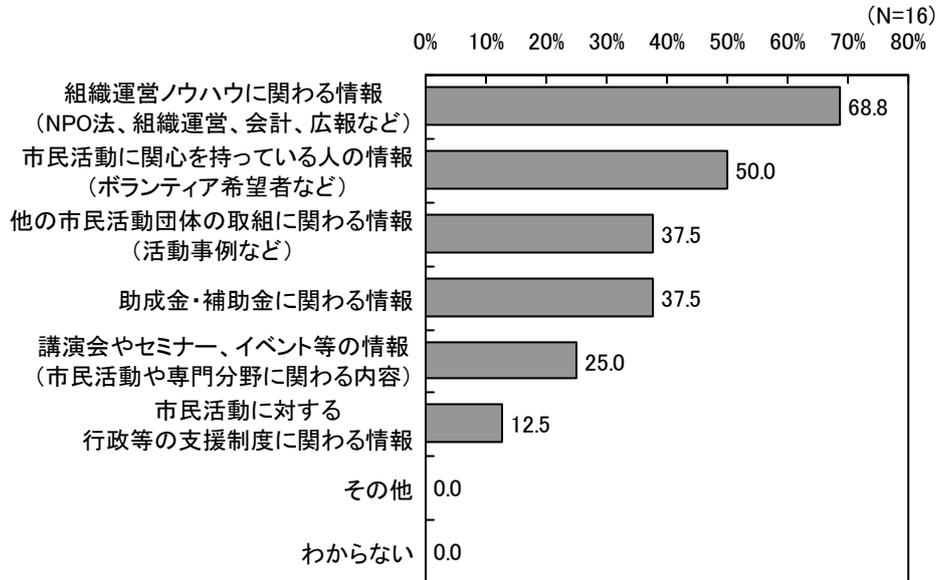
【「その他」の回答内容】

- ・人材育成。
- ・団体の特質により異なる。

(5) 協働の相手先が入手するとよいと思う情報 (問19)

・「組織運営ノウハウに関わる情報(NPO法、組織運営、会計、広報など)」が68.8%と最も多く、次いで「市民活動に関心を持っている人の情報(ボランティア希望者など)」が50.0%となっている。

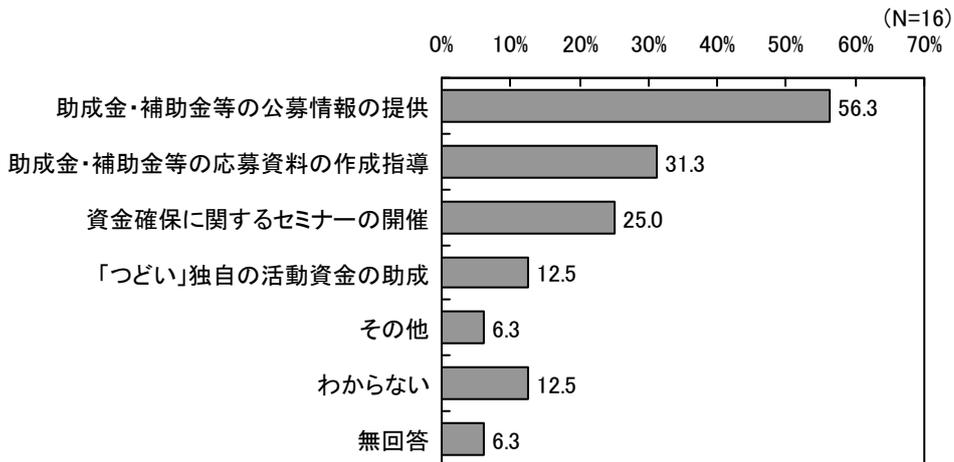
図表 15 協働の相手先が入手するとよいと思う情報(3つまで回答)



(6) 協働の相手先の資金確保の充実のために必要な支援 (問20)

・「助成金・補助金等の公募情報の提供」が最も多く、56.3%を占める。

図表 16 協働の相手先の資金確保の充実のために必要な支援(2つまで回答)



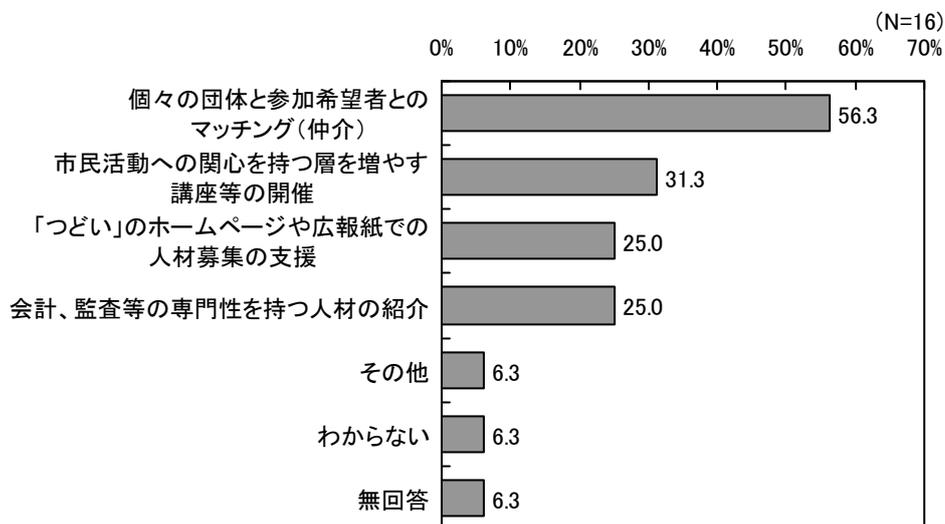
【「その他」の回答内容】

・助成には限界があるため、自主運営の中で寄付制度の充実支援など。

(7) 市民活動の人材育成・確保にあたって必要な支援（問21）

・「個々の団体と参加希望者とのマッチング（仲介）」が56.3%と最も多くなっている。

図表 17 市民活動の人材育成・確保にあたって必要な支援（2つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・地域に埋もれている人材とのマッチング、校区まちづくり協議会と「つどい」との連携。

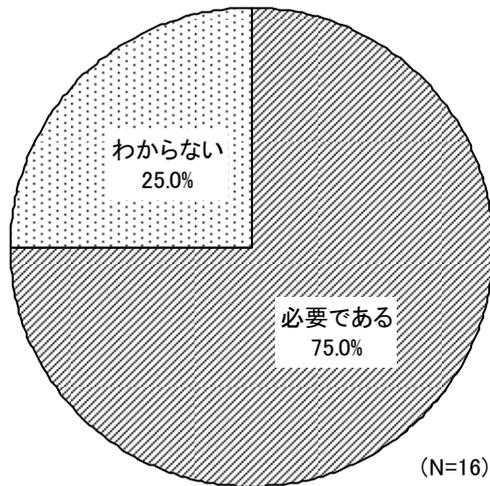
5. 多様な団体との連携・協力について

(1) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力の必要性 (問22、22-1、22-2)

a) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力の必要性 (問22)

・75.0%が「必要である」と回答している。一方、「必要ではない」との回答はなかった。

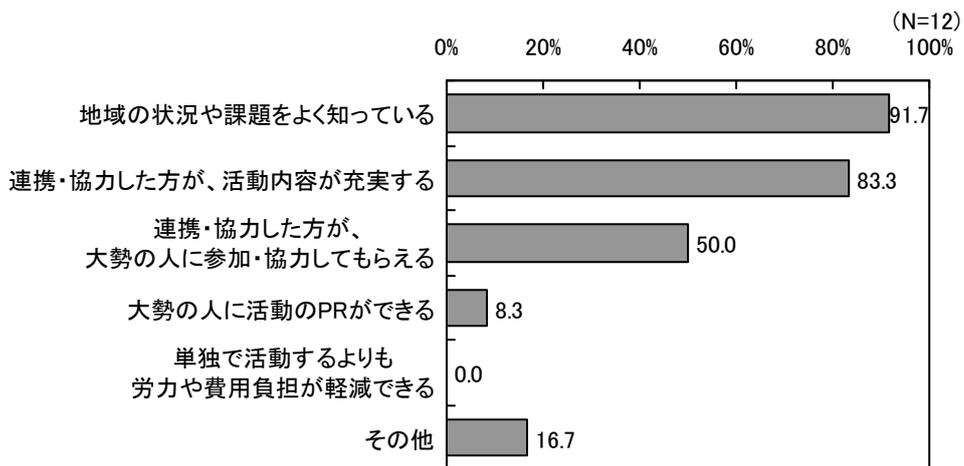
図表 18 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力の必要性



b) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力が必要と考える理由 (問22-1)

・「地域の状況や課題をよく知っている」が最も多く、91.7%を占める。次いで「連携・協力した方が、活動内容が充実する」が83.3%となっている。

図表 19 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力が必要と考える理由
(「必要である」と回答した課ベース、3つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・今後、両団体が同じ方向に向くことが望まれるため、人材含めて交流が必要。
- ・人手が見込める。

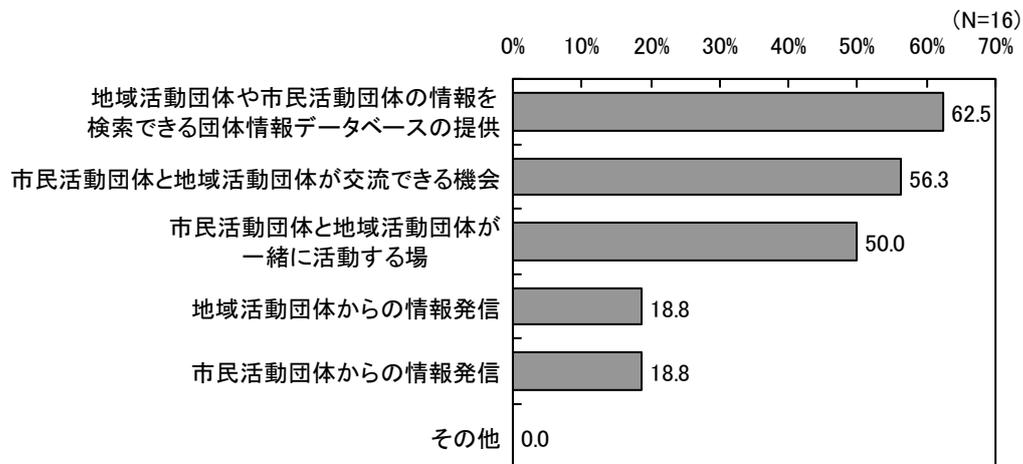
c) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力は必要ではないと考える理由
(問22-2)

(該当なし)

(2) 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力のために必要な取組 (問23)

・「地域活動団体や市民活動団体の情報を検索できる団体情報データベースの提供」が62.5%と最も多く、次いで「市民活動団体と地域活動団体が交流できる機会」が56.3%、「市民活動団体と地域活動団体が一緒に活動する場」が50.0%となっている。

図表 20 市民活動団体と地域活動団体との連携・協力のために必要な取組(3つまで回答)



6. 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見

・「つどい」の取り組みについては知る機会が少なく、積極的な周知が必要と指摘されている。

・現在実施している事業と関連させるのは難しいという意見がある一方で、地域活動の活性化のために、より行政と連携していく必要があるといった意見もある。

・NPOにおける自主財源の確保、寄付制度の行政との連携を含めて資金面での拡充を図り、福祉系大学の卒業生の就職先としての選択肢の一つとして選ばれるぐらいになると、より地域活動が活性化していく。アメリカなどではそのような体制ができしており、NPOの社会における地位が確立され、より行政との連携が進んでいる。

・「つどい」の役割はどれも重要なものではあるが、現状実施している事業と関連させることは難しい。

・「つどい」の取組内容についての研修会の開催や、積極的な周知が必要。

・「つどい」の活動について知る機会が少ないが、今後事業を進めるにあたり、情報収集の手段の一つとして捉えたいと思う。

八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の 充実に向けてのアンケート

市民ふれあい課では、第5次総合計画におけるまちづくりの目標6「みんなでつくる八尾」の実現に向けて、行政と市民活動団体（ボランティア・NPO等）、地域活動団体（校区まちづくり協議会、自治振興委員会、地区福祉委員会等）との協働を拡げていくため、八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の充実に向けて検討を進めています。

ご多忙とは存じますが、ご回答をよろしくお願ひいたします。

回答課名	
担当者名	
内線	

市民活動団体と行政との協働についてお聞かせください

問1 貴課で実施されている協働の取組について、成果や課題をお聞かせください。

ご回答は別紙（エクセルシート）に例を参考にさせていただきます。

※別紙（エクセルシート）は、今年7月に実施した「NPOとの協働の状況」調査の結果をもとに作成しています。調査の対象とする協働の手法は、委託、参画、共催、その他としています。

問2 今後、貴課において、市民活動団体と実施していきたい協働（委託、参画、共催、その他）について、お考えやアイデアをお聞かせください。

	協働の相手先	協働したい内容	協働の方法
①			1. 委託 2. 参画 3. 共催 4. その他
②			1. 委託 2. 参画 3. 共催 4. その他
③			1. 委託 2. 参画 3. 共催 4. その他

(すべての課がお答えください)

問3 市民活動団体との協働を進めていく上で、特に重要なことは何でしょうか。(○印は3つまで)

- | |
|--|
| 1. 職場での協働に対する共通理解 (協働により期待される効果、想定されるリスク等) |
| 2. 協働の相手先となる候補を見つけること |
| 3. 協働の相手先となる候補の中から、協働の相手先を上手く選定すること (選考方法) |
| 4. 協働の相手先との事前準備 (協働の内容・規模、時期等) |
| 5. 時間的なゆとりをもったスケジューリング |
| 6. 協働を進めていくにあたっての庁内関係課の理解・協力 |
| 7. 協働を進めていくにあたっての事前想定 (内容、予算) の柔軟的な運用 |
| 8. 協働を担当する職員の経験・スキル |
| 9. その他 () |

問4 市民活動団体との協働を進めていく上で、実施が難しかったと思われたことは何でしょうか。(○印は3つまで)

- | |
|--|
| 1. 職場での協働に対する共通理解 (協働により期待される効果、想定されるリスク等) |
| 2. 協働の相手先となる候補を見つけること |
| 3. 協働の相手先となる候補の中から、協働の相手先を上手く選定すること (選考方法) |
| 4. 協働の相手先との事前準備 (協働の内容・規模、時期等) |
| 5. 時間的なゆとりをもったスケジューリング |
| 6. 協働を進めていくにあたっての庁内関係課の理解・協力 |
| 7. 協働を進めていくにあたっての事前想定 (内容、予算) の柔軟的な運用 |
| 8. 協働を担当する職員の経験・スキル |
| 9. その他 () |

問5 市民活動団体との協働を進めていくうえで、今の市役所の制度・仕組み・体制等の課題を3点あげてください。

	課題のタイトル	課題の内容・解決のためのアイデア
①		
②		
③		

問 13 協働の相手先の団体の運営に関して、どのような課題があると思いますか。(○印は3つまで)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 会合や催しを開く会場が確保しにくい | 6. 他の団体との連携があまりできてない |
| 2. 活動する機会が確保しにくい | 7. 様々な支援制度が活用できていない |
| 3. 社会貢献的な活動が少ない | 8. その他 () |
| 4. 活動資金が不足している | 9. わからない |
| 5. 行政との連携があまりできていない | |

↓課題を解決するために行っている事例をご存じであればご紹介ください

問 14 協働の相手先の団体には、今後、どのようなことに力を入れて取り組むことが期待されますか。

(○印は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 収益事業の充実・拡大 | 6. 事務局体制の充実・拡大 |
| 2. 会員数の充実・拡大 | 7. その他 () |
| 3. 活動内容の充実・拡大 | 8. 事業内容や活動規模の縮小 |
| 4. 行政との協働の充実・拡大 | 9. わからない |
| 5. 他の団体との連携・協力の充実・拡大 | |

**市民活動支援ネットワークセンター「つどい」では機能強化を目指しています。
～どのようなサービスの充実が望まれるか、ご意見をお聞かせください～**

問 15 市民活動支援ネットワークセンター「つどい」がどのような活動をしているかご存知ですか。(○印は1つ)

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. 業務で直接関わることもあり、活動内容を知っている | →問 15-1 へ |
| 2. 業務で直接関わることはないが、活動内容を知っている | |
| 3. 名前を聞いたことはあるが、活動内容は知らない | |
| 4. 名前を聞いたこともない | |

問 15-1 「つどい」の活動についての印象（良かった点、改善すべき点など）をお聞かせください。

(すべての課がお答えください)

問 16 市民活動支援ネットワークセンター「つどい」が果たす役割として、次に示す①～⑤の役割はどの程度重要と思われますか。(項目ごとに○印は1つずつ)

	大変重要	重要	やや重要	重要でない
<記入例>	①	2	3	4
①個々の団体の活動支援 (情報提供、相談、研修、資金確保支援など)	1	2	3	4
②個々の団体の情報発信 (団体の活動紹介、活動の表彰など)	1	2	3	4
③市民活動に関わる層の拡大 (ボランティアの育成など)	1	2	3	4
④様々な団体のつながりづくり (協働のコーディネートなど)	1	2	3	4
⑤市民活動を活発するための行政への政策提案	1	2	3	4

問 17 貴課において、今後、協働を進めていくために「つどい」に期待される役割をお聞かせください。
(○印はいくつでも)

1. 協働の相手先となる団体についての情報提供 2. 協働に関する職員の知識・能力の向上の支援 3. 協働事業の企画段階での助言 4. 協働事業におけるコーディネーター(調整役)としての参画・助言 5. その他() 6. 特にない

「つどい」の今後の事業展開にあたっての参考として、ご意見をお聞かせください。

A:セミナーや相談について

問 18 協働の相手先には、どのようなテーマのセミナーを受講するとよいと思われますか。(○印はいくつでも)

1. ボランティア入門 2. NPO法人格の取得 3. 組織・団体運営・マネジメント 4. 理事会の運営 5. 会計・税務 6. 労務管理	7. 広報 8. IT活用(パソコン、ホームページ等) 9. 資金確保 10. 他の団体との連携・協働 11. その他() 12. わからない
--	---

B:活動にあたって必要となる情報や情報発信について

問 19 協働の相手先には、どのような情報を入手するとよいと思われますか？（○印は3つまで）

1. 他の市民活動団体の取組に関わる情報（活動事例など）
2. 市民活動に関心を持っている人の情報（ボランティア希望者など）
3. 講演会やセミナー、イベントなどの情報（市民活動や専門分野に関わる内容）
4. 市民活動に対する行政等の支援制度に関わる情報
5. 助成金・補助金に関わる情報
6. 組織運営ノウハウに関わる情報（NPO法、組織運営、会計、広報など）
7. その他（ ）
8. わからない

C:活動にあたっての必要となる資金の確保について

問 20 協働の相手先の資金確保を充実するため、どのような支援をすればよいと思われますか。

（○印は2つまで）

1. 助成金・補助金等の公募情報の提供
2. 助成金・補助金等の応募資料の作成指導
3. 資金確保に関するセミナーの開催
4. 「つどい」独自の活動資金の助成
5. その他（ ）
6. わからない

D:市民活動に関わる人材の育成について

問 21 市民活動の人材育成・確保にあたって、どのような支援をすればよいと思われますか。

（○印は2つまで）

1. 市民活動への関心をもつ層を増やす講座等の開催
2. 個々の団体と参加希望者とのマッチング（仲介）
3. 「つどい」のホームページや広報紙での人材募集の支援
4. 会計、監査などの専門性を持つ人材の紹介
5. その他（ ）
6. わからない

多様な団体との連携・協力について、ご意見をお聞かせください。

問 22 市民活動団体と、地域活動団体（自治振興委員会、地区福祉委員会、校区まちづくり協議会（現在は設立準備会）等）との連携・協力は必要だと思いますか。（○印は1つ）

1. 必要である → 問 22-1 へ
2. 必要ではない → 問 22-2 へ
3. わからない

問 22-1 市民活動団体と、地域活動団体との連携・協力が必要と考える理由をお聞かせください。
（○印は3つまで）

1. 連携・協力した方が、活動内容が充実する
2. 地域の状況や課題をよく知っている
3. 連携・協力した方が、大勢の人に参加・協力してもらえる
4. 大勢の人に活動のPRができる
5. 単独で活動するよりも労力や費用負担が軽減できる
6. その他（)

問 22-2 「必要ではない」と考える理由をお聞かせください。

（すべての方がお答えください）

問 23 今後、市民活動団体と地域活動団体と連携・協力していくためには、どのような取組が必要と思われるですか。（○印は3つまで）

1. 地域活動団体からの情報発信
2. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）からの情報発信
3. 地域活動団体や市民活動団体の情報を検索できる団体情報データベースの提供
4. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）と地域活動団体が交流できる機会
5. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）と地域活動団体が一緒に活動する場
6. その他（)

市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関してご意見をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。11月 日（月）中に市民ふれあい課にご提出ください。

八尾市市民活動ネットワークセンター
「つどい」の充実に向けて
【他都市の中間支援組織における取組事例】

(1) 情報収集・情報発信

◆団体データベースの作成・提供

活動事例	概要
市内NPO法人の情報提供 (堺市市民活動コーナー)	市内のNPO法人の情報をホームページで提供している。 (項目) 団体名、設立年月日、主たる事務所の所在地、目的、活動分野、団体ホームページのURL ----- (URL) http://www.sakai-npo.jp/shinai/shinai.html
センター登録団体の情報提供 (八王子市市民課同センター)	センター登録団体の情報をホームページで提供している。 (項目) 団体名、連絡先、活動内容、活動地域、会員数、会費、活動日、会報誌、団体のホームページのURLなど ----- (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/802_library/index.html

◆ニュースレターの発行

活動事例	概要
市民活動支援情報紙 (堺市市民活動コーナー)	市民活動に関わる情報を掲載した「市民活動支援情報紙 “I ☆ねっと de さかい”」を月1回発行している。 ----- (URL) http://www.sakai-npo.jp/jouhou/jouhou.html
みのお市民活動センターニュース (みのお市民活動センター)	みのお市民活動センターでのイベント・講座の紹介や、市民活動に関する様々な情報を掲載したニュースレターを年3回発行している。 ----- (URL) http://www.shimink.jp/news/news.html

◆メールマガジンの発行

活動事例	概要
堺市市民活動コーナー発メールマガジン (堺市市民活動コーナー)	市民活動に関わる情報をメールマガジン “I ☆めーる de さかい” として登録者に月2回配信している。 (項目) 市内イベント情報、他市イベント情報、助成金情報、自主事業の予定(相談、交流会、講座)、 ----- (URL) http://www.sakai-npo.jp/ml/ml-backh24.html

◆表彰

活動事例	概要
市民活動アワード (仙台市市民活動サポートセンター)	市民活動や企業の社会貢献活動を表彰する「市民活動アワード」を開催。社会や地域に変化をもたらした活動・エピソードを募集し、発表会の参加者と審査員による投票で決定する。 ----- (URL) http://www.sapo-sen.jp/award

(2) 個々の団体の公益的な活動の支援

◆必要としている情報の提供

活動事例	概要
手引き・書式等のダウンロード (堺市市民活動コーナー)	手引き・書式等をホームページで提供している。 (内容) NPO法人の設立及び運営 認定・仮認定NPO法人の設立及び運営 (URL) http://www.sakai-npo.jp/shinsei/shinsei.html
ダウンロードコーナー (みのお市民活動コーナー)	書式等をホームページで提供している。 (内容) 夢の実支援金(みのお市民活動支援金)書類 会則見本 (URL) http://www.shimink.jp/help/download.html

◆相談

活動事例	概要																		
NPO個別相談 (堺市市民活動コーナー)	法人設立や運営についての相談を随時行っている。専門家による相談も行っている。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> <th>相談員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>税務・会計</td> <td>団体の会計・税務</td> <td>税理士</td> </tr> <tr> <td>登記</td> <td>設立時・変更時の登記等</td> <td>司法書士</td> </tr> <tr> <td>福祉</td> <td>福祉・介護保険事業者指定</td> <td>行政書士</td> </tr> <tr> <td>労務</td> <td>労務管理及び雇用保険助成金</td> <td>社会保険労務士</td> </tr> <tr> <td>設立・運営</td> <td>NPO法人設立・運営上の書類</td> <td>行政書士</td> </tr> </tbody> </table> (URL) http://www.sakai-npo.jp/soudan/soudan.html	項目	内容	相談員	税務・会計	団体の会計・税務	税理士	登記	設立時・変更時の登記等	司法書士	福祉	福祉・介護保険事業者指定	行政書士	労務	労務管理及び雇用保険助成金	社会保険労務士	設立・運営	NPO法人設立・運営上の書類	行政書士
項目	内容	相談員																	
税務・会計	団体の会計・税務	税理士																	
登記	設立時・変更時の登記等	司法書士																	
福祉	福祉・介護保険事業者指定	行政書士																	
労務	労務管理及び雇用保険助成金	社会保険労務士																	
設立・運営	NPO法人設立・運営上の書類	行政書士																	

◆講座・セミナー

活動事例	概要
NPO実務まごのて講座 (堺市市民活動コーナー)	NPOの実務についての講座を開催している。 (テーマ) 事業報告書作成、決算書作成、会計基礎・税務、収益事業を行う団体向け会計・税務 (URL) http://www.sakai-npo.jp/kouza/houkokuh.html
組織活力アップ講座 (市民活動推進センターららポート(生駒市))	NPOの組織活力アップのための講座を開催している。 (テーマ) 補助金・助成金申請のための魅力的な事業企画書の作り方講座 ボランティア・NPOのための会計入門講座 効果的なチラシをつくる プロが教える!活動紹介PRビデオ作成のコツ (URL) http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/01400/05/04.html

活動事例	概要
夢創造人養成講座 (浜松市市民協働センター)	地域の市民活動団体を実践ながら広い視野を持ち、ほかの団体や行政、民間企業との間に立って支援ができる人材を育成するために実施。2012年は、浜名湖地域を養成講座のステージと定め、浜名湖地域の住民と受講者の交流を実施するとともに、浜名湖地域内の市民団体が、他の区で活躍できる機会なども模索する(8回連続講座)。 (URL) http://www.machien-hamamatsu.jp/dream2012/index.html

◆財源獲得の支援

活動事例	概要
助成金等の募集情報 (堺市市民活動コーナー)	ホームページで助成金等の募集情報を提供している。 (URL) http://www.sakai-npo.jp/josei/josei.html
プレゼンテーション講座 (公益活動支援センター(河内長野市))	河内長野市市民公益活動支援補助金に申請予定の団体を対象に、PR力・説得力のあるプレゼンテーションの技術を学ぶための講習会を開催。 (URL) http://www.looplaza-kawachinagano.jp

◆ボランティア募集の支援

活動事例	概要
ボランティア募集情報の発信 (八王子市市民活動センター)	市民活動団体が必要としているボランティアの情報をホームページで発信している (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/yumeori/invite_list.html
サポーター情報誌 (みのお市民活動センター)	箕面市内で活動するNPOのボランティアスタッフの募集情報を掲載した冊子を作成し、市民の参加のきっかけを提供している。 (URL) http://www.shimink.jp/top_img/infobook/jyohoushi2012_vol2.pdf#view=FitV
市民活動サポート登録制度 (みのお市民活動センター)	みのお市民活動センターでは、市民活動をサポートしたい人を登録し、サポートして欲しい団体とつないでいる。 (URL) http://www.shimink.jp/top_img/infobook/jyohoushi2012_vol2.pdf#view=FitV
学生ボランティアの募集 (市民活動推進センターららぽーと(生駒市))	ボランティアを行う学生を募集し、市内のボランティア団体につないでいる。 (URL) http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/01400/05/documents/0117.pdf

◆物品調達の支援

活動事例	概要
ゆめおりファンド物品希望リスト (八王子市市民活動センター)	市民活動団体が活動をより発展させるため、又は新たな事業展開を図るために必要としている物品の募集情報をホームページで発信している。 (URL) http://www.shimink.jp/top_img/infobook/jyohoushi2012_vol2.pdf#view=FitV

◆情報発信の支援

活動事例	概要
NPO情報メール便 (堺市市民活動コーナー)	堺市市民コーナーが毎月資料送付している 350 団体に、希望する団体のチラシやリーフレットを同封するサービスをしている。 (URL) http://www.sakai-npo.jp/press/press.html
マスコミ等の連絡先の情報提供 (八王子市市民活動センター)	市民活動団体の広報活動を支援するため、新聞各社、ミニコミ誌等の連絡先をホームページで情報提供している (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/support/public.html

◆コミュニティビジネスやソーシャルビジネスの支援

活動事例	概要
コミュニティビジネス相談窓口 (福岡市NPO・ボランティア交流センター)	コミュニティビジネスについて起業準備、組織運営まで幅広く相談に応じている。 (テーマ) コミュニティビジネスの起業、経営等に関する相談 コミュニティビジネスに関する情報提供 (URL) http://www.fnvc.jp/know/consult.html

◆市民活動の活性化に向けた自主財源確保の仕組みづくり

活動事例	概要
新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業 (三重県)	四日市NPOセクター会議(四日市NPO協会に改組)が、四日市県民センター管内を対象とする「市民活動サポートバンク」創設を提案。その成果を受けて、「一般財団法人ささえあいのまち創造基金」が市民の力で設立された。「資金の寄付」以外にも物品の寄贈(モノバンク)や知識・技能の提供(人財ポケット)などの支援も受け付けている。 (URL) http://mie-ssb.jp/
夢の実支援金 (みのお市民活動センター)	地域課題に取り組む市民の活動を支援するため、市民活動団体やNPO、自治会、地域団体などの非営利団体が実施する公益的活動を対象に助成金を交付している。 (URL) http://www.shimink.jp/help/shienkin.html

(3) 公益的な活動への参加支援

◆基礎情報の提供

活動事例	概要
市民活動啓発誌 (堺市市民活動コーナー)	NPOについて、対談や問答形式でわかりやすく解説した冊子「NPOって何？」を作成し、無料配布している。 (URL) http://www.sakai-npo.jp/np/np.html
ボランティア活動の紹介冊子 (市民公益活動支援センター(河内長野市))	河内長野市を中心としたボランティア・市民活動の情報をまとめた冊子「はじめてみませんか」を毎年作成・更新している。「生涯学習情報システム」としてwebでも情報提供されており、市民がいつでも検索できるようにしている。 (URL) http://www.sakai-npo.jp/np/np.html

◆参加のきっかけづくり

活動事例	概要
市民公益活動入門講座 (市民活動推進センターららポート(生駒市))	ボランティアなどNPO活動を始めるきっかけづくりとして入門講座を開催している。 (テーマ) 子どもの心をケアするー東日本大震災におけるNPOの取組から地域で子育て支援 今、私たちにできること (URL) http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/01400/05/05.html
市民活動スタートアップ講座 (浜松市市民協働センター)	市民活動を行っている方やこれから活動を始めようとしている人を対象として連続講座を開催している。 (内容) 第1回「市民協働って何？」 第2回 協働事例の視察 第3回 特別講演会「企業のCSRを学ぶ」(オープン講座) (URL) http://www.machien-hamamatsu.jp/startup2012/index.html
お父さんお帰りなさいパーティー (お父さんお帰りなさいパーティー実行委員会(船橋市))	団塊の世代やこれから定年を迎えるシニア世代の方に地域活動などを始めるきっかけづくりとしていただくために“お父さんお帰りなさいパーティー”を開催。地域で活動している様々な団体を、ツアーガイドが先導して参加者に紹介する。 (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/yumeori/invite_list.html

◆体験機会の提供

活動事例	概要
ボランティア体験・見学プログラム (公益活動支援センター(河内長野市))	ボランティアをしてみたい、ボランティアに興味があるが、どんなことをするのだろうかとお思いの方たちや子供さん向けに、毎年、7月末から9月初にかけて、ボランティア体験・見学プログラムを開催している。 (URL) http://www.looplaza-kawachinagano.jp/
ふなばし秋の市民活動体験フェア (船橋市、船橋市市民活動サポートセンター)	市民活動グループが集まって日頃の活動をPR。参加者は興味がある活動にはその場で体験の申し込みができる。 (URL) http://www.city.funabashi.chiba.jp/kurashi/community/0002/p017186.html

(4) 多様な主体間の連携・協力促進 交流会、コーディネート、マッチング、

◆情報提供

活動事例	概要
堺市内NPOこんなことができますリスト (NPO法人SEIN(サイン))	NPOと行政等との協働を拡大していくため、NPOからの情報発信ツールとして作成している。 (内容) 連携内容、行政との協働実績、具体的に協働したい事業等 (URL) http://sakai-comcom.net/?page_id=1906
町会・自治会との協働事例の紹介 (八王子市市民活動センター)	町会・自治会と市民活動団体との協働による取り組みや、地域での独自性のある活動をホームページで情報提供している。 (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/citizens/kyodo.html

◆交流・マッチング

活動事例	概要
市民活動☆交流かふえ (堺市市民活動コーナー)	堺市内で活動している人をゲストに迎え、活動の趣旨や目的、現在の活動内容、めざしていることなどを聞き、その話とともに交流する場を設けている。 (URL) http://www.sakai-npo.jp/kouza/houkoku_kouryu.html
NPO八王子会議 (八王子市NPOパワーアップ事業実行委員会)	地域課題解決のため、様々な市民セクターが新たなステージに向かう気づきと学びの場を提供するもの。 (URL) http://www.shiencenter-hachioji.org/news/detail.html?q=nw130124-114131

活動事例	概要
協働相談 (仙台市市民活動サポートセンター)	NPOと仙台市との協働を推進するため「こらぼん協働相談所」を開設(随時)。協働に関するさまざまな相談にサポートセンター指定管理者と仙台市市民協働推進課が対応する。 ----- (URL) http://www.sapo-sen.jp/kyodo-soudan
パートナーシップミーティング (浜松市市民協働センター)	市民団体や企業、行政が対等な立場で協働し、現在の事業の発展や新規事業を始めたりするためのパートナーを探すキッカケを提供するアイデア発表会や、CSRに積極的に取り組む企業の紹介、市民団体の活動の紹介、助成金の紹介などの場として「パートナーシップミーティング」を開催している。 ----- (URL) http://www.machien-hamamatsu.jp/2012partnershipmeeting/index.html

(5) 多様な活動主体による公益的な活動の活性化に向けての取り組みの検討

活動事例	概要
協働事例から行政の仕組みを学ぶ (堺市市民活動コーナー)	行政と市民の協働事例の取り組みを紹介していただき、「市民と行政との協働」「行政の仕組み」「市民の役割」などについて意見交換した。 ----- (URL) http://www.sakai-npo.jp/kouza/kouza_mane.html

■中間支援組織のあり方検討に関するアンケート調査

平成25年（2013年）3月発行

発行者：八尾市 人権文化ふれあい部 市民ふれあい課

〒581-0003 大阪府八尾市本町一丁目1番1号

電話：072-924-3827 F A X：072-992-1021

電子メール：fureai@city.yao.osaka.jp

刊行物番号 H24-175

